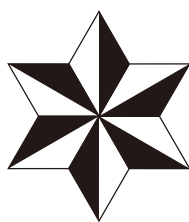




To the next century!

《 次の100年へ 》

平成17年度～平成26年度



平成27年 4 月

福岡県立修猷館高校ラグビー部

關 魂



30年ぶりの晴れ舞台。第9回全国高校選抜大会で颯爽と入場行進する
平成20年4月、埼玉・熊谷ラグビー場で



1年早く誕生した福中・福高ラグビー部との初対戦は創部間もない大正14（1925年）年4月17日、零封負けだった。90周年式典からちょうど90年前の同月29日、2回目の対戦も敗れたが、記念すべき初トライを挙げ修猷ラグビー史は始まる。好敵手の存在なくして、今日はなかった。

目次

1 ご挨拶 おめでとう90周年

「新任期」への伝承

OBクラブ会長 安部 直幸……………1

(昭和41年卒)

グッドウィナー、グッドルーザーを育てる

福岡県立修猷館高校 第30代館長 奥山 訓近……………2

目指す方向は不変

OBクラブ名誉会長 柴田 忠敏……………3

(昭和32年卒)

2 歴代主将からのメッセージ (平成18年卒～27年卒)

史上最多の仲間たち 平成18年卒 主将 山口 和也……………5

(日立製作所)

達成感より後悔 平成19年卒 主将 平松 達弥……………6

(三井住友銀行)

格好いい人間に 平成20年卒 主将 農塚 頼史……………7

(西日本シティ銀行)

30年ぶりの「全国大会」 平成21年卒 主将 飯田 吉貴……………8

(トヨタ自動車)

初蹴りに大集合！ 平成22年卒 主将 下川 桂嗣……………9

(RKB毎日放送)

代表2枠を目指し 平成23年卒 主将 古城 智也……………10

(大分大学)

きっかけとその後 平成24年卒 主将 東 哲平……………11

(長崎大学)

一生の友と 平成25年卒 主将 永富健太郎……………12

(同志社大学)

下級生の涙 平成26年卒 主将 高橋 吾郎……………13

(早稲田大学)

「最狂」軍団 平成27年卒 主将 柴尾 将希……………14

(慶應義塾大学)

3 カラー特集Ⅰ 卒業生紹介 (平成18年卒～27年卒)……………15

4 指導の現場から

ラグビーを続ける理由 出会いと絆に感謝

修猷館高教諭 ラグビー部顧問 渡邊 康宏……………21

(昭和57年卒)

(1) 自らの使命を知る

(2) 理不尽の正当性を知る

(3) 修猷としての生きる猷(みち)を知る

(4) 最後は気持ちで何とかなる、そして、自らの星を知る

(5) 目標達成の難しさを知る

【各代の思い出】

古城キャプテン 〈平成22年度〉

東キャプテン 〈平成23年度〉

永富キャプテン 〈平成24年度〉

高橋キャプテン 〈平成25年度〉

柴尾キャプテン 〈平成26年度〉

原田キャプテン 〈平成27年度〉

己の「強み」を出す

修猷館高教諭 ラグビー部顧問 眞鍋 健治……

25

(平成8年卒)

相手より強いところで勝負

スペシャリストを目指す

自分の「弱み」を知る

自主性を重視

逞しく育つ環境

人との出会い、学び

感動が人を動かし、出会いが人を変化させる

福岡高教頭 岡本 圭吾……

27

(昭和56年卒)

1 修猷教員・顧問だからできた出会いと学び

2 ラグビー(指導・支援)からの学び

資料 平成20年ごろのチームづくり

【5年間の歩み】

〈平成17年度〉 山口チーム

〈平成18年度〉 平松チーム

〈平成19年度〉 農塚チーム

〈平成20年度〉 飯田チーム

〈平成21年度〉 下川チーム

ラグビー部と応援団

修猷館高教諭 ラグビー部顧問 清水 嘉隆……

40

教員生活におけるラグビーを振り返る

玄界高校長 御領園昭彦……

41

2019年に向けて

早良高教頭 瀬尾 博栄……

42

「修猷のラグビー」を問い続け

福岡高教諭 杉山 英明……

43

この10年

太宰府高教諭 山本 崇弘……

45

(平成18年卒)

5	カラー特集Ⅱ	47
---	--------	----

6 マネジャーの目&東京支部より

私にとつての修猷ラグビー	平成18年卒	麻生 知里	49
ずっと続く絆	平成19年卒	吉村 冨加	49
今思う、マネジャーの経験	平成20年卒	長儀由妃子	50
かつこいい人間	平成23年卒	手嶋 文香	50
チームに必要不可欠な仲間	平成27年卒	金子 真彩	51
東風吹かば			52

7 資料編

・部歌	53
・卒業年別 全部員名簿	54
・主要大会の成績及び出場メンバー	
平成17年	61
平成18年	63
平成19年	65
平成20年	67
平成21年	70
平成22年	72
平成23年	74
平成24年	77
平成25年	79

平成26年	83
-------	----

8 90周年記念行事実行委員会報告	89
-------------------	----

編集後記	91
------	----

協賛広告	
------	--

1 ご挨拶 おめでとう90周年

「新生期」への伝承



OBクラブ会長

安部直幸

(昭和41年卒)

修猷館ラグビー部は、創部以来今年で90周年を迎えます。創部されたのは関東大震災から2年後の1925年、年号も大正から昭和へと変わる節目の頃でした。当時、九州のラグビーはその始祖である慶應義塾を卒業したばかりの東邦電力（現在の九州電力・西日本鉄道の前身）九州支店に配属された若手社員達によって紹介導入されて間もない時期であり、我が部はその前年の今に続く好敵、旧制福岡中学に次いで九州の旧制中学では2番目の創部でした。

まだまだ和服を着ている人達が大半といった世情の中で、地元で紹介されたばかりのイギリス発祥のハイカラスポーツがどのように浸透していったか、その過程を知ること大いに興味深いところで。当時、その形状からラグビーボールは「ラッキョ球、ラッキョ球」と言われていたそうですが……。

この90年間を概観してみますと、創部から30余年は「黎明・勃興期」に該当します。太平洋戦争という不幸な時期とその後の学制改革を挟みながらも、多くの先輩方の厳しくも愛情に満ちた（？）後輩達への指導もあり通算7度の全国大会出場を果たし、高校ラグビー界における九州の雄として「ラグビー伝統校」の基礎と実績が確立された時代です。

しかしながら、その後1960年頃からの約15年間は我部にとつ

ての「冬の時代」(謂わば「雌伏停滞期」)に入ります。指導者として、初の部OBで気鋭の淵本武陽先生（東京教育大卒・故人）を迎えるも、時代はこの頃から社会現象にもなった「受験戦争の波」に呑みこまれ、「最上級生（3年生）は主将1人」といった状況も現出し、慢性的部員不足状態に陥り、その存続も危ぶまれました。

しかし1975年頃には、地元で地道な活動が続けられていたラグビースクールの卒業生達が高校に進学する時代を迎え、これにより部員数も安定的に確保できるようになりました。この頃からラグビースクールでのサポート経験を持つ保護者の方々の協力体制も徐々に整備されてきます。

併せて淵本先生の先輩でもある守田基定先生（東京農大卒・故人）を迎え、OBによる2頭立ての指導体制が整い、1976年には全国大会県予選優勝、そして翌1977年には実に18年ぶりの全国大会出場を果たし、漸く「復興期」を迎えました。

1993年からは、30年間近くの長きにわたり指導いただいた淵本先生から、その教え子でもある岡本圭吾先生（東京学芸大卒）へとバトンが引き継がれました。

岡本先生は、淵本先生に次ぐ20年間の指導実績を重ねられました。この間、修猷館ラグビーとは異質の優れたラグビー経験とスキルを有する瀬尾先生（筑紫高校OB）、御領園先生（小倉高校OB）、杉山先生（福岡高校OB）、清水先生（ラ・サール高校OB）等に注力いただいたことも部の歴史の上でも大きな幸運でした。

これにより、常時安定し「県下ベスト8以上」の実力を備えるようになりました。

そして現在、2013年から、これまたOBである渡邊康宏先生（東京学芸大卒）と真鍋健治先生（筑波大卒）とのタッグに引き継

がれていることは周知の通りです。

この指導体制の下、現役諸君たちは一昨年昨年と、それまでの先輩達が乗り越えることのできなかった県下の強力な東福岡高校・筑紫高校という大きな壁に果敢に立ち向かい、それぞれの主要大会予選において、いずれも大接戦でこれを突破することができました。

これも我が部の伝統的モットーである「先輩たちの実績を超えること、もしくは超えるべく最善の努力を図ること。そして自分たちの実績を超えることのできる後輩を育成すること」が伝承されていることの証左であろうと考えます。

日本ラグビー界も今、2019年のラグビーワールドカップ開催、世界の強豪に伍してのスーパーラグビー参入、そして女子ラグビー強化などの新しい局面を迎え、その戦略・戦術は勿論、練習方法も大きく変化しています。

修猷館ラグビーも、「再興期」から既に「新生期」へと順調に歩を進み入れることができました。今後も更に発展を続けることを念じながら擲筆したいと思います。

最後に、その時々の現役諸君の指導に当たられた先生方をはじめ学校関係者の皆様、支援いただいた保護者の皆様に、改めまして衷心より感謝申し上げます。

グッドウイナー、グッドルーザー

を育てる



福岡県立修猷館高校
第30代館長

奥山 訓 近

高校ラグビー界で全国有数の歴史を持つ修猷館ラグビー部が、創部90周年という歴史と発展の節目を迎えたことに心から敬意を表し御祝いを申し上げます。

また、創部が1年先輩で宿敵かつ盟友の福岡中学（現高校）とともに、これまでラグビーの魅力を発信しながら、福岡県を中心に日本の高校ラグビーの普及・育成・強化に価値ある役割を果たしてきただけに、この慶賀を修猷館だけでなく、広くラグビー関係者の皆様にも一緒に喜びを分かち合っていたただけたら幸甚に存じます。

この10年間の足跡を振り返ってみても、修猷館ラグビー部は弛みなく功績を重ね発展しています。それは、先ず何と言っても、ラグビーをとおして「剛毅にして誠実な人間」という伝統的な修猷人を平均して毎年20人つくり続けていること。私学の強豪校に比べ部員数は多くありませんが、本校を取り巻く様々な環境を考えると、この数は決して少なくはないと思います。本能的に修猷ラグビーの魅力を感じ、このグラウンドでラグビーもやりたいと2兎も3兎も追う高校生活の覚悟を決めて入部してきた者ばかりです。中学ジュニアで活躍した選手だけでなく、この個性的で純粋な猛者たちの存在が、その年のチームカラーや強さなどに深く関係し、人格形成にも相互に大きく影響を与えていると感じます。

ラグビーを愛する者が同じ学窓で学び、同じグラウンドで走り、体をぶつけ合う。チームのために自分が強くなりたい、役に立ちたいと想いは1つであるが、単なる仲良しクラブではない。自分をさらけ出し多様な個性をぶつけ合うことが、絶対的な信頼を生み、チームの幅を広げ力を高めている。限界へ挑戦する気概やチームを大切にすると育まれている。ラグビーの魅力の1つは、人間の多彩な能力を求めるところにあり、強さ1つ取っても様々な価値があると感じます。私は、この3月まで3年間本校に勤務しましたが、創部90周年の巡り合わせとともに、ラグビー部員が3年間で逞しく成長する姿を身近に見る幸運に恵まれました。

平成24年度入学生は、同年度の九州新人戦予選県大会準優勝（九州大会出場）、同26年度九州大会予選県大会で57年ぶりに優勝（九州大会準優勝）し、全国大会県予選優勝と、花園出場は厚い壁にあと1歩及びませんでした。成長ぶりとその勇姿は多くの人に感動を与え1体感をもたらししてくれました。躍進の要因は2つあったように私は感じています。

1つは、先輩たちが毎年、毎日、その年の最強チームをつくる努力をしてきた財産があったからであり、もう1つは3年間という時間軸の中で強固な節をつくり、飛躍の土台としたことです。最初の節は入学直後、レベル5で行われた福岡高校との定期戦で0対70の大敗。次の節は平成25年度の新人戦で小倉高校に後半24対0からまさかの大逆転負け。ともに主力を欠く状況でしたが、2つの忘れることができない屈辱が再出発点のバネとなった。あの時、自分たちの弱さ、ふがいなさを知ったこと、これを各自が受け入れる素直で強い心が育っていたからこそ節にできたのであります。

修猷ラグビーの魅力は、勝っても負けてもラグビースピリッツの本7を体現してくれることです。これは、まさに伝統校が持つ価値ある力の証だと私は感じ取っています。修猷館ラグビー部が100周年に向かって更なる発展を遂げ、修猷健児ここにありと花園グラウンドにその勇姿を見せてくれることを大いに期待しながら、お祝いの言葉といたします。

目指す方向は不変



OBクラブ名誉会長

柴田 忠敏

（昭和32年卒）

この度、創部90周年を迎えることができ、たいへん喜ばしく思っております。

これも偏に諸先輩をはじめ、全国OBの御支援と御協力の賜物と感謝いたしております。又、日頃から暖かく見守っていただいておりますラグビー関係者や、他校の方々にも厚くお礼申し上げます。

私は、平成14年にOB会の役員に就任しましたが、お陰さまで今年、喜寿を迎えるに至りました。以来、会の推進にあたり、心掛けてまいりましたことは、若手OBの台頭と、その意を尊重した運営と、現役の指導でした。今それが新しい強調のもとで実をなしてきている気がいたしております。

現役も何かと制約の多い高校教育の一環の中で、修猷館の目指す

「剛毅にして、誠実なる人間の形成」に向かって切磋琢磨しております。OB会といい、現役の活動にしても、その時代背景に大きく影響されますが、修猷館ラグビーの目指す方向は不変のものと考えております。

昨年、平成26年度の現役の活躍は、すばらしいものでありました。大会の表彰式では協会の関係者をして、「今年は修猷旋風が吹きましたネー」との言葉が出たほどでした。

最近では、お恥ずかしい話、私は指導的立場というよりは、応援に熱が入ってしまっている始末です。こうした一喜一憂するような時期が、しばらくは続くかも知れませんが、母校のグラウンドに立って見て下さい。若いみんなが走っている中に、メリハリのある人間性が芽生えているのを、爽やかな風と共に感ずることができます。自分自身ここから始まり、いろんな物事に遭遇し、得難い幾多の友を知り得たことか。この砂埃だらけのグラウンドに感謝しています。



2

歴代主将からのメッセージ（平成18年卒～27年卒）

史上最多の仲間たち



平成18年卒 主将

山口 和也

(日立製作所)

修猷館高校ラグビー部創部90周年を心からお祝い申し上げます。我々の代は、部員29名、ラグビー部全体で70名以上の修猷館ラグビー部史上最も多くの仲間と、天理遠征や北海道遠征などの充実した対外試合、日本トップクラスのレフリーの加わった盤石の顧問の方々に恵まれたチームでした。

チームの始まりは2年生の花園予選の決勝でした。東福岡に敗れた試合後にロッカールームで、先輩の無念を晴らす、来年は花園に行つてやる、俺がチームを引っ張ると、それぞれ決意表明をして我々のチームが産声をあげました。体が大きいわけではなく、タレントがいるわけでもなく、最大の武器は部員数とひたむきさでした。「ランパス」と言われると大きな声で返事し、素直にひたすら走っていました。が、「練習を淡々とこなすな」とよく怒られていたことを今でも鮮明に覚えています。多くの仲間と共に汗と涙を流し、がむしゃらに泥にまみれ、笑いあつて、まじめな話もくだらない話をした時間は、かけがえのない財産となりました。

2005年11月13日の九電香椎グラウンドでの決勝進出をかけた筑紫との試合。毎日精一杯練習してきたはずなのに、まだできたのではないか、自分がチームにできたことはまだあったのではと後悔したと同時に、最後まで全員で戦えたことを誇りに思いました。ラ

グビー部で過ごした時間は、かつこいい男となる礎を与えてもらい、存分に成長させていただいたことは、我々の人生の生き方の指標、自信となっています。

末筆ながら、熱心にご指導していただいた岡本先生、瀬尾先生、御領園先生、清水先生、中富先生、また、普段の練習や試合から遠征まで多大なご支援をいただいたOBの方々、ご家族の方々、修猷館ラグビー部の伝統を我々の代に託していただいた先輩方、そして、引き継いでくれた後輩達、我々一同大変感謝しております。ありがとうございます。

修猷館ラグビー部の益々の発展と、皆様のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。



達成感より後悔



平成19年卒 主将

平松 達弥

(三井住友銀行)

「先輩達が築いてきたものを、お前らは台無しにするのか」と、春の佐賀工業との練習試合で岡本先生に怒鳴られたことを今でも鮮明に覚えています。

修猷最強FWを築き上げた時枝先輩の代、30名近い同期が団結した山口先輩の代の後、戦績だけでなく、最上級生としての在り方やラグビーに取り組む姿勢等様々な面で、先輩方と自分達との差を痛感し、悩み続けた1年間でした。

私達も先輩方のように本当の強さを手に入れたいと、当時の全てを賭けてラグビーに取り組んだという自負はあります。しかし、同時に、最後の最後まで個人としてもまたチームとしても確固たる自信を持てる状態に至らず、達成感よりも後悔や葛藤という想いの方が色濃く残っています。

高校を卒業してから8年が過ぎた今でも、当時のことを折に触れて思い出します。

そのたびに、「あの試合のあの場面はどうすべきだったのか?」という具体的なゲームメイクのことから、「チームとして、3年生として、あるいは自分がキャプテンとしてどうあるべきだったのか?」といった組織性や人間性の部分まで色々と考えさせられます。しかし、これほどまでに葛藤や後悔が私たちの中に色濃く存在する

ということとは、当時真剣に強さを追求したという証であり、同時に私たちの弱さに気付かせてくれているのだと思います。

高校最後の1年間で私達は輝かしい成績を収めることが出来ませんでした。また、後輩達にとつて頼りになる先輩、カッコいい先輩であったと胸を張って言うことは出来ません。しかし、「あの時の自分は弱かった。強くなりきれなかった。」という事実をただの後悔で終わらせるのではなく、真摯に受け止め、今後の人生での大きな武器にしたいと考えています。

修猷ラグビー部からは大きな可能性を頂きました。現役諸君には私たちの成し得なかった輝かしい成績の夢を託しつつ、私たちも先輩諸氏また後輩諸子に負けないようにこれからも強くなれるように精進して参りたいと思います。



格好いい人間に



平成20年卒 主将

農 塚 頼 史

(西日本シティ銀行)

この度は創部90周年、誠におめでとうございます。また、その伝統ある部の一員であったことを改めて誇らしく思います。

卒業してから7年経った今でも日が落ち、ボールが見えなくなるまでグラウンドを駆けていた日々が昨日の事に思い出されます。

私も平成20年卒の部員21名(内マネジャー2名)は、お世辞にも体格、才能に恵まれているとは言えないチームでした。そんな私達が最上級生になる頃には、県内のライバル校、他県の強豪校にも強さでは劣らないチームになることができたのには、部員の共通する信念があったからだと思います。その信念とは、当時の監督であられた岡本先生が、いつもおっしゃっていた「格好いい男(人間)になれ!」というものです。高校生ラグーマンであるからには、花園を目指すことは勿論ですが、私達はそれと同じくらい、いえ、それ以上に人として「格好いい男(人間)になる」ということを目指していました。その漠然とした目標は、部員一人ひとりの頭の中に描かれており、その理想像に向かって努力していた様に思います。私自身、社会人になった今でもその目標に向かって走り続けているのですが、今思えば当時の私には切磋琢磨している仲間の姿こそが格好いい男にみえていた事は間違いないと思います。十人十色、様々な個性を持つ男達が互いを認め合い、楯円球の虜になっていた

たあの3年間は何物にも代えがたいものであり、紛れもなく青春の日々でした。入学式の日に言われた「修猷卒を誇る人間ではなく、修猷が誇る人間にならなさい」という言葉をふと思い出しては身を引き締め直し、今もお格好いい男になるべく精進しています。

最後になりますが、現役の皆様へ。

修猷館高校での3年間は必ず一生の宝となります。失敗を恐れず何事にもチャレンジしてください。今後の修猷館ラグビー部の更なる飛躍を期待しております。



30年ぶりの「全国大会」



平成21年卒 主将

飯田 吉貴

(トヨタ自動車)

私たち平成21年卒は、部員21名、マネジャー2名の計23名が入部し、部員は誰一人辞めることなく、3年間ラグビーをやり抜きました。21人の部員たちは、半数以上が初心者であり、決して優れたプレーヤーがいるわけでもなく、体が非常に大きいわけでもありませんでした。

そんな私たちは、新人戦が終わり、数ヶ月経った3月、春の全国選抜大会へ「チャレンジ枠」として出場が決まりました。「1978年の第57回全国高校ラグビー大会以来、30年振りの全国大会出場」。この全国大会出場は、決して僕たちだけの力ではありません。全国大会への出場を決めることができた背景には、「今まで多くのOBの方々が築きあげられた修猷ラグビーの歴史があったからだ」と、私たちはその時、痛感しました。現に出場が決まった後も、多くのOBの方々に激励のお言葉を頂き、修猷ラグビーの歴史、さらにはOBの方々の結束力を感じ、私たち選手たちは、「修猷ラグビー部としての誇り」を胸に、全国大会が行われる埼玉県熊谷市に出発することができました。

迎えた全国大会。強風が吹く中、全国でも有名な各県・地域の代表校の中に並び、開会式を行うことができ、その時の記憶は、今でも鮮明に残っています。初戦の青森北との試合会場には、17時間の

弾丸ツアーで駆けつけてくれた在校生や、東京支部だけでなく全国各地のOBの方々が応援に駆けつけてくださりました。そんな多くの方々の応援の中、試合をすることができ、初戦の青森北は、前半19―7、後半0―22、合計19―29で敗退してしまいましたが、敗者戦に進み、東京の明大中野とは前半15―8、後半42―12、合計57―20と、何とか全国の舞台で、1勝であげることができました。

卒業した今、「修猷ラグビーに所属し、良かった」と感じる事が多々あります。就職活動、会社生活等、修猷ラグビーというだけで、どんな先輩方もよく面倒を見てくださり、支えられることが多いです。この環境に感謝するとともに、「今度は自分たちが後輩たちに同じことができるようになりたい」と、先輩方を見て感じます。

また、それだけでなく、修猷ラグビーに所属し、築き上げることでできた仲間の絆も大切にしながら、これからの生活を過ごしていきたいです。



初蹴りに大集合！



平成22年卒 主将

下川 桂 嗣

(RKB毎日放送)

修猷館高校ラグビー部創部90周年おめでとうございます。この歴史ある部の一員であることを嬉しく、また誇りに感じます。

5年前、僕たちのチームは筑紫に敗れ、ベスト4という結果で引退しました。目標であった花園には届かなかったものの、悔いなく高校ラグビーをやりきることが出来たと思います。帰りのバスは本当に楽しかったのを覚えています。

僕たちのチームはとにかく3年生が元気でした。ジャージをもらった人の多くが3年生であり、毎日の練習でもみんなでワイワイ騒ぎながら楽しくやっていました。Bチームの3年生がAチームの選手を叱咤するという光景がよくあり、また練習への真剣さが足りない2年生以下のメンバーをグラウンドから追い出したという出来事もありました。本当に3年生全員がチームの中心として活動できた代だったのではないかと思います。

またラグビー以外にも、応援歌指導や運動会、文化祭、予餞会など学校行事の中心には3年部員の誰かが関わっており、そういった意味でも元気だったなと感じます。中でも騎馬戦での、部員同士の大将一騎打ちは最高の盛り上がりでした。

また様々な事を経験する事が出来た代でもあったと思います。1年生の冬には熊谷で行われた全国選抜にチャレンジ枠として出場

し、初めて全国の舞台に立ちました。初戦で負けてはしまいましたが自分たちのラグビーが全国の舞台でも通用することを知ることができました。3年生時には大阪遠征に行き天理や常翔学園、大阪朝鮮など名だたる強豪チームと対戦して壁の高さを痛感し、そして最後の花園予選では準々決勝で小倉に勝ち、入学して初めてベスト4に進むことができました。このような経験をさせてもらえたこともこの代の特徴でした。

高校時代を思い返すと、書ききれない程の思い出が次々によみがえって来ました。影のキャプテン豊福が目標にしていた「初蹴りに一番人が集まる代」になってたくさん思い出話をしよう！



代表2枠を目指し



平成23年卒 主将

古城 智也

(大分大学)

自分たちの代はとにかく不器用だった。3年生の人数は少なく、決してうまくいってもない。さらに一つ上の代で試合に出るプレイヤーも少なく、代替わりした初期のころは本当に不安だった。一月の初めから行われたサニックスワールドユースの予選では、初戦はなんとか勝ちあがったものの、その後、伏見工（京都）、大阪桐蔭、春日丘（愛知）に大敗を喫し、上で戦うには力が全く足りない現実を知った。

新人戦では先輩方が勝ち取ったベスト4を守りはしたものの、筑紫に1トライも取れずに負けた。そして、やっとまとまり داشت と思った県大会で福岡に敗れてベスト8に落ちてしまった。本当に悔しかった。勝たなければいけない試合で負けてしまったことで、自分たちがまだまだダメだと痛感させられた。

そこから花園予選までは本当につらく、厳しいものだった。練習は本当にきつかった。それだけでなく、キャプテンとしての在り方も自分の中で大きな壁になった。自分にはキャプテンに必要なカリスマ性はない。その上で自分がチームをどれだけ引っ張れるか、鼓舞できるか常に考えさせられた。夏休みは自分だけでなく皆が追い込まれていたと思う。

そして花園予選がやってきた。自分の代は全国大会が90回の記念大

会だったため、福岡から花園に行ける枠が二つあった。東福岡と違うブロックになったと聞いた時には、神様が本当に花園に近づくとチャンスをくれたのだと思った。そこからは皆とにかく激しく、荒々しいプレーをするようになったと思う。自分もできることは多くはないが、激しく、流れを引き込むようなプレーを一つでも多くやり、誰よりも体を張り、プレーでチームを率いようと思った。城南に勝ち、次の筑紫との試合、誰もが接点で体を張ってあたりに行き、吠え、トライを取った時には心から喜ぶ本当にいい試合だった。しかし、結果としてたったの6点差で負けてしまった。試合中の気持ちとあと一歩届かなかったという試合の後のあの虚無感は一生涯忘れることができないだろう。

決して一人ひとりが強いチームではなかったが、少しずつ体を張ったプレーをし、自分だけでなくみんなが良いチームを作ってくれた。本当に自分の代で主将をやれてよかったと思い、ついてきてくれた皆に感謝しています。



きっかけとその後



平成24年卒 主将

東 哲 平

(長崎大学)

古城組の筑紫との激戦を終え新チームが始動した。初試合も勝利から始まり、前年と同様、ワールドユース予選会に参加し全国の強豪校との対戦という貴重な経験を得た。そして新人戦に挑むにあたり私たちは今度こそ筑紫を破ると意気込んでいた。しかし、1回戦である九州国際大付に敗れ、ベスト16に落ちるという結果に終わった。この敗戦は私たちの勝つことへの意識を変えた。特に3年はリリーダ―、最上級生として気を引き締め直し、目の前の練習、練習試合に対しても勝つことへのこだわりを見せるきっかけとなった。私たちの学年は自由な人間が特に多かった。お調子者、言葉数が少ない者、何を考えているのかわからない者、頑固で意地を張る者。このように未熟な主将としては苦労も多いメンバーばかりで衝突も何度もあった。しかし、それぞれがムードメーカー、姿勢や態度、プレーでチームを引っ張る者、チームのために批判やアドバイスができる者に変わっていった。ものの見方やチームへの貢献の仕方は違うが勝つことへのこだわりは皆が持っていると感じていた。敗戦から学ぶものは大きかった。続く九州大会県予選では九国にリベンジを果たし、全国一の壁の大きさも実感した。夏にはなかなか勝てない時期も経験した。鹿児島合宿ではひとりひとりが一回り成長すべく努力した。秋大会直前ではさらにチーム、特に3年の成長があった。

そして、本番の全国大会予選となった。宗像には勝利したが、全国大会覇者東福岡の壁は高く、5―81で敗れた。最終戦後の先生方からいただいた言葉はおそらく皆が覚えていると思う。その言葉というのは東福岡戦前半5―27という踏ん張りを、後半の最後の最後まで続けることができなかったことの弱さ、未熟さを指摘する言葉であった。修猷生の強さはそこではなかったのかと言われ、猛烈に悔しかったのを覚えている。おそらく皆もそうであったと思う。この時の言葉は私たちにあってこれから何を課題として努力し続けていくべきかを考えさせられるきっかけとなった。そして、これからもそれぞれが修猷ラグビー3年間で学んだことを発揮し、さらに成長していかなければならない。



一生の友と



平成25年卒 主将

永 富 健太郎
(同志社大学)

この度は創部90周年おめでとうございます。
私が卒業して2年がたちますが、修猷での生活がつい最近のように感じられます。修猷での生活を語る上でラグビーは欠かせないものです。

入学して1年目は古城主将の下、初めての県大会で筑紫に6点差で負けてしまいました。そのあと古城主将からは「来年はお前が中心となってやれ」という言葉をかけていただきました。その思いを胸に2年目に突入しました。その年は東主将の下、個性豊かな3年生が多くとても雰囲気の良いチームでした。今年こそはと臨んだものの東福岡の前に大敗してしまいました。古城主将の言葉を実現できたかはわかりませんが、2年になって大きく成長できたと思います。そして迎えた最後の修猷ラグビーでの年、僕は主将としてラグビーに対して厳しくいこうと考えました。強くなるために仲間や後輩に何を思われても良いという気持ちでした。しかし、結果はなかなか出ませんでした。新人戦では筑紫に、春の福高との定期戦では0-70という歴史的な大敗をしてしまいました。それからというもの3年生で話し合い春の筑紫戦に照準を合わせ新人戦のリベンジを誓い今まで以上に厳しい練習に取り組みました。迎えた筑紫戦、みんなかなり気合いが入っていました。前半を同点で折り返しましたが、

後半にいかれました。また負けてしまいました。しかし、このとき厳しい練習で成長していることをすこしだけ感じました。

そして迎えた最後の大会、東福岡の前に大敗という形で自分の3年間は終わってしまいました。しかし、この修猷ラグビーで出会えたかけがえのない仲間や先輩、後輩そして先生方は一生付き合っていきたいくらい存在となりました。今の自分があるのも修猷ラグビーのおかげだと思っています。

最後に後輩たちへ

後悔だけはしないでほしい。あの砂浜グラウンドで思う存分ラグビーに没頭してほしい。そして修猷ラグビー部が花園の地に立つ日を心待ちにしている。



下級生の涙



平成26年卒 主将

高橋 吾郎

(早稲田大学)

僕らの代は、新人戦で筑紫を破り、17大会振りに九州大会に出場した。またそれまでの3年間ベスト8で足踏みしていたチームをベスト4に押し上げることはできた。しかし、チームの中心は2年生だった。僕ら3年生はマネジャーを含めても11人と少ない中、病気や負傷者が続き、最終的にプレーできたのは5、6人だった。レギュラーとして出たのは自分を含め3人であった。明らかに2年生の方がラグビーのスキルも高く、ぼくら3年生はラグビーに関しては、お手本にはなれなかったと思う。自分はキャプテンを務めるにあたって、一つ上の永富さんのように圧倒的な実力があるわけではなかった。厳しくトップダウンでやるのは難しいと思った。下の学年が伸び伸びとやりやすいように1・2年とのコミュニケーションをかなり密にとった。全学年相当仲がよかったと思う。多少甘かった部分があったかもしれないが、このやり方をとったことに間違いはなかったと感じている。夏場にはあまり結果も伴わず、足踏みもしたが、秋が深まるにつれ練習の雰囲気もよくなっていき、3度目の筑紫戦に向けていいチームができていたと思う。そして迎えた11・3の筑紫戦。試合前に泣いたのはこれが初めてだった。それくらい相当な気合が入っていた。だが、惜しくも勝つことはできなかった。終わった瞬間、3年でメンバーだった自分と鑑水、伊藤、菅田より

も1・2年の方がたくさん泣きじゃくっていた。ベンチ外だった下級生も泣いていた。自分は1・2年の時に3年の最後の試合にメンバーとして出場したが泣くことはできなかった。1・2年が自分たちの最後でもないのに、こんなに自分の代のチームに全身全霊かけてくれたそんな思いが本当に嬉しかった。このチームでキャプテンをしてよかったと思えた瞬間だった。

少し同期について述べたいと思う。けがを繰り返す者、自転車で事故に遭って九死に一生を得た者、2回もやめるとか言い出した者、練習中や試合中に気性が荒くていきなりキレだす者、様々な個性があつてまとめるのは正直本当に大変だった。それでも同期と一緒にいるのは本当に楽しかったし、貴重な時間だったと思う。けがでできなかった者も色々な形でチームに貢献してくれた。自分を一番支えてくれたのも同期だと思っている。何でも言いあえる最高の仲間だ。今となつては様々な苦労も全て一生の最高の思い出である。本当にありがとう。

最後に、後輩たちへ。後悔しないようにラグビー部での生活を全うしてほしい。激しく厳しく練習してぜひ花園へと進んで欲しい。これからも更に強い修猷ラグビー部を作っていくことを願っている。



「最狂」軍団



平成27年卒 主将

柴 尾 將 希

(慶應義塾大学)

自分が最上級生として率いたチームは、個性豊かで、かなり曲者揃いのチームでした。特に同学年が一番元気良く、いつも盛り上がってばかりで、部室では、大声で歌っている奴がいたり、裸で歩き回っている奴がいたり、また、鼻糞を壁や人につけて遊んでいる奴がいるなど、オナラなんて部室では日常茶飯事でした。しかし、ラグビーの事になると人が変わったようにまじめになり、スイッチのオンとオフがはっきりしていました。

そんな中で主将を経験しましたが、自分は「The 主将」という感じではなく、同学年のリーダーに支えてもらいながらチームを引っ張っていました。また、最後のシーズンになると、チームを引っ張っていく人が3年生の中から多数でてきて、メンバー全員が高い意識を持っていました。

そんなこのチームのスローガンは「最狂」で、練習や試合中では「狂え、狂え」という言葉が飛び交っていました。この「最狂」の発生源である岸川を筆頭に「低いタックル」と「速いテンポ」を追求していきました。とにかくこのチームには、タックラーが数多くいて毎試合必ず、スパータックルがあり、それは、観客を魅了するほどでした。体は他のチームに比べ小柄なほうではありましたが、そこは運動量でカバーし、ディフェンスからターンオーバーし、

攻撃するのが一つの武器でした。また、キックがバカ飛ぶ奴がいたり、弾丸のようなタックルをする奴がいたりするなどメンバー全員が様々な強みを持っていることも一つの特徴でした。

上下関係は厳しくなく、三学年全体が仲良く、そのおかげで後輩からの意見も多く出て、チームにとっても活気がありました。乗せられるとすぐに調子に乗る悪い点もあり、苦しい時期もありましたが、そのおかげでこのチームがあると考えています。

最後に、自分はこのチームで主将をやることができたことを誇りに思い、部員全員に感謝しています。



3

カラー特集Ⅰ

卒業生紹介



平成18年卒業生



平成19年卒業生



平成20年卒業生



平成21年卒業生



平成22年卒業生



平成23年卒業生



平成24年卒業生



平成25年卒業生



平成26年卒業生



平成27年卒業生



4

指導の現場から

ラグビーを続ける理由 出会いと絆に感謝



福岡県立修猷館高校 教諭
ラグビー部 顧問

渡邊 康宏

(昭和57年卒)

90周年の節目の年に、母校のラグビーに関わることができ、事に感謝しています。「修猷ラグビー」「修猷館」に関しては、安部会長や岡本先生には敵わないので別の視点から、高校生(修猷)ラグビーを述べてみたい。

ラグビーの指導をしていて、一番の喜びは、部員たちのいろいろな言動の成長や表情の変化を直に感じることができることだと思う。中学時代は修猷に入るために色々なことを我慢(犠牲に)し、そのため15歳として獲得しているはずのいくつかのこと(対人スキル、マナー)をまだ備えていない者。中学時代の束縛から、自由を獲得したと勘違いしている者たちが、ジャージーとスパイクを身につけ、砂だらけのグラウンドに立ったときの自信のない顔。(これは中学時代のラグビー《運動》の経験の有無にはまったく関係ない)

春の大会が終わり、一段落し、練習のフォーカスが1年にも当たり、激しいコンタクトプレーで本当の「痛さ」を知り、さらに修猷の考查の結果が返ってきて、中学時代の小さな辛いプライドが見事に碎かれ、心身共に「とどめの痛さ」を知った顔。その中には、練習後のミーティングで顔を上げることができず、昼休みに「退部」の意思をなんとか私に伝えようと職員室に来て、もじもじしている

顔。(それを察知した私は急に用事を見つけ、その場を去る)

夏を経験し、合宿、運動会で「修猷」にはまり(悟り)、修猷生活のほとんどをラグビーに費やす。そしてラグビーを通じて様々な学びを獲得する。

(1) 自らの使命を知る

グラウンドでは、仲間の信頼を獲得するために「きついこと」「痛いこと」に挑み続け、時間の流れの中で、自分の立ち位置(役割)を悟り、それに特化したプレーを磨く。グラウンド外でもラグビー部員としての課せられた役割、たとえばそれが「怒られ役」、成績が芳しくない他の生徒の「癒し役」であつても全うする。

(2) 理不尽の正当性を知る

前に行きたいのに前にパスを出せない、ボールの前にはいけない。大きい相手の突進に逃げずにタックルに行かなくては仲間から認められない。理不尽なことばかりだ。さらに、15人(25人)いないとゲームが成立しないから、多少の価値観の違いは目をつむり、共通の目標に向かう。それらを達成するために、放課後・休日の貴重な時間に自分を追い込むような態度で取り組むうちに、自分自身の成長を知ることとなる。

(3) 修猷としての生きる猷(みち)を知る

勉強、部活、学校行事……あらゆるものに全力投球する環境が修猷館にある。全てに魂を傾注するのは、無理難題であることは当然。それぞれの壁にぶつかったとき、自分ならではの破り方を知り、それらを周りが認めることで、自己肯定感を得る。

入試という壁がある以上、「走ってよし、投げてよし、蹴ってよし、当たってよし」など〇〇拍子揃った選手を並べることは最初から諦める。

個々の強い部分をパズルのように組み合わせ、修猷ラグビーの生命体を作り上げるべく知恵を絞る。

さらに、ラグビーの競技の特性を理解し、『接点』、『球際』の部分に『最狂』激しさを、追求する。この部分を2年半究めることで、いくつかの弱みは消しうるプレーヤーに成長していく。

(4) 最後は気持ちで何とかなることを知る。そして、自らの星を知る

数々の経験を通じて、大きな感動を得る。その感動という「宝石」は磨けば磨くほど輝く。怪我をしても、ボールを追いかける姿、突き刺さるタックル。

また、Bチームにいながらも、黙々と走る姿。メンバーでもないのに、スパイクを磨き、祈りを込める。その何の打算もない姿に、男が男に泣ける何かを思う。男が男に泣けるとき、お互いの人間という存在の偉大さを改めて感じる。

ラグビーには、試合前の涙がある。

今までの様々な犠牲を60分間の試合の中で全て帳消しにするために、感動に打ち震えるのである。一軍に上がりたい、活躍したい、誉められたい、日本一になりたい……。あらゆる欲が、グラウンドに行く度に消える。日本一に向かうその過程の中で、自らを研ぎ、思いを高めていくにつれ、それらの、あえて言わば我欲は、どうでもよくなっていく。

失敗とは、成功の前にやめること

失敗とは、自分の計画に全力を投入しないこと

今思う。自分に起こった現象は、けがも挫折も、全て必然、必要だったと。

そして心から感謝しています。

たくさんの人に出会え、たくさん感動をもらい、そしてこれから、たくさん感動を与えるべき立場にあることに、改めて、自分の星を知る。人はそれぞれに役割をもって生まれてきた。決して華やかなプレーはできません。

女の子の声援も少ないし、鈍足の僕には独走もできません。華麗なキック、パスは到底無理。しかし、前に転がったボールには一番に飛び込みます。首がいたくても、肩がいたくても、タックルします。格好悪く遅いけど全力で走ります。そして己を信じ、みんなを信じることの強さを知っています。それに心動かされ、男に泣ける人が一人でもいれば、僕は、自分の星に心から感謝します。

そんな男達に出会えたことに自分の星を感じるときがある。

(日本U20監督 中竹竜二 「挫折と挑戦」より引用)

(5) 目標達成の難しさを知る

そして、最上級生となり、様々な経験から、顧問や先輩たちの教えが自らの「言葉」となる。その偉大なる人間も、いざ試合や受験といったときに、自分の力の半分も出せない愚かさも備えている。しかも、誰もがあらゆる後悔を背負っている。あれをやればよかった、逆に、どうしてあんなことをやったのだろう、と。その襲いかかってくる後悔を奮い去ったとき、人は大きくなるのだろう。

秋の大会を終え、グラウンドに来ることのない3年生は遅ればせながらの受験勉強に突入する。彼らの顔を見るのが大好きだ。そしてこう声をかける。

「一日、〇〇（24以上の数）時間、勉強せなかんぞ！」

「時空間を曲げてでも、がんばらないかんぞ！」

そして、心の中でこうつぶやく、「3年間ラグビーを続けてありがとう。これからもなんらかの形でラグーマンとして人生を歩んでほしい」。

彼らは、教室では得られない「生きる力」、「社会が求める力」を獲得した。そして、休み時間や放課後、砂埃のグラウンド、決してきれいではない部室、高級とはいえない定食屋さんで育んできた仲間との絆、誰かがきついときにこの絆が役に立つことを確信している。

そして卒業後、ラグビーの絆は『横』だけでなく『縦』もあること。OBの集まりから恩恵を得ることをいっぱい知るだろう。最後に、『ラグビー仲間』は自チームだけではないことも知ってほしい。

スポーツライター藤島大氏のコラムからの文章を紹介する。

……ピンボケ、逆光のひどい写真が添えられているはずだ。

中学時代、技術家庭の授業でゲルマニウムラジオを組み立て、クラスでひとりだけ鳴らなかった本稿筆者の手先の不器用を許していただきたい。先日もし知人の家で線香のため100円ライターを点けると指が焦げた。「向きが違う、向きが」。その「向き」の意味がワカラナイ。

さて写りは絶望的でも、撮った対象は美しい。これ、数日前、たまたま福岡の博多区古門戸町の酒場に見つけた。額に収められた日本代表の福岡堅樹のサイン入り練習ジャージである。そこまでは、まあ、ありうる話だ。30代の店主は、福岡高校ラグビー部のフランカー（間違いなくタツクルの鬼の顔）で鳴らしたのだから。しかし、よく目を凝らすと、横に手紙が添えられている。匿名の人物

からジャージと一緒に福岡高校ラグビー部若手OBのまとめ役のところへ届いたそうだ。以下、かいつまんで内容を紹介する。

「ダレセンズ（福岡高校のOBチーム）のみなさまへ。（2013年）5月の日本代表の韓国戦を秩父宮で観戦した際、岩手の子供たちをウェールズ戦に招くためのオークションが行われており、福岡堅樹の練習用ジャージも出品されていました。その決してきれいな字とはいえないが、何かに挑もうとする初心、すがすがしい気持ちの表れているサイン入りのジャージを福岡から流出させてはいけない、との思いから入札を決め、●万円で落札できました。福岡高校ラグビー部創部100周年（2024年）のち、福岡選手がダレセンズの主力として福岡へ戻った時、本人に渡してもらえなら、これほどうれしいことはありません。2013年春 永遠のライバルより」

送り先が適切であること、ダレセンズが存在を知っていることから内部事情に詳しい者による「善行」と推察された。最大のヒントは「永遠のライバル」にある。この土地のラグビーにおいて、福岡高校の好敵手とは西のほうの学校、すなわち福岡県立修猷館高校をさす。おそらく同校のOBの行為だろう。そこにおいて、第三者にはかくも麗しい出来事は、いったん、なんらかの策謀ではないかと酒場の調査委員会にかけられる。東京に放った斥候から「●万円」がそれなりの高額との報告も届く。ある血気盛んな若手は「何らかの心理的揺さぶりでは」と疑心を抱く始末だった。有史以来、万事に張り合ってきたライバルとはそういうものなのか。アルコールをありながら約15分の検討の結果、本物の友情の証であるとの結論に達する。現在はいよいよ感謝しており、保管場所に、英語なら「ファースト・オブ・オール」を意味する店名のここが選ばれた。

厳密な博多とは限られた地域である。それなのに、今回の一件のように、そこを歩くたびにラグビーの匂い、気配は漂う。ふらり飛び込んだ一軒でも「あそこの大将はラグビー、あそこもラグビー、あそこの子もラグビー」という調子だ。ここを本拠とする「ぎんなんリトルラガーズ」がどれだけの有名無名選手を育ててきたことか。そこでささやかに提案したい。あの勇壮にして端正な祭、「博多祇園山笠」で唄われる「博多祝いめでた」をラグビーソングに！

まるでウェールズのスタジアムの歌声のようなのだ

【各代の思い出】

▽古城キャプテン（平成22年度）

センスがある選手が揃っていたわけではないが、よく練習した一年だった。夏合宿では、古城キャプテンが先頭に立ち、自ら倒れるまで走った。監督になりたて、まだまだ、伝えたいことをわかりやすく言葉にできなかったが、その分、折居がよく理解し、仲間にかみ砕いて説明してくれ助かった。全国大会は90回の記念大会。福岡から2校出場できたが、準決勝で惜敗した。筑紫が試合巧者で6点届かなかったが、持ち味を出せた好ゲームだった。

▽東キャプテン（平成23年度）

新人戦でノーサイド直前に逆転を許し、力を持ちながらも精神的な弱さを感じたスタートだった。多様なタイプの3年生が揃い、ポテンシャルの高い者、怪我から黙々と復帰を信じ自己の鍛錬を怠らない者、Bチームに落とされても、Aチームへ復帰すべくチームを引っ張り続ける者、チームが生命体であることを感じた。夏合宿を犬のように走り回り、プレーだけでなく、人としての成長を感じた

チームだった。

▽永富キャプテン（平成24年度）

エディー・ジャパンの日本での初戦、UAE戦の前座試合で福高に0-70で惨敗した。多くのOB、学校関係者を失望させたが、ある意味、現在までのチームの原点となる経験だった。3年の永田のお父様、隆憲氏にチーム全般、特にFWに関しては細かいところまで指導していただいた。感謝。チームとしては好不調の波がありながらも3年が議論を交わしながら、チームのベクトルを上向きにしていくとする姿は、教師として喜びを感じた。No. 600の修猷館賞+3年間皆勤賞の永富、同じく3年間皆勤賞のチェイス、引退後も後輩たちの練習に体を張ってくれてありがとう。おかげで次の代のいいスタートが切れたと確信している。

▽高橋キャプテン（平成25年度）

新チーム最上級生でゲームに出ることができる者が3-4人、新チーム結成後すぐの練習試合で小倉、東海大五に大敗という厳しいスタートだった。年末の練習試合を全てキャンセルし、「低く、速く」を意識した基礎プレーを反復した。新人戦で、シード校小倉を破り、準決勝で強豪筑紫をノーサイド直前で大逆転、九州大会（沖縄）に行くことができた。福高との定期戦で久しぶりの勝利はしたもの、春の九州大会予選、秋の全国大会でどちらも3位ともう一步であった。レギュラーは2年生主体であったが、3年生のそれぞれが、ゲームに出ることができる者から練習さえできない者までがそれぞれの役割を果たした。

▽柴尾キャプテン（平成26年度）

昨年のチームのレギュラーメンバーがほとんど残り、期待のもてるチームとなった。しかし、新人大会では、小倉と対し、24-0か

ら逆転された。春はその悔しさで、泥だらけの練習をした。4月で、私の相談相手だった杉山先生、生徒に対し体を張り続けていた山本先生が去り、眞鍋先生を迎える。彼の初仕事は、準々決勝で東福岡とあたるくじを引く失態？ 開き直ってデیفュンス、タックル主体の練習を続ける。当日、Bチーム主体の相手にタックルで刺さりまくるも、前半を終えて19―19、ただ崩された場面でなく、自らのミスからの逆襲からの失点であった。Aチームメンバーが交替してくるものの、接点・球際の激しさが通用し、ノーサイド直前に大逆転を演じた。初めて、守田先生も褒めてくれるかな？ と思った。57年ぶりの快挙に、当事者もこの反響に戸惑った。夏を超え、スローガン『最狂』を体現すべく成長し、秋の全国大会予選決勝では体を張り続けるも、全国大会で圧倒的なパフォーマンスで優勝した東福岡に完敗した。

▽原田キャプテン（平成27年度）

主力が抜け、戦力ダウンが懸念されたが、今まで接点の激しさは継承しているようで、年末のゲームもそれなりの結果が出た。組み合わせで東福岡、筑紫、東海大五等の実力校が別の山となり、九州大会・選抜大会出場が期待された。超高校級の言葉をさらに超えるプレーヤーを擁する前任校（東筑）との対戦に、一進一退の攻防となり引き分け、上位の試合への出場権を得ることはできなかった。初期の目標設定が低いところにしたことが悔やまれる。秋に向けて、最大の壁を壊すべく、最大限の血と熱を注ぎたい。

己の「強み」をだす



福岡県立修猷館高校 教諭
ラグビー部 顧問

眞鍋 健治

（平成8年卒）

昨年4月に赴任し、その直後におこなわれた九州大会の県予選において、準々決勝で東福岡と対戦し見事勝利を挙げる快挙を成し遂げてくれました。そして、この大会では57年ぶりの県大会の優勝を遂げ、さらに、九州大会では決勝戦で佐賀工に1トライ差で惜しくも敗れたものの、準優勝という結果を残してくれました。この大会を通して、今の修猷館の強さは、自分達の「強み」を最大限に出して戦うことができていることにあらと感じました。

○相手より強いところで勝負する

このことは、勝負に勝つためにはあたり前のことですが、分かっているにもかかわらずではありません。それでは、「なぜできているのか」について私なりの感じたことを挙げたいと思います。

○「スペシャリスト」を目指す

最大の目標である東福岡の選手に対して、すべてにおいて上回ることは至難の業です。しかし、すべてにおいて負けているわけではありません。「タックルでは誰にも負けない」「オーバーなら誰にも負けない」というように、何かにおいてナンバー1になることを目指し、個々が勝負できる「強み」を磨き、そこから勝機を見いだすことが必要です。そのために、生徒は自分自身をしっかり分析し、自分がチームのために「何ができるのか」「何をしなければならな

いのか」を理解し、その部分を個々でしっかりと磨いていくことで自分の「強み」をつくっています。自分が何をすべき選手なのかということが明確になることで、試合の中で「強み」をしっかりと発揮することができるようになっていきます。

○自分の「弱み」を知る

どんな場面であれ勝負をしている以上は負けることは気持ちいいものではありません。しかし、それが自分の「弱み」であることを理解できていれば、その結果を気にすることなく次の場面で自信をもって「強み」を発揮することができます。例えば、現在の修猷館はスクラムに課題がありますが、選手は押されたことをほとんど気にすることはありません（快く思っていない方は、多数いると思いますが……）。スクラムは自分達の強みではなく、勝負するところではないことを理解できているからです。確かにスクラムが押されなければもっと試合は楽になるのかもしれませんが、そこを受け入れることでゲームのなかでしっかりと自分達の「強み」をだすことにつながっていきます。

○自主性を重視した練習

修猷館の生徒は、「自分達に何が必要か」ということを自分達ですっきり考えることができます。練習メニューを自分達で決める機会も多く、グラウンドではチームの課題を自分達で話し合う場面もよく見られます。話し合いの時間が長くなり練習の効率が下がったり、遠回りしたりすることもよくありますが、時間をかけてでも自ら答えを出していく作業をすることで、自分自身の理解、チーム戦術の理解が深まり、試合の中で自分達の実力（「強み」）をしっかりと出すことができるようになっていきます。

○3年間で逞しく育つ環境

修猷館生として、ラグビーだけを頑張るのではなく、勉強も死にもの狂いで頑張り、学校行事においても積極的に関わっています。そして、このことをラグビーの結果の言い訳には絶対しないし、その逆も然りです。生徒は、ものすごく大変な高校生活を送っています。しかし、その結果、3年生になると1、2年生にはないすごく逞しい姿をみせてくれます。この人間としての成長こそが、ラグビーにおいてどんなに強い相手に対しても自信をもって戦うことができることにつながっていきます。

この秋の花園予選では、自分達の「強み」をだし決勝まで勝ち進むことはできたものの、全国大会で圧倒的な力で全国制覇を成し遂げた東福岡に対して完敗でした。今の強さだけでは福岡県を勝ち抜くことができず、花園出場は厳しいのが現実です。しかし、あきらめることなく、現在の修猷館の強さを後輩に引継ぎ、さらに新たな強さを身につけ、花園出場にチャレンジし続けていきます。

人との出会い、学び

感動が人を動かし、
出会いが人を変化させる



元・ラグビー部 顧問
福岡県立福岡高校 教頭

岡本圭吾

(昭和56年卒)

私が思う修猷には『世のため人のために尽くすことができる人』、『修猷を誇るな、修猷が誇る人となれ』という高い『志』があります。修猷生として、そして修猷ラグーマンとしての誇りを持って『志』に挑む。成功失敗で判断するものでない挑み『闘魂』の実現です。私は、修猷ラグビーにおいてこの挑みの積み重ねが『カッコいい男』をつくると信じています。挑み様でいろいろなカッコよさが出来上がってきます。21年間『カッコいい男』をつくりたいという思いで日々生徒と共に戦ってきました。ラグビーの戦いの場でのカッコよさ、5年後・10年後の成長した本物のカッコよさ、そのカッコよさに触れたときが私の一番の喜びです。

1784年(天明4年)黒田藩の藩校として修猷館は誕生し、1925年(大正14年)修猷館ラグビー部は創部されました。修猷館ラグビー部員であるならば、この2つの年号はからだに染み込んでいて当然です。あらためて修猷館ラグビー部創部90周年おめでとうございます。創部90年とは日本の高校ラグビー史において、最も伝統がある学校の一つです。日本ラグビーの歴史は、1899年E・B・クラーク氏により慶応義塾大学に日本初のラグビー部が誕生しました。1907年には初の中学校同士の試合(慶応義塾普通部VS・大田中(群馬))が行われ、1918年第1回全国中等

学校大会(高校大会)が開催されました(出場：全慶応、全同志社、京都一商、三高)。その後、各大学のラグビー部が創部します(東大1921、明治1922、立教1923、法政1924)。名門大学の創部と同時期に福岡の地では、1924年に福岡中学、翌年1925年に修猷館中学にラグビー部が創部されました。この歴史的経緯からみても福岡・修猷は日本のラグビー創世記の歴史に名を残している伝統校なのです。修猷館ラグビー部は、その90年間の歴史において、創部以来諸先輩方の活躍により輝ける栄光(国体優勝等)を獲得してきました。90年を経過しようとする現在も、その志を保持し真に実存・躍進し続けている全国の中でも数少ない部なのです。この伝統は、日々を真剣に生きてきた数々の先輩の思いが蓄積されてきたものです。

私は、修猷館という学校そのものの、またラグビー部も『生きものだと思っています。生命力溢れる生きものです。不易(大切なもの)に頑固にこだわりつつも、自身を取り巻く複雑で変化の激しい環境に對し、それをも栄養・糧として変化・進化を続けるたくましい生きものと思っています。この生命体は、歳月を経る中で、その時代・時代の細胞戦士(部員)が『闘魂』に挑み、汗と涙で歴史を積み重ね、誇り高い独自の文化を築きながら成長してきました。90歳になった今もなお思いを受け継ぎ大きく成長しています。100歳を迎えたころには、良い意味で巨大な化けものになっていることを期待しています。

この生きものは、そこにかかわりを持つ多くの人々にもいろいろなものを与えてくれます。修猷の生徒・先生・卒業生、保護者・地域は勿論、全国のラグビー関係者が修猷ラグビーを話題にし、悔しい・歯がゆい思いをすることや、時にはその活躍に歓喜し涙する感

動・楽しみを与えてくれます。また、この生きものはもう一つ大きな役割を果たしてくれています。親としての存在です。日々グラウンドで挑み続ける部員をたくましい大人に育ててくれます。偉大で、厳しく・やさしい親です。志の具現化に挑む部員たちは、この親が見守る場で安心してラグビーを満喫し、すくすくと成長しています。

このように多くの人から愛され・応援される修猷ラグビー部、育ちの場としてのラグビー部が元気で生き生きとした状況で、創部90周年を迎えることができたことを嬉しく誇らしく思います。感謝します。

○顧問岡本としてのこの10年（創部80年から90年）

私は平成3年に修猷館に赴任し、その後21年間、魅力溢れる学校で教鞭を務めさせていただきました。あわせてラグビー部にも21年間お世話になりました。修猷でしか味わうことができないかけがえない体験ができたことに感謝しています。多く思い出や人とのつながりができました。3年前に転勤してラグビーに直接関わることはできなくなりましたが、つい最近まで、グラウンドで大きな声を張り上げ、頭の血管が切れそうなくらい血圧を上げて指導していたことを懐かしく思います。現在は修猷と同じラグビー・勉学の伝統校福岡高校に在籍し、少し違った立場でお世話になっています。福岡高校は襟章がラグビーボールでかたちづくられているくらいラグビーが学校のシンボルとなっています。歴史と栄光の重みを感じるとともにうらやましく思います。グラウンドでは指導者の情熱・愛・感性が溢れ、森監督の一言は、難しいスポーツ、ラグビーだからこそシンプルに指示され、生徒を一瞬にしてまとめ上げ、燃えさせていることに感銘しています。また、OB会の支援体制等も素晴らしいものです。ラグビー部ホームページの試合観戦日記が最高です！

是非見てください。製本してほしいぐらいの知的？内容です。

話を、母校修猷ラグビーに戻します。修猷ラグビー部はここ10年間、多くの先生が指導に携わってきました。これは、ラグビー大好きな中嶋元館長先生の御尽力によるところが大きいと考えます。ラグビー経験者が数多く修猷に入学することの難しさ（最近をよく勉強しているかも）を考慮し、私の指導力不足を補うことも含め少しでも強化への手助けとの思いのあまり、県内のラグビーは勿論、教科指導も優秀な先生？（瀬尾先生、渡邊先生、御領園先生、杉山先生）を修猷に招きました。そういった経緯でこの10年は、新たな組織体制できめ細かな指導が行われてきました。過去の私のワンマン指導から組織指導へと体制も進展し、私のラグビー部における役割も調整役へと大きく変わっていきました。これは、わがままな私には大変難しいことだったため、なかなか機能せず、部員たちにもどうすればいいのかと「惑い」を生じさせることも多々ありました。うまく組織マネジメントできていればもっと……と反省しています。平成22年秋からは監督を渡邊先生に引継ぎ、私は清水先生（修猷ラグビー部顧問25年目）とともに迷惑部長（自称・最高顧問）として今までとは違った立場で修猷ラグビーに関わることになりました。今まで生徒とともにがむしゃらに暴れ？ていた時代では気がつかなかったことも見えてきて、昔のことを思い出すと少し恥ずかしく笑えてくること、あのころの部員には「すまんかったな」と思わず反省している自分がいます。

私は現役時代に加え教員としても修猷に深く関わることができたことに、運のよさ・感謝・責任、そして花園の場に立たせてあげられなかった……（言葉では言い表せないもの）を感じています。修猷という場でしか出会うことができなかったであろう、すばらしい

生徒たち・個性豊かな先生、そして修猷ラグビー愛に溢れる先輩方等に多くのことを学ばせていただきました。今回、河野先輩から記念誌の原稿依頼（命令）があり、テーマは自由・文字数無制限というありがたく厳しい命令でしたので甘えさせていただき、学びの場で体験した私論を語らせていただきます。

I 修猷教員・ラグビー部顧問だからできた出会いと学び

人との出会いに感謝します。修猷という場においても必ず出会いがあるとはいえません。出会いはつくるから出会うものと思います。数えきれない人との関わりがありました。ここでは私が修猷・人に学ばせていただいたこと・思いを書かせていただきます。すべての出会いを書き表すことは不可能です。ここに書かせていただいた方は、その年代やエピソードの代表者と考えてください。「おれはどうした」はお許しください！

(1) 恩師

▽守田先生

じいさん！先生がグラウンドで倒れるまで毎日見守っていただきました。退職されても、学校の事務室に「今日、所用で練習休みます」と欠席届をいただいていた。修猷の教え『世のため人のために尽くす人』そのものです。

▽淵本先生

不気味な笑いの中に厳しさとやさしさ、褒められたのは教育実習のころが初めてかな。『修猷を誇るな、修猷が誇る人となれ』の教えを学ばせていただきました。卒業生においては『修猷を誇り、修猷が誇る人』になって、修猷の宣伝と社会に貢献をお願いします。

(2) OBクラブ

▽溝口会長

修猷ラグビーの根幹・教えを学びました。

▽古川会長

日々の練習風景や多くの練習試合を見ていただき感謝しています。現場の日々の姿を伝えていただきました。全体を包み込む温かみのある雰囲気と同時に、熱い情熱・決意を学びました。

▽柴田会長

「戦える体をじっくり作りやい」と本物の勝負師の感覚を学びました。

▽安部会長

諸先輩方と若手OBとの結びつきを実践していただきました。ラグビーに関わる知識は日本を代表するラグビーオタクと尊敬しています。

▽内藤先輩

ラグビーの新しい考え方・戦略を教えてくださいました。日本屈指の先進理論家！

▽谷井先輩

男ラグビーを教えてくださいました。

▽安川先輩

すごい人間力を教えていただいています。松瀬先輩と東京OB会を盛り上げていただき、教え子が物心ともにお世話になっています。

▽武藤監督

私の現役時代の監督。競技ラグビーは勿論、それ以外のラグビーの楽しさも教えていただいています。修猷館の校舎の壁ガラス、ラグビー部ブルー（ケンブリッジブルー）を企てた思いはすごい

です。

▽私の少し先輩OB

伊佐さん、松尾さん、小山さん……ラグビーの愉快なつながりと社会で通用する狂人とは何かを学んでいます。変わり者に寛容な気質！

▽後輩OB

十時、森田、堀内、野上……修猷ラグビーに対する思いが伝わってきます。教わる人が多いです。堀内…90周年お疲れ様！

▽渡邊先生

君がいなかったら私は教職につけなかったかも？高校、大学、職場と本当に迷惑かけて申し訳ない。ありがとう。26年度の東福岡を破った試合はお見事、感動しました。

▽濱田さん

感謝という言葉では表現できません。心の支えです。今後とも迷惑おかけします。私の教え子の多くは濱田さんの教え子となっているのでは（友達もいますが）。

(3) 教え子

▽眞鍋・山本

体育の先生、志を実現してくれたことを本当に嬉しく思っています。次の時代の中心は君たちです。思いっきり指導してください。

▽中山軍団

おバカで変人でもみんながついてくる力、若手の取りまとめる力には学ぶところがいっぱい。今後もラグビー部と俺もよろしく！

▽川寄・山本

日本代表になった本物の伝授を後輩のために。ここだけ命令

か！

▽キャプテン

〇〇キャプテンのチーム！いろいろな個性でどの年代のチームもまとまり、最高のチームを作り上げた。部員と指導者のつながり、そして部員をまとめるリーダーシップ。高校時代にあれだけ難しいことを成し遂げたキャプテンには感服です。

▽全部員

チームのため自分のためにグラウンドで自分が何ができるか何を表現するか、自分に挑み・最後まで戦う姿は最高。ラグビーがうまい下手でなく、いろいろな「カッコいい男」を見ました。最後の試合に出場できなかった部員の思い、男の悔しさと強さに涙しました。

▽マネジャー

女性のすごさと素敵さを、それとあたたかさを学びました。いつも私自身が君たちから世話してもらっていたような？ありがとう！

Ⅱラグビー（指導・支援）からの学び

公立高校の教師としてのラグビー指導とコーチング理論に則ったラグビーのコーチ、これを一人の高校の指導者が違和感なしに指導・支援できたらチームは強くなると私は思います。本当にこれは難しいことです。この2つの指導が別なものになり、お互いの問題点を疑問視しあう様になれば、一番困るのは現場の生徒であり、チームも強くなりません。多くの学校のラグビー指導者が悩み学習していることだと思います。私自身もこの2つを単に比較・批判していた時期もありました。教員として経験をつみ、またコーチング理論も数多く学ぶことで、違和感は多少払拭できてきました。しかし、実

実践指導となるとなかなか難しいものだと感じています。このことは高校ラグビーの難しさと良さでもあると考えます。

ここでは修猷ラグビー部員に、どのような「男」になってほしいか、どのようなチームになってほしいかを、修猷の教え・ラグビー部の闘魂・生徒の特性を総合的に考えてマネジメントしてきたことを書きたいと思います。花園の場に立たせることができなかった者の指導内容です。異論・違和感は多々あると思いますが、これもまた岡本のわがままな私論とお許しください。

(1) 生徒…かつこいい男への道

①ラグビーという今までと違った世界に飛び込む、からだ全部でショックを受ける

②志に挑むために「何のために練習し、どう成長したいのか」を定め、失敗も経験する

③疑いを持たず先生に頼りすぎていいのか、反骨はどうした！(批判的な思考力)

④やっている「つもり」なのと「できている」のはまったく違う

⑤確立した自己・自分のものと言えるものを掴み取る

⑥チームとは何か、個人を活かす組織、組織を支える個人を実践する

⑦運を引き寄せる行動にチャレンジする

・ついでる人とことんつき合う。ツキを持った人は、何かツキをつかむ秘密や工夫がある。盗む努力！

・長所・得意を伸ばす。それを自信・自尊心そして意欲につなげる。

・何か偉大なるものを大切にする(謙虚さ)。「人として」どうかという生き方をするか日々実践する。

⑧失敗や成功の経験を通じて、組織人としての基礎力、したたかさ・駆け引き・段取り・根回し力、そして常に謙虚さ等の社会に通じる力を身に付ける

・一緒に仕事をしたいと思わせる人、飲み会の幹事を任される人

・人として望ましい人物は、失敗の経験がある人物

・リーダーは機能であり「ついて行こう」とするフォロワーがいる

・インテリジェンス↓社会の中でどうふるまえるか

・「何を」してきたかではなく、その経験を通じて、自分は「どんな意識が開かれ」「今後どのように活かせるか」を語ることのできる力

⑨成長したかつこいい教え子

・「型」を獲得し「型を破った」変人・達人はすごい(守・破・離)
・結婚式で新郎がけなされるかつこよさ(余裕)

*かけがいのない仲間

闘魂の限りを尽くして戦い涙した日々、3年間やり遂げたもののたちの友情、ラグビーの仲間は違う！

(2) 指導・支援のポイント

①指導者としてのサポート『人としての成長を語り続ける・可能性を信じる』

・サポートとしては、熱き思い、細かな仕掛け、我慢・見守り、失敗への寛容さ、そして「良い加減さ、完璧は有り得ない」
・基礎力の獲得

ア【前へ踏み出す力】

・一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む力

・答えが一つでない社会、試行錯誤して行動、失敗の経験、他者との協力、粘り

イ【考え抜く力】

・疑問を持ち、考え抜く力
・問題意識を持ち課題の発見、解決するための方法・プロセスを考える

ウ【チームで戦う力（チームワーク）】

・多様な価値観の統一（違った人がともに目標に向けて協力する力）

・とんがりを作る（個性・特性を伸ばし）それを活かしたチーム

② シンプルさの追求

・15人のチームスポーツで組織と役割が複雑なため奥が深い。
多くを学び、そして最後はシンプルな戦術・戦略で戦う
・他校からの学びを修猷にアレンジ・練習試合の相手の練習が楽しみ

③ 今思えばこんな指導がもってできていれば……

・生徒が気づきや発見を起こし、行動を促す支援・サポート
ア…答えや能力はある程度その生徒に備わっている。まだ発揮できていないだけ
イ…やれる生徒・できる生徒である
ウ…指示しない、しすぎない「自分の考えを押しつけない」
『指導者が聞く』…生徒が話すことで自分自身で整理し・気づく

*指導者は引き出す質問・承認を行う

「やらせる・しなければならぬ」から「やりたい・したい」へ

『生徒を承認する』…自信を与え、行動を継続させる

*自分の存在・価値を認められたとき、一番やる気が上がる生徒に現れている「違い・変化」や「成長・成果」に気づきそれを言葉にして伝える。

『指導・サポート』…生徒が自分の現状に気づき、反省・やる気・改善する語りかけ

*ポイントは、指導内容は短く明確に（一度にあれこれと欲張らない）、他と比べず、生徒がとった行動とその影響について、自分の考えと気持ち・望む行動を具体的に伝え、態度の変化でなく行動の変化を求める。

資料【平成20年ごろチームづくり】 部員への配布資料

資料1

○組織指導時期のチームの構想

1. 前年度○○チームの総括

真面目な性格の部員が多かったことから、もう一歩踏み出すことがなかなかできず仕上がりが遅れた。そのような集団であったが、他県のトップチームとは互角以上の戦いができ、全国のトップチームとも集団が破壊されるまでは（筑紫戦でいえば後半10分まで）、十分戦えるチームまで育った。「否定だけでなく、ある程度の評価はできる！」

しかしながら、上位2校（東福岡、筑紫）とは、「体力（筋力・体幹力）、基礎・基本プレーの正確さ、集団の厳しさの継続力」に決定的な違いがあった。そこが、筑紫戦で言えば残りの20分、それまでのダメージの積み重ねや、集団力の衰退、心の弱さにつながった。人材や練習環境の違いに原因を求めるだけでなく、修猷ラグビーの在り方について新たな改革が必要である。

*以下は課題を中心に概略をまとめたものである

・素質のある生徒がスーパースターまで育たなかった。

・修猷館は強くない、隙があるチームとみられている。ゲーム中の厳しさが足りない。指導者の言うとおりのラグビーしかしていない、しようとしていない。

・全般的に、ある程度の素材を抱えながら、特徴あるユニットの完成に至らなかった。また、崩れかけてからの立て直しができないユニットとなった。

・スクラムの劣勢、BKの決定力不足（縦系の弱さ、2次3次のオプション、組み立て）、コンタクトフィットネス劣勢（後ろに下がったときのDF）、崩れだすと気持ちの落ち込み・連携連帯感欠落・ミスの悪循環……。

2. 新チームの構想

(1) 修猷ラグビーの目標

圧倒的な人材確保や練習環境を整えて戦う。極端に言えば「修猷の中に他の生徒と違うラグビー修猷」をつくることは、物理的・心情的・人間形成的に考えても問題とするところが大きい。まず、修猷生であり、高い志を持った高校生、誇り高き修猷ラグーマンであって欲しい。そうになると、花園は現在の福岡県の状態を考えると簡単に口にできるものではない。

勝つことは目標の一つであるが、最大の目的でない。人間形成（リーダーシップ、公に尽くす、他人を思いやる、弱者を救う、信念、気概……）。学校生活における存在感（学校のために、仲間のために、ラグビー部員でありながら学校の中で貴重な存在）。しかも、勉強や環境を言い訳にしてラグビーを語らない……などなど。

しかし、「目標は花園」。修猷生であるならば挑んで欲しい。すべ

ての学年が主役であり、何年か毎に訪れるチャンスの年に花園をものできる修猷ラグビーをつくる。そのために、新たな改革が必要である。魅力ある・力ある修猷ラグビーを再構築する。今年はそのチャンスの年である。今年こそチャンスをつかむ！

「花園は違う」最高の経験をしよう。いくつかのものを犠牲（本当は犠牲ではない）にしても、勝ち獲る価値がある。

(2) 新たな改革…筑紫・東福岡（全国トップクラスの人材と練習）に挑む

本当にたくましい主体的なラグーマン、挑む「精神・肉体・技術」①たくましく・主体的なラグーマンへ

正直なところ、生徒の主体性を育てる過去の成功例で本当に今のトップレベルの2校のラグビーに対応できるのか、間に合うのか、という不安感を持つ。しかしながら、このメンバーで他県のトップレベルと互角と戦えている成果もある。幼児期から育ってきた（教わり方）生徒像の変化から逆に弱体することも考えられなくもない。きれいな事・理想論だけでなく、本当に今の彼らができるのか？本当にそれを欲しているのか？と自問自答を繰り返す。チーム運営は今より難しく・新たな工夫が必要になるのは当たり前である。しかしながら、更なる実力アップのために挑む必要性を感じる。こちらの方が実際、生徒も指導者も楽しい。この難しいことは修猷だからこそできる！。

『あせり・ジレンマと不安と意欲……だから修猷』

②挑む修猷ラグーマン…『ゆつくり・あせらず』をコンセプト

やる時はやる生徒、不器用だけどチームのために刺される生徒、相手が強くなればなるほど燃える狂った生徒、お互いを切磋琢磨できるきびしい集団。修猷のアドバンテージ（自由な校風、高い学力、

努力を続ける力、成功体験の豊富さ、向上心」を生かしたラグビー。
ラグビーの本質を捉え生徒自らがつくりだす楽しいラグビー。

＊具体的対策（生徒間のコミュニケーション力育成が大きな優先課題）

ア…修猷ラグーマン像の伝授

適宜ゆつくり丁寧に講義

「ラグビーを知る、生き方を知る、闘魂を知る……」

・VTR活用（いいプレーの疑似体験）、プリント配布

・「月1、2回」の講義や自主ミーティング

イ…キャプテン（リーダー、ゲームリーダー）の運営能力強化

・指導者とのミーティングを恒例化（週1回）

・厳しく、楽しい集団づくり

・スキル、戦術・戦法の落とし込み

ウ…生徒の研究意欲 課題提出や提案採用「個人ノートの活用」

・試合後（練習試合含む）個人・チームの課題と解決方法、

新提案を各個人が提出（リーダーは把握と分析・指導者もチェック）

・VTR分析（生徒も指導者も）

・生徒自らつくりだすラグビー…3年生（リーダー）中心に強制されない自由で柔軟な発想、能力を活かす、自分たちの強みを活かす

エ…自信を持つ

失敗を気にしない

積極的な発言とその雰囲気

自分たちの発想・意見を交わし、それを活かす。

きついで楽しい練習、リラックスする場面

オ…修猷のアドバンテージを生かす

理解力、考察力

ラグビーを理解（ルール、ポジションの役割、プレーの意味、戦術）から、自分たちの戦術・サインプレーの追求、プレーの精度へのこだわり、局面に応じた判断力。持続力

3. 勝つための修猷ラグビー

(1) 挑む体づくり

高い次元で戦える体力と体幹

身体作り（最優先）…60分間フルに走って、コンタクトできる

『管理体制とシステム』生徒担当長…生徒、管理…杉山

理論学習…栄養・トレーニンング講習会「外部講師活用、過去の資料活用」

練習メニュー・アドバイス・評価・データ「個人ノート活用」、データ測定（月2回）体重、胸囲、大腿・上腕・首周り・背筋力・握力・懸垂・柔軟性、3大ウエイトトレーニンング、科学的測定（2月に1回）走力も含む・持久力

①養吸収 生徒担当長、管理…渡邊

5000カロリ（1日5〜6食）を厳守、栄養講習 生徒、保護者（具体的メニュー等）

②体幹トレーニンング 生徒担当長…、管理…岡本

グラウンド（日々）アップ、可動範囲拡大10分、20分のメニュー：メニュー検討（継続）ラグビーに効果、水分補給…腕立て、首、ダウン…懸垂、走り込み 5分

各自の自由時間（休み時間、家、自由時間）、簡単にできるメニュー

検討

③ ウエイトトレーニング 生徒担当長…、管理…トレーナー、杉山

最低週2回は実施（計画的に）ノート記入、週1回練習時間内…火曜日、木曜日の使い分け、昼休み等の自由時間活用、土日月の活用。

4. 新しい修猷ラグビー

(1) ラグビー研究

「筑紫や東福岡、早稲田、トップリーグから謙虚に学ぶ」

技術・戦術の細かな分析、練習内容、トレーニング

*情報収集方法

分析会（週1）

新しいルールでのラグビー分析

←←

そこから生まれる「新しい修猷ラグビー」の構築

人材・時間・環境を考えて、修猷のオリジナルラグビー

練習方法、基本スキル（反復練習の内容）、個人スキル

チームとしてのオリジナルスキル、戦術・戦略

精神（闘魂）、修猷生としてのプライド

*修猷の基礎基本のプレー（修猷館にとって基礎基本プレーとは

具体的に話し合い）の徹底（継続練習）

*練習時からのVTR導入（トレーナー、マネジャーの活躍）

資料2

○闘魂『挑むラグビー』

年間継続強化目標

自分たちの主体性や創造性を基に、3つの柱『体力アップ（筋力・体幹力）』『基礎・基本プレーの正確さ』『集団の厳しさの継続』を

徹底的に鍛える。

1. 主体性

ラグビーが好きだ・誇り！リーダーシップとフォロワーシップ、積極的な企画運営、各自の責任とプライド、真の仲間への関わり方『やる時はやる生徒、不器用だけどチームのために刺される生徒、相手が強くなれば成るほど燃える生徒（狂気じみた情熱）、ひたむきにお互いを切磋琢磨できるきびしい集団。修猷のアドバンテージ（自由な校風、高い学力、努力を続ける力、成功体験の豊富さ、向上心）を生かしたラグビー。ラグビーの本質を捉え生徒自らがつくりだす楽しいラグビー』

(1) 体幹トレーニング

・グランド（日々）アップ・可動範囲拡大・基本スキル20分
20分のメニュー・メニュー検討（継続）ラグビーに効果
水分補給・腕立て、首、ダウン・懸垂、走り込み5分

・各自の自由時間（休み時間、家、自由時間）、簡単にできる
メニュー検討

(2) ウエイトトレーニング

・最低週2回は実施（計画的に）ノート記入、グラフ作成、前後
写真

・週1回練習時間内…火曜日、木曜日の使い分け

・昼休み等の自由時間活用、土日月の活用。

(3) 栄養吸収

・5000カロリー（1日5〜6食）を厳守、摂取のタイミング
・外部講師による指導 年3、4回

(4) 走り込み

・「のどがくつつく、吐きそうになる」まで走りまくる練習。1

回／1日（ランパス、速いテンポのオールメン、基本スキルの連続、戻りなど）

・AT走で心肺機能アップ

(5) データ測定（月2回）＊各自ノートに記入

・体重、胸囲、大腿・上腕・首周り、背筋力・握力・懸垂・柔軟性、ウエイトトレーニング（4項目）

・科学的測定（2月に1回）

2. 基礎基本プレーの正確さ

修猷の基礎基本のプレー（修猷館にとって基礎基本プレーとは）

(1) 全員が必要とする能力

・ラグビー知識・理解（歴史、本質・特性、ラグーマンに求められるもの）

＊陣取り・トライゲームをどのように進めていくか？

戦術の理解

・修猷ラグビー精神

＊修猷ラグビーが求めるもの……『かつこいい男』の追求

・ゲームプランの充実

＊修猷の戦術の構築・組織理解、エリア・タイムマネジメント

＊状況判断の重要性（よみも含む）

・走力（5mの走力）、持久力（集団、精神、走力、筋力）、筋力

体幹力＊前項の内容を確実に実施・獲得

・ブレイクダウン ゆっくり型をつくる↓スピード・パワーアップ『最高は押し込んだ速いテンポの球出しや敵ボールゲット』

「強さ・速さ・低さ・前・ボール」への拘り

① タックル

＊アタックル（刺さるタックル）・クリーンオーバーゲット

ア…勇氣・判断・間合いの詰め方・スピード

イ…頭を上げ・体の中心で・頸でしめ・下から前上へ

ウ…パワーフットのけり・レッグドライブ↓サポートドライブ

ブ…ボールにからむタックル・ゲットまたは球出しを遅らせる

ア…サイド・ハード・タックル

イ…抱え込み・相撲押し合いタックル

ウ…スマーザータックル

エ…ぬかれ際の足首へのバインドタックル（ヒールタッチ

タックル、カバードF、もどり等を含む）

② ステップ・突破…あたりの感覚をなくす（修猷オリジナルラグ

ビー）

＊接点で相手との間合い・間隙を力強く突破（2度ステップ、

逃げない、顔を切る）

＊ボディーコントロール、ずらし、かわし、スピード・コース

の変化

③ 接点でのつなぎ「ボールは両手、脚から当たる、重心は低く」

＊ドライブ・ドライブ・ダンボール

＊倒れないつなぎ（リップ、ガット等、特に大きなプレーヤーは）

④ ダンボール

＊簡単に倒れない・両手・戻り・丁寧置く

＊倒れる方向は？（チーム約束）

⑤ オーバー…ライビングプレーヤー（特に2人目の速さ・低さ・

強さ）

・クリーンアウト・オンザボール・バインド・ドライブ・ゲット

＊攻

- ・ボールキャリアーが倒れない↓キャリアーをバインド、ドライブ・ドライブ、ダンボール
- ・ボールキャリアーが倒れた↓オンザボールで敵にヒット・脚を持って剥がす、最短距離でボールキープ

＊守

- ・勝ちタックル↓クリーンアウト
- ・互角、負けタックル↓捨てかジャッカルの見極め、ジャッカル↓すぐに立つタックラー、近くのプレイヤー
- (2) ポジション別に必要な能力…具体的に個別指示と各自が研究

・修猷のチーム戦術を理解することで『役割』把握……必修スキルアップ

・個人の得意からチームのレベルアップ、矢りを結びつけた修猷オリジナルラグビーの構築、「まず、いいもののマネから本質を学び、個人のオリジナルへ」(トライ全集などから学ぶ)

3. 集団の厳しさの継続

(1) 知識・ラグビー理解・研究

チーム戦術の整備とシステムの中の自分の役割に対して責任を果たす力、ワークグループによる研修(ポジション別など)

(2) 上記の2つの柱の充実

＊崩れかけてからの立て直し(気持ちの落ち込み・連携連帯感欠落・ミスの悪循環を打破)できる、個人の画期的プレー「流れを変える必殺のタックルなど」や基礎基本で狂ったようにまとまる集団の強さ。

＊本場に強い相手(全国のトップレベル)と試合し、劣勢を体験する

(3) 仲間を信じる。仲間が感動する、観ている人が感動するひたむきな取り組み

- ・勝ちたいという気持ちの強さ
- ・修猷と試合するのが嫌(怪我する、不気味)
- ・失敗しても責任をとれる男は信頼される

資料3

○新人戦優勝のために…公式戦はすべて勝ちにいく

1. チーム

- ・上記の年間強化主体性と3項目の充実
- ・ラグビー理解
- ・得意を活かした修猷ラグビーづくり
- ・個人のタックル力アップと前に出る・相手にプレーさせない、しかも対応出来る組織DFの理解とマスター

・大会の2週間前に指導者・選手の共通理解(戦い易いようにシンプル化)

2. FW

・セットプレーの安定(特にスクラム)

＊キックオフ、ドロップアウト

- ・ブレイクダウンの強化(特にオーバー、ボールへのからみ)
- ・組織DFの理解(役割・コース理解、破壊・ゲットと捨ての見極め、リピート)

・迫力ある縦の突破(倒れないつなぎ)FWだけのつなぎ↓モール・ラックの組合せ連続つなぎ、ショートパス

3. BK

・ゲームメイク…状況判断、チーム戦術の実行

＊エリア(地域)マネージメント

* タイムマネージメント

* 環境・状況マネージメント（気候、選手、疲れ方等）

・キックによるエリアマネージメント（FWを疲れさせない、前に出す）キックの安定（精度と距離）FWに頼らないチェイス、ターンオーバーからの決定力（想定）

・攻撃の組み立て メイクラインの速さ・整備（選択肢が増える）縦の活用、崩れたときの対応、キックパス（ゴロパン含む）敵DFによつては最も有効

・DF 組織DFの徹底・メイク（ならば、出る）インサイドブレイクされないDF、地域・相手の陣形を考えたDF

・個人技「精度」 ポジションに必要な個人技

資料4

○闘魂・信疑『志から生じる挑み、信じる心と疑うことから生じる新たな発見』

「人」に勝つ方法をとにかく思索することよりも、まず、「自分」に勝つ方法を身につけてほしい。どんなことでも最後に立ち向かうべき相手は自分である。何かを達成しようとするとき、人を攻撃したり・追い落とそうという暇があれば、どうすれば自分を高めることができるか考えよう。（自分の弱さに絶対負けるな、弱いからより強くなる）

1. 勝ち方をみいだす

(1) ラグビーの面白さ

『個人の能力・判断力』『本能の赴くまま自由奔放に』

* 2つは相反するものでなく、混在するのが面白く、パワーアップにつながる

『システマティックな戦略』『周到な準備のもと意図的に』

* 3次4次攻撃まで事前に役割分担

(2) 勝利の要因「何が勝敗に影響を与えているかという視点を持つ」

①スキル ラグビー技術は、スキルとして身につけてこそ役に立つ（適切な判断のもと、どの技術をいつどの場面で使うか？）

「ラグビーに関する知識、個人の意欲・努力・工夫：個人練習」

②戦略 あらゆる可能性や能力を最も合理的に活用するもの（スキルの裏付けがあつてはじめて機能する）「チームの持っている良さを活用、知的問題が勝敗を左右する」

(3) 戦略（意図した試合運び）

「前進、サポート、継続、集中」というラグビーの基本に試合の中では、「ペース、リズム、サイクル」といったものが勝敗に大きく関わる。ここに影響を与えるのが戦略である。戦略を持って試合に臨むことは、試合中の選択幅を限定し（シンプル）、意志決定の段階をスムーズにする。

①相手の分析 どういうサインプレーとか、何番が強敵とかだけでなく、「どういう試合運びをしているか」「どういうトライを獲得しているか」を分析する

②分析後の戦略づくり 「相手のチームがこうするから、自分のチームはこうする」という受け身の発想でなく、「自分達の良さ發揮し、相手にプレーさせない自分達の試合展開に持つて行く」ためにどうするかという積極的な発想で考える。

2. ラグビー技術1

『人とスペースを余らすために』

(1) パス パスをするときパスをする意味が必要（判断と勇氣）

* このパスはおまえがこうして欲しいという気持ちでパス

* パスは自分が持っているより、有利な状況をつくること

(2) スペース 防御はスペースを人で埋める、攻撃はスペースにボールを入れる

(3) パスとスペースの関係 横にボールを動かすのはパス、走るのは縦

＊スペースを斜めに走るのはマイナス

＊後ろにしかパスできないリスクを持っているため、スペースのないパスはマイナス 例…崩し↓そのプレーが次のプレーにどう生きるか（人とスペースの有利をつくる戦略）

補足

1. 厳しさ（基礎基本の徹底）と激しさ（鋼の心と体）身を粉にしながらボールをいかす献身的なプレーができるようになる

2. 出会いを大切に！（感謝）

3. 体つくりとラグビー理解の両立 鍛え上げた肉体、それとキレと頭で勝利！（パワーのみでも、理屈だけでも勝てない）

4. 自分を信じる度胸 地道な鍛え上げる努力と自分のことをのみ込み、考え・修正して成長していく者が勝ち残る。また、自分のものにする（自分で工夫）

【各代の思い出】

▽17年度（山口チーム）

部員29名（内マネジャー2名）と修猷史上、最大人数の学年でした。体格に恵まれたものは少なく、3年からレギュラーになったものがほとんどでしたが、3年での伸びは一番。学年中にラグビー部員がいて学校を盛り上げました。

▽18年度（平松チーム）

北海道遠征を実施、北の地で大暴れした学年でした。この学年から多くの北海道大学ラグーマンが生まれました。本当に小柄なチー

ムでバックスの選手が一番長身というチームでしたが、キャプテンのすごいキックとグランドを全員で駆け回るラグビーが印象的でした。

▽19年度（農塚チーム）

厳しく男気の溢れるキャプテンのもと一番練習したチームの一つです。しかし、結果は不運（組み合わせや他校の少年ラグビー経験者の急増等）にも努力と一致しませんでした。3年間結果が伴わず苦しい思いをさせた学年でした。しかし、修猷魂はすごかったです。

▽20年度（飯田チーム）

前年度の激しい練習のおかげで、春の全国選抜大会に出場できました。全国のトップチームとも互角に勝負できました。グランドで歌った「彼の群小」は最高でした。

▽21年度（下川チーム）

この学年は能力に恵まれた部員が多く、いろいろなことにチャレンジできるチームでした。チーム力も十分全国クラス以上の力があったと思いますが、福岡県は難しい。学校においても学校を代表するラグビー部員が多くに存在しました。

ラグビー部と応援団



福岡県立修猷館高校 教諭
ラグビー部 顧問
応援団 顧問

清水 嘉 隆

修猷館高校ラグビー部の顧問となって24年になりました。長いラグビー部の歴史の4分の1以上に関わることができたことは光栄なことです。ただし、関わったといっても、グラウンドで部員相手に指導をするわけではありません。顧問団で飲んだり、ラグビーOB・OGと飲んだり、現役部員の保護者の皆さんと飲んだり、お茶やコーヒーなどを……というのが主な仕事です。簡単なお仕事です、たぶん平成26年度からは久しぶりに顧問3人体制（渡邊・真鍋・清水）になりました。平成15～26年は4人または5人体制でした。それ以前の平成9～15年は、岡本・瀬尾・清水の3人、さらに前の平成3～9年は岡本・清水の2人だったことには、しみじみとした気持ちにさせられます。顧問に名を連ねているのは、その頃の名残があるのでしょうか。

ラグビーの指導はできないとはいえ、県内での公式戦はすべて応援に行っています。それは応援団の顧問でもあるからです。県外になると、行けるときと行けないときが出てきます。平成25年2月の沖縄での九州大会には行けませんでした。応援団2名は参加しましたが、引率は応援団の副顧問でもある渡邊先生に任せる形となったからです。

平成20年4月の全国選抜大会では、往復ともバスで行く「弾丸ツ

アー」が生まれ、応援団とともに埼玉に行きました。青森北との試合は強風のもとで行われました。団旗が飛ばされないように、旗長とともにポールを押さえていたため、試合をよく見ることはできませんでした。団旗のついたポールに触るのは初めてでした。団員以外の者が団旗に触ることを団員が嫌がるからです。それでも、強風に飛ばされそうな状況、降ろすかどうかの判断の難しさ、時代の変化により困った状況で大人が手助けをすることへの抵抗感の低下から、団員以外の私が、ポールに触れ、倒れ込んで支え、団旗を巻き付け、旗の中央にある六光星が示せている間は降ろさないでいいのではとの提案をしました。結局、団旗を掲げたままノーサイドを迎えました。

ここ一番の時に「意地」を張ることは必要です。それを生徒、部員、団員に伝えたいし、示せばいいなと思っています。ただし、意地を張ることは一定の犠牲がともなうことがあります。強風の中で意地で旗を掲げ続けると、ポールが曲がり使いにくくなる、あるいは使えなくなります。あとで考えるとそんなことは「常識」ですが、ここ一番の時には……。また、翌日の明大中野に勝利したあとの、OB・OGによる「彼の群小」も強く心に残っています。

応援団は、多いときにはマネジャーも含めて10人以上になることもあります。ここ数年は一人っきりの時も多くなりました。一人または二人で応援をしていると、周りの修猷館関係だと思われる方から、激励の声をかけていただいたり、葉書やメールで感謝の気持ちをお伝えいただいたりすることがあります。ありがたいことです。

また、ゲーム終了後は、部員が応援団のところにやってきて、応援団はエールを送ります。団員1名に部員数十名が向き合います。キャプテンはしっかりとお礼を言い、負けたときには、次での勝利

を誓うことが常です。試合中の応援団は、基本はじつと立っているだけの応援です。存在することだけが応援のほとんどです。そんな応援団にラグビー部が敬意を払ってくれることは、応援団にとって、勝利を期して、意地を張ってじつと立ち続けることの意義を強く心に感じていると思います。

晩年に近づいたと期待している私にとって、修猷館ラグビー部は重要な存在です。とくにOB会にはいろいろとお世話になりました。今後ともなることと思います。よろしくお願いいたします。さすがに10年後の百周年には、退職していますから現役顧問として臨むことはありません。が、これからもずっと、何十年、何百年と修猷館高校、修猷ラグビー部、そして修猷応援団が意地を張りながら活躍、発展していくことを願っていくつもりです。



教員生活における

ラグビーを振り返る



元・ラグビー部 顧問
福岡県立玄界高校 校長

御領園 昭彦

今年で教員33年目を迎える私にとって、その生活はまさしく「授業と部活」の毎日でした。昭和56年に大学を卒業したのち、講師を経て教諭となり赴任した最初の学校は筑紫丘高校でした。社会科の先輩教師に「授業が終わったら直ぐにグラウンドに行け」と教えられ、真に授業と部活の毎日。9年間の勤務で全国大会に2回出場させてもらい、生徒の土壇場の強さを見ることができました。次の4年間は宗像高校。部員70名の筑紫丘から、13人の素人ばかりの部員との初対面の日思い出します。部員集めから保護者会結成まで、苦労を共にした生徒たちとは今でも家族ぐるみのつきあいです。次の5年間は、現在の勤務校である玄界高校。ラグビー部はなく、引き受ける者がいなかった馬術部を担当。別世界を知る一方で、この頃からレフリーの勉強を本格的に始めました。平成15年から6年間で修猷館高校。修猷ではすでに岡本監督、瀬尾部長が君臨していましたから、私はもっぱらサポート役で、口うるさい清水先生のお相手が私の役割でもありました。修猷では校技(?)がラグビーでしたから、ラグビー部員はそれなりの覚悟と責任を持たされています。昔はわかりませんが、部員はラグビーだけで学校生活は送れません。授業だけでなく、文化祭や運動会といった学校行事にも貢献し、世のため人のために尽くすリーダーになれと教えられています。6年間の

在職の間、年3回の県大会で優勝こそありませんでしたが、決勝までいったり、全国選抜大会に選ばれたりして充実はしていました。

ラグビー推薦で入学させることがそれほどできないチームがどのようなにして強豪に勝つのか、それは言わずもがな戦略や戦術はもちろん、「集中力」「精神力」「団結力」等々を最大限に駆使することでしょう。そしてそれこそが、修猷ラグビーの真骨頂であると創部90年の歴史が物語っていることに間違いのないと思います。しかし改めて言わせていただければ、在職中のラグビー部の数々の勝負は、ラグビー部だけでなく修猷館のもつよき学校文化、あるいは学校全体を包む空気が反映された結果ではないかと思っています。

私には心密かに抱いている夢があります。全国の進学校のラグビー部交流会です。ラグビーのプロを目指すのではなく、ラグビーの経験と仲間を通じて、世のため人のために尽くすことを教えられてきた学校同士が、自分たちの学校やラグビー部の誇りをかけて戦い、勉強を競い、日本の将来について語り合う場を、泊まりがけでできたらどんなに楽しいことかということです。県内には同じような学校がいくつもありますし、修猷館が中心となつて全国に呼びかけて実現できたら実に面白い企画になるのではないかと思います。修猷館はOB会同士では東京で毎年実施されているようですが、ラグビーを通じて、これからの日本を背負う現役の高校生の集まる会を是非実現させたいものです。

やはりラグビーは素晴らしい。社会科の教員でありながら、ラグビーの指導、レフリーを通じて改めてラグビーというスポーツの教育的効果、教育力を強く思い直しています。今、文部科学省が求めている教育目標は「生きる力」の育成です。子どもたちにラグビーをさせることが最高の教育手段だとは言いませんが、少なくとも高

校時代にラグビー部に所属していれば「生きる力」を教えることができるかと確信しています。これまで教えていただいたラグビー関係者への恩返しとして、また6年間ではありましたが修猷ラグビーの神髄を教えていただいた生徒やOBの皆様たちへの感謝の気持ちで、これまで学んだ経験を教員生活の残り3年間に生かして参りたいと思っています。

2019年に向けて



元・ラグビー部 顧問
福岡県立早良高校 教頭

瀬尾 博 栄

修猷館ラグビー部創部90周年おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。また、今後、100周年に向けて、修猷館高校ラグビー部がますます発展することを忠心より祈念しております。

さて、今回、創部90周年部誌に寄稿するにあたって、福岡県高等学校体育連盟の記録から県内の高校及び修猷館の部員数及びラグビー部の設置校数（事務局に記録が残っていた昭和58年度～平成25年度）を調べてみた。修猷館高校ラグビー部において、部員数が最も多かったのは平成16年度の67人、最も少なかったのは平成8、9年度で33人、この間の部員数を平均してみると49・1人であった。県内のラグビー部の部員数の平均値（県内のラグビー部員の総数を設置校数で割った数）の最大は、平成元年度の38・4人であり、そ

の数字と比較してみると修猷館高校は県内でも有数の部員数を誇っているといえる。一方、県内の高校のラグビー部の部員数及び設置校数は、部員数が最も多かった平成元年度は2153人、一方、平成25年度は1330人であり、800人程減少している。設置校数は、最も多かった昭和63年度が59校、平成25年度は48校であり、11校減少している。また、平成25年度の新人大会への参加校数は29校となるなど、本県の高校のラグビーの部員数及び設置校数はかなり寂しい状況となっている。

顧問を務めていた11年間の間、部員の確保には特に必死に取り組んだ。体験入学や入学式等で大量にチラシを配ったり、練習を休止して部員全員で勧誘したりもした。また、入学直後の保健体育の授業にラグビーの授業を組み込み（かなり我が儘でした）、1年生の男子生徒全員に、いきなりラグビーを体験させた。さらに、OB会にホームページを立ち上げていただき、ブログ上に試合結果や遠征の様子、部員達の3年間の肉体の変化等を公開（現在は多くの学校でやっています）するなどして、一人でも多くの生徒や中学生に、修猷館のラグビーに関心を持ってもらう取り組みも行った。背の高い新入生がテニス部の練習を見学していたので、ラグビーグラウンドに連れて行き、2時間半かけて口説いたこともあった。

修猷館のラグビー部が常に県大会の上位に位置しているのも、多くの部員達が部の門を叩いてくれたからだと思っている。

2019年（平成31年）にラグビーのワールドカップが日本で開催され、本県での開催が決まった。その他の市町村も、キャンプ地の誘致に名乗りをあげている。是非とも、県内の多くの都市でキャンプを行っていただき、本県においてワールドカップが成功（観客動員や運営ボランティアの確保等も含む）するとともに、その機に

乗じた更なるラグビーの普及が叶うことを期待している。そのためにも、本県の高校ラグビーは前述の通り非常に厳しい状況だが、私も微力ながら県内の設置校数の増加や部員数の増加等について注力していきたい。修猷館高校ラグビー部においても今後とも様々な取り組みを行っていただき、部員数の確保・増加に努めていただくとともに、本県におけるワールドカップの成功や更なるラグビーの普及に、是非とも御尽力いただきますようお願いいたします。

2019年を契機として、本県のラグビーがますます発することを、切に願っている。

「修猷のラグビー」を問い続け



元・ラグビー部 顧問
福岡県立福岡高校 教諭
ラグビー部 副部長

杉山 英明

ラグビー部創部90周年おめでとうございます。90年間脈々と受け継がれた修猷ラグビーの伝統に貢献された全ての方々に敬意を表します。

私は平成20年4月～26年3月の6年間、顧問をさせていただきました。90年の歴史のなかで6年というのは実に短い期間ですが、多くの生徒、OB、保護者の方々と出逢い、この6年間で様々な場面でうけた感動と、感謝の気持ちの大きさは筆舌に尽くし難く、私の大切な財産となった貴重な6年でした。

赴任当時は、私がライバル校の福高ラグビー部出身ということで、関係者の方々にとつては、多少なりとも抵抗があったのではないかと思います。正直に申しまして、私自身も修猷の「青」に違和感がありました。さらに、一緒に顧問をする岡本先生や渡邊先生は、高校生の時からよく存じ上げており（お二方とも私の年上で……）、完全AWAY状態にいる思いでした。しかし、柴田名誉会長、安部会長をはじめ多くのOBの方々に、大変温かく受け入れていただきまして修猷の懐の深さ、寛大さが身に染みました。本当に感謝しております。

私は修猷に赴任してから『修猷のラグビー』とは？』を自分なりに問い続けてきました。進学校として学業と両立していくには？東福岡や筑紫といった全国レベルの強豪が犇めく福岡県で勝つためには？運動能力が高くない未経験者が多く入部してくる現状を踏まえ、これまでの歴史や伝統を学び、他の顧問の先生方といろいろ議論して試行錯誤してきました。

たった6年で、修猷のラグビーを語るなんておこがましいですが、いま、修猷を離れて外からみて、ようやくほんの僅かですが、自分なりに見えてきた気がしています。それは、昨年（平成26年）の春と秋の大会で東福岡と戦った二つのゲームを観戦してのことです。どちらのゲームも、東福岡の選手の足首に、修猷の選手のジャックナイフのような鋭いタックルが何度も何度も突き刺さり、王者・東福岡のゲームプランを崩壊させました。秋の決勝では敗れたものの、あの「強い者に果敢に挑みつづける姿勢」「仲間のために体を張る気持ち」といったラグビーという競技の最も大切な精神が、まともにあらわれたゲームでした。周囲の見る者を感動させ、希望を抱かせるゲームでした。どのチームの指導者も同じように唱え育む精神

ですが、あそこまで徹底して出来るのは、一人ひとりの生徒の気持ち、他から与えられたのではなく、自らその気持ちとなり、所謂「本物」になったからではないかと思いました。未経験者でも誰でも、最後は自分と対話し、「敵に勝つ」こととは「自分に勝つ」ことに気づき、苦境に挑む「勇氣」を身につける。その辺に修猷が目指すラグーマンの目標のようなものがあるように私は思います。6年間を総括すれば、関わった生徒達は皆、最後はやはりその「本物」を身につけて卒業していったと信じています。そこが「修猷の強み」であり、それを体現するのが「修猷のラグビー」だと思いました。さらに、肝心なこととして、修猷館高校全体の「自由」や「自治」という伝統的な学風こそが、生徒の自主性や主体性といった精神の成長に大きく寄与していると私は思います。これは、他の学校に追随を許さない大きな強みですし、これからは是非残していくって欲しいと願っています。

現任校の福高は90周年記念試合で昨年のリベンジをかけています。修猷で得た貴重な経験を母校に還元していきたいと考えています。ライバルとしてさらに高め合う関係を築いていくことを切に願っています。

この10年



元・ラグビー部 顧問
福岡県立太宰府高校 教諭

山 本 崇 弘

(平成18年卒)

創部80周年の時には高校3年生としてラグビー部で日々汗を流していた私が、90周年の部誌にこうして拙い文章を書いていることに驚きを感じています。振り返ると、私は修猷のラグビー部において、たくさんのお恩恵を受けてきました。

現役時代は、時枝主将（H17年卒）を中心とした先輩方に九州大会や花園予選決勝の舞台に立たせていただき様々な経験をさせていただきました。同級生には、おそらく過去最高の部員数となる29名もの仲間に恵まれました。OBの方にもたくさんのお支援をいただき北海道選抜大会にも初出場をさせていただき、奈良県へも天理高校ラグビー部創部80周年の記念試合に招待いただきました。北海道選抜大会では、現在日本代表主将であるリーチ・マイケルとマッチアップができたこと、天理高校とは前年にも本校にて試合をさせていただき、その年の天理は全国準優勝していることなどを考えると本当にありがたい年であったなと今でも思います。そして、そうした全国の強豪校に勝つという経験をさせていただいた岡本先生、瀬尾先生、御領園先生、清水先生と指導者にも恵まれました。

社会人となってまもなく、また縁あって修猷に指導者として戻ることもできました。永富キャプテンの時には、挫折を味わい、高橋キャプテンの時には、新人戦で筑紫を劇的な逆転で破り沖縄へ連れ

て行ってもらい、今年の柴尾キャプテンの時には、東に勝つという報告を関口マネジャーからメールでもらって涙し、その場にいられなかったことをとても後悔をしました。指導者として修猷館においていただいた2年間で渡邊先生、杉山先生からも指導者としての在り方を学ぶとともに、OBの方にもさらに面倒をみていただきました。そして何より、生徒と一緒にまたあの砂漠のようなグラウンドで楕円球を追いかけたことを本当に感謝しています。あれが人工芝だとさらによいのかもしれません……。

修猷に入り、ラグビーと出会ってからまだ10年程度ではありますが、とても濃い経験ができ、それを少しでも還元ができたのではないかと感じています。時代が変わり、ネットで繋がることのできる便利な現在ですが、やはりOBがグラウンドに直接来て生徒を直に始めてあげることのできる環境を今後も続けていけたらと思います。若手のOBがよりグラウンドに足を運んでいただければ、そうした環境ができれば、花園は目の前まで来ているのではないかとそう強く思う10年でした。

色々と失礼な内容となったことをお許しください。今後ともラグビー部のさらなる発展を期待しております。

5

カラー特集Ⅱ

栄光の軌跡



第9回全国選抜大会出場（平成20年）



第67回全九州高校大会県予選57年ぶりのV（平成26年）

広がる交流



6

マネジャーの目&東京支部より

私にとっての修猷ラグビー



平成18年卒

麻生 知里

私は部員数が29人ととても多い学年でした。その中で、今となって言える大変だったことは、部員達の誕生日プレゼントだったと思います。月ごとにみんなで祝いをして、マネジャーから手作りお菓子をプレゼントするというものでした。テスト期間中の時もありましたが、いつも頑張っている部員達のために、しーちゃん（中村詩織）と共に毎月お菓子を作り続けました。そのおかげで、マネ二人のお菓子作りスキルは上がったと思います！そして、私達の誕生日にはいつも以上に楽しい会を開いてくれる仲間達です。

卒業後は、毎年1月2日にある初蹴でみんなに会えるのを楽しみにしています。（当時と変わらず、マネどうしの会話は弾みます！）私にとって修猷館ラグビー部は、大切な仲間や素敵な先輩、可愛い後輩と出会わせてくれたかけがえのない存在です。

まだまだ、書きたいことは山ほどありますが……。これからも、いつまでも修猷館ラグビー部を応援し続けたいと思っています。

ずっと続く絆



平成19年卒

吉村 冴加

今、部活に打ち込んだ3年間を思い出すと、周囲の人に本当に恵まれていたのだと思います。保護者の皆さまからのご支援や、先生からの熱い指導はもちろんですが、同じ代の部員やマネジャーの皆と出会えたから、3年間、一生懸命取り組めたのだと思います。

部員の皆は、見えないところでも努力できる人ばかりでした。練習や試合は、怪我也多くひやひやすることがたくさんありましたが、一生懸命に臨む部員の皆の姿は普段の陽気な様子とは全く違って、とてもかっこよかったです。

また、部活が終わった後の帰り道は、部員の皆がもつとラグビーに集中できる環境を作るため私たちにできることは何か、相手の沼田（優）さんとも語り合っていました。行動力があって気配りができ、彼女から学ぶことは多かったです。そんな人と同じ思いで取り組めたことも、恵まれていたと思います。

高校3年間の繋がりは今も続いていて、これからも続いていくと思います。住むところも違い、なかなか会うことはできませんが、この縁は大切にしていきたいと心から思います。

今思う、マネジャーの経験



平成20年卒

長 儀 由妃子

今思う、ラグビー部マネジャーの経験とは何だったか。

部員の方々にとつてのマネジャーとは、日々の練習や勝利に向けてのサポーターであり、少なからずの癒しという存在、であれたかなと期待します。私にとつてのそれは、卒業後も絶えないつながり、むしろより広がってゆくつながりを与えてくれた経験、という点に大切な価値を感じています。

新人戦、県予選大会、皆が真っ黒になる夏、グラウンドにライトを点けて試合に備える冬、グローバルアリーナ、北海道遠征、試合用ジャージの準備、部費の徴収、お守りやミサンガ作り……。

「修猷館ラグビー部」という名の影響力を感じる場面は、社会に出ると多々あります。しかし、その名に恥じず、様々な方と堂々とお話ししたり向き合えたりするのは、前述のように、大きなことから小さなことまで、ぎっしり詰まった時間を共にした3年間があるからです。

揺るがない精神を身につけて頂いた環境に感謝ですし、そのような環境だったからこそ、今も制限のない人どうしのつながりを得られているのだと思います。

最後になりましたが、創部90周年おめでとうございます。今後とも、福岡にいる者として陰ながらのサポートに努めたいと思います。

かっこいい人間



平成23年卒

手 嶋 文 香

かっこいい男、かっこいい女になりませんか？ そんなフレーズが飛び込んできた新入生部活動紹介。とても魅力的で、何の考えもなしにここだ！ と入部を決めてしまったのを今でも鮮明に覚えています。初めて知るラグビーというスポーツ、体をはってタックルをし、泥だらけになりながら一生懸命頑張る部員の姿を見てどんな惹きこまれていました。時には男泣きする姿も。男泣きって美しいなと素直に感動し気付けば自分も号泣していました。部活以外でも校内でひととき存在感のある先輩たちの姿を見て、こういう人間が真にかっこいいのかを学ぶことができ、自分もこんなかっこいい人間になりたいなと思うようになりました。恩師である岡本先生には人として大切なことを沢山教えていただきました。卒業した今も現役の試合のあの神聖な空気に触れるといつでも高校時代に帰ったような気になります。真っ黒に焼けて沢山笑って、泣いて、感動したあの3年間はまぎれもなく青春でした。今春から社会人になるのでラグビー部で培ったものを胸に、かっこいい女を目指して人々の役に立てるように頑張りたいです。

チームに必要不可欠な仲間



平成27年卒

金子 真彩

ありがたいことに「修猷旋風」の時代と言われ、様々なテレビ局や新聞社に取り上げていただきました。それらは目につく選手にしかなかなか注目してくれなかったのですが、チームに必要不可欠だった存在として、ここでは初心者の仲間たちを私は讃えたいと思います。誰より他人に厳しく自分には殊更厳しい仲間。貪欲でとにかく一生懸命だった仲間。怪我で選手生命を断たれた後も怠ることなくみんなのためになることを考えた仲間や、病気の苦しみを経て選手として試合に出るようになった仲間。そんな彼らがジャージーをもらえなかったときは悔し涙を流し、試合後に次は絶対にもらってみせると笑顔で友達に語る姿や、その彼らの活躍を喜ぶ他の仲間たち。この一人ひとりがいて一つのチームであり、またマネジャーをその一員として認めてくれる彼らと得たものは計り知れません。これから先、まだ知らない後輩たちがずっと、このグラウンドで素敵な仲間と一つの夢を追いかけてくれることを期待しています。



東風吹かば

OB会東京支部では、安川裕行会長（昭和44年卒）を筆頭に関東圏での絆を深めています。主な活動は初夏の新人歓迎会及び懇親会と、年2回行われる全国の公立校を軸にした「10校ラグビー」への参加です。平成20年には、選抜大会に出場した現役を熊谷まで応援に行きました。年度代わりの多忙な時期ですが、皆、スケジュールを空けて待っていますので、現役諸君、2回目の夢をかなえてください。途中から加えてもらった「10校ラグビー」で、今や修猷は欠かせないメンバーとなりました。原大基幹事（昭和62年卒）はすっかり顔役となり、平成26年秋にはホスト役として福岡遠征を実現させました。関東の大学へ進学される新OB・OGや関東圏へ転勤される方は、ぜひ、ご参加ください。



7

資料編

歌 部

(戦 前)

玄洋の波

作詞 松原伍藤 (国語教諭)
作曲 横田三郎 (音楽教諭)

一、玄洋の波 天うつ威力

百道の末の 緑の栄え

これぞこれ 我が修猷

二、我が雄叫びの 心の響き

如何なる敵も おののき降る

これぞこれ 我が修猷

ラグビーー ラグビーー ラララ

(戦 後)

二本木並木

作詞 昭和22年部員合作
作曲

一、二本木並木にそよ風吹いて

からすさえずる日本晴

につこり笑ってスクラム組んで

押していこうよトライまで

修猷 修猷 ラララ ラグビーー

二、百道原頭修猷の庭に

今日も駆けるよボールもて

ぐつとにらんでダッシュをすれば

我に飛びつく敵はなし

修猷 修猷 ラララ ラグビーー

【卒業年別全部員名簿】

大正14年4月創部

大正15年卒

川津尚彦(歿)

昭和2年卒

安東久夫(歿)

梅崎忠亮(歿)

梅津一敏(歿)

川津綱友(歿)

高木健太郎(歿)

高島弥一郎(歿)

谷甚之助(歿)

東野浩(歿)

畑弘(歿)

浜崎越郎(歿)

林栄(歿)

藤野雄(歿)

藤野種生(歿)

松井清孝(歿)

満田龍彦(歿)

昭和3年卒

石橋恭祐(歿)

長貫一(歿)

鎌田昌義(歿)

川島巖(歿)

黄錫勇(歿)

高橋(姓旧橋爪)長矩(歿)

高橋久雄(歿)

田村道雄(歿)

塚本道雄(歿)

中村喜太郎(歿)

中山巖(歿)

日高山信義(歿)

藤田稔(歿)

不破正彦(歿)

昭和4年卒

安部是臣(歿)

池田省吾(歿)

池田達郎(歿)

今村清磨(歿)

植村修(歿)

越智(姓旧本田)弘平(歿)

河野克巳(歿)

郡司盛久(歿)

斉藤博文(歿)

田代貯蔵(歿)

西島権一郎(歿)

藤川栄(歿)

溝口博(歿)

森原英彦(歿)

山崎久助(歿)

山下健太郎(歿)

吉岡真二(歿)

昭和5年卒

青柳惣三郎(歿)

石橋安平(歿)

大里政信(歿)

佐野順一(歿)

清水幸雄(歿)

下川啓一(歿)

副田好美(歿)

中上(姓旧井上)重信(歿)

花石芳正(歿)

廣田久次郎(歿)

深田文秀(歿)

松尾弘房(歿)

松田久次郎(歿)

山田完二(歿)

山本(姓旧佐々倉)太郎(歿)

吉武(姓旧池田)静夫(歿)

昭和6年卒

井上義雄(歿)

岡松洋吉郎(歿)

小山(姓旧藤野)勝(歿)

島田八郎(歿)

高瀬(姓旧大坪)弘(歿)

南里讓児(歿)

樋口欽治(歿)

平島頼助(歿)

森原俊彦(歿)

湯浅惣吉(歿)

昭和7年卒

井尾正隆(歿)

大神和敏(歿)

奥村亀太郎(歿)

榊村義憲(歿)

柴戸慎太郎(歿)

下郡鉄城(歿)

高木正敏(歿)

田中丸清吾(歿)

長谷川盛一(歿)

林隆吉(歿)

昭和8年卒

石井透(歿)

内堀久(歿)

小野弘(歿)

蒲生幸平(歿)

川野次右衛門(歿)

今朝石清(歿)

高尾悟一(歿)

橋口勇(歿)

不破修平(歿)

吉武多助(歿)

昭和9年卒

安部守彦(歿)

伊勢田良克(歿)

今泉正毅(歿)

大石秀生(歿)

小野(姓旧桜羽)正也(歿)

古森孝(歿)

坂井良道(歿)

永田(姓旧権藤)龍夫(歿)

橋本新八郎(歿)

平山新一(歿)

森原幸彦(歿)

昭和10年卒

井上(姓旧江守)幸生(歿)

古賀鉄雄(歿)

坂田富雄(歿)

菅原鴻太郎(歿)

鈴木正義(歿)

田村仁吾(歿)

前田信義(歿)

松井義清(歿)

松永晋一郎(歿)

真野太郎(歿)

安河内剛(歿)

山内正之(歿)

山本文男(歿)

横山正秀(歿)

笠甚一郎(歿)

昭和11年卒

安部孝志(歿)

上田徳(歿)

菊地功(歿)

熊谷惇(歿)

古森四郎(歿)

西川一三(歿)

守田三義(歿)

吉田梧郎(歿)

昭和12年卒

井上金吾(歿)

郡敏孝(歿)

小林治比古(歿)

高倉涼介(歿)

鶴身松次郎(歿)

富永泰造(歿)

波多江強夫(歿)

早田昌武(歿)

福島(姓旧大原)茂(歿)

宮崎茂美(歿)	山部治邦(歿)	山本純一(歿)	昭和13年卒			大神祐彦(歿)	河原武彦(歿)	北原定三郎(歿)	坂井将博(歿)	佐久間弘毅(歿)	谷川吉人(歿)	丹部栄治(歿)	富永雄三(歿)	原田恒夫(歿)	松尾文雄(歿)	松隈勇夫(歿)	昭和14年卒			伊勢幸人(歿)	牛山(姓旧新沼)六郎(歿)	高橋保夫(歿)	中村政彦(歿)	西村秀夫(歿)	古川博(歿)	萬徳哲男(歿)	三浦一郎(歿)	守田基定(歿)	門司弘(歿)	八木隆輔(歿)	山崎辰次郎(歿)	弓崎輝明(歿)	吉田孝生(歿)	
昭和15年卒	伊藤祐成(歿)	古賀勝敏(歿)	白井俊次(歿)	進村喜志雄(歿)	松岡正人(歿)	松岡正導(歿)	宮崎(姓旧三苦)俊一(歿)	昭和16年卒			岩城睦二(歿)	薄平八郎(歿)	大庭義成(歿)	河原武一(歿)	高松光彦(歿)	稗田博隆(歿)	平山清治郎(歿)	牧野仰(歿)	三隅哲夫(歿)	皆島萬作(歿)	山内正樹(歿)	吉安尚一郎(歿)	昭和17年卒			石橋忠夫(歿)	伊勢田秀(歿)	福沢充(歿)	柳英樹(歿)	吉原富士雄(歿)	吉村英彦(歿)	昭和18年卒		
赤司廣次(歿)	井川芳夫(歿)	石橋貴(歿)	今井進(歿)	上野睦治(歿)	神谷健児(歿)	国松利吉(歿)	久保正之(歿)	柴田文雄(歿)	島田正三(歿)	杉本太三(歿)	中津基(歿)	津田久俊(歿)	波多江道児(歿)	土生茂樹(歿)	藤島俊治(歿)	堀部俊彦(歿)	山部安彦(歿)	昭和19年卒			内山田昭紀(歿)	大塩勇(歿)	勝野敬一(歿)	後藤藤正彦(歿)	戸田録郎(歿)	本城瑞穂(歿)	山崎昭(歿)	昭和20年卒			因幡聰湛(歿)	太田義男(歿)	大原行男(歿)	
木村武(歿)	桝和彦(歿)	坂本譲一(歿)	猿渡啓一(歿)	島田昌和(歿)	新免昭彦(歿)	砂場義一(歿)	徳永武義(歿)	飛松芳郎(歿)	中島節雄(歿)	箱田重之(歿)	浜田光彦(歿)	速水昭彦(歿)	藤井鴻作(歿)	水野雄介(歿)	三苦邦夫(歿)	山下昭平(歿)	昭和21年卒			田中豊(歿)	西嶋文利(歿)	野崎庫利(歿)	濱田光彦(歿)	昭和22年卒			伊藤藤輝夫(歿)	井上(姓旧城島)和彦(歿)	大塚正道(歿)	久保房雄(歿)	土井良信輔(歿)	徳田才之助(歿)	西野亨(歿)	
平塚九州男	牧原昭男	宮原敬典	村本昭三(歿)	森山直也(歿)	吉田隆充(歿)	昭和23年卒			玉井隆明(歿)	武藤良(歿)	昭和24年卒			石橋静雄(歿)	井上惇(歿)	大田啓司(歿)	副田鶴直(歿)	松本直茂(歿)	松本安造(歿)	三木欣一(歿)	森(姓旧桝)明(歿)	渡辺雄二(歿)	昭和25年卒			秋吉元(歿)	岡崎行応(歿)	川浪義人(歿)	高武昭夫(歿)	佐々倉千秋(歿)	佐藤英彦(歿)	末次英彦(歿)	関屋雄偉(歿)	田中正男(歿)
中田主基	藤村浩浩(歿)	淵本武陽(歿)	山崎靖彦(歿)	昭和26年卒			秋吉包雄(歿)	麻田寿巳(歿)	伊藤申吉(歿)	大山(姓旧長)浩司(歿)	小田部英雄(歿)	外尾猛(歿)	常岡宏(歿)	中上通敏(歿)	藤田浩三(歿)	測上貫之(歿)	吉岡孝二(歿)	昭和27年卒			石橋学(歿)	今石琢造(歿)	岩隈勝(歿)	魚住功(歿)	大野浩(歿)	田村宏(歿)	富川昭(歿)	中川海(歿)	中野徹(歿)	成田陽二郎(歿)	野中孝祐(歿)	原中鷹司(歿)	藤井浩一(歿)	

藤島勇一(歿) 藤義雄(歿) 宮原修郎(歿) 吉田清明(歿) 昭和28年卒 梅津昇(歿) 大塚博靖(歿) 堀内秀夫(歿) 三苦憲一(歿) 森部信二(歿) 昭和29年卒 来嶋昌司(歿) 柴田幸夫(歿) 橋詰博(歿) 波多江康平(歿) 三原一倫(歿) 昭和30年卒 岩田至道(歿) 大場正二(歿) 川本英夫(歿) 菊地俊作(歿) 木村繁(歿) 久保久(歿) 齋藤雄(歿) 清水生(歿) 城利明(歿) 中立秀一(歿) 野博之

布藤(下司)正芳 平島正登 福富大二 堀内信夫(歿) 山公雄(歿) 結城昭康(歿) 昭和31年卒 荒卷久義 井坂孝一 出光芳秀 伊藤征八郎 浦志幸男(歿) 小林立裕幸(歿) 金谷弘幸(歿) 西牟田耕治 堀川大助 松久悟(歿) 森久協一(歿) 昭和32年卒 相浦弘二 柴田忠敏 禪院文夫(歿) 林克巳(歿) 昭和33年卒 相生卓男(歿) 青木潤(歿) 明石哲也(歿) 岡部友尚(歿) 古賀龍彦(歿)

佐々倉鉄夫 真田能斉(歿) 末翁(貝島)惇(歿) 副島茂樹(歿) 高松宏(歿) 高山博光(歿) 田中丈夫(歿) 豊福省三(歿) 西島文城(歿) 藤井章三 吉田進(稔人) 米倉実(稔人) 昭和34年卒 池見清文 片ノ坂邦夫 金光健一 鎌田紀明 田中順一(歿) 田原武成 中野(姓田)安博 古川(姓田)池田 村田征璽 保木正和 昭和35年卒 安西昭八郎 板倉輝明 今村宏明 小野勝利 神山隆 川崎従道

栗原則夫 堺宏史 柴戸敬宏 高木信宏 谷井真喜男 堤和雄(歿) 矢吹和章(歿) 山内忠 吉村正博 昭和36年卒 滝田熙久(歿) 武田儀之(歿) 谷川光信 永松武興 原田太七郎 樋口嗣郎 堀内靖郎 三宅英一郎 昭和37年卒 赤司和雄 石川忠彦 榎本一彦 大西克貞 桐山一朗 高良欣司 豊福(信)之(歿) 村島学(歿) 昭和38年卒 浅田峻

重松康生 田中俊古 藤本成邦 三宅俊樹 昭和39年卒 工藤康伸(歿) 平島克二(歿) 福井浩一(歿) 松田佳夫 昭和40年卒 久保公栄 小嶺栄夫 洪田民夫 納田純一 村上雄二 昭和41年卒 浅田次郎 安部直幸 左座正弘 里見隆彦 柴田敬進 柴戸一(歿) 田中良一(歿) 船木志朗(歿) 溝口知行(歿) 横田康弘 吉田義弘 昭和42年卒

池田正二(歿) 黒岩健太郎 古川健忠 星野順二 昭和43年卒 久我秀昭 竹迫陽二郎(歿) 林田克信 原田保孝 守田雅利 昭和44年卒 青木(姓田原)幸子 五十川雅伸 後藤元秀 中迫昇 松田幸一 松本博康 水間正純(歿) 安川裕行 柳瀬廣二 大山崎讓二 昭和45年卒 猪又茂昭 富永晴昭 原田隆 満生修二 武藤英治 山内章

伊 昭 渡 山 山 森 武 宮 田 田 久 秋 昭 平 矢 辻 坂 岡 池 昭 松 松 中 田 尾 岩 昭
佐 和 辺 田 田 藤 地 代 籠 保 吉 野 部 本 部 田 和 崎 和
幸 50 光 哲 一 禎 博 功 仲 昌 英 雅 利 尋 誠 47 本 尾 原 中 中 崎 46
雄 卒 一 義 亨 夫 信 潔 之 一 二 一 夫 幸 久 夫 生 卒
(歿)

半 奥 小 浅 昭 松 松 淵 濱 清 倉 昭 吉 山 養 藤 西 田 立 後 昭 吉 村 西 長 酒 亀 江
田 山 川 田 和 53 尾 尾 本 田 家 富 52 村 口 父 木 嶋 中 花 藤 51 岡 田 依 澤 井 岡 頭
裕 隆 成 久 彦 典 陽 司 一 雄 敏 望 弥 紀 彦 司 積 顕 徳 介 哉 之 成 歩 樹 明
(歿)

川 笠 生 岡 江 安 昭 三 真 小 河 國 小 家 案 昭 宮 松 堀 下 下 熊 空 井 浅 昭 柳 森 松
村 井 越 本 口 東 和 56 浦 砂 山 野 武 幡 村 浦 55 島 瀬 尾 村 田 本 閑 田 田 和 原 崎 本
和 基 丈 圭 鳩 隆 宏 千 一 直 史 伸 康 哲 直 憲 一 博 陸 彦 雅 崇 四
久 充 夫 吾 野 行 司 恵 英 隆 信 郎 高 瑞 学 孝 光 毅 之 彦 彦 崇 王 起

畑 長 炭 佐 大 安 昭 渡 幸 松 藤 深 廣 平 十 高 鈴 加 金 上 昭 真 別 平 八 橋 野 武 河 神
弘 野 野 伯 浦 部 和 58 邊 重 永 田 見 佐 林 時 畠 木 茂 内 杉 57 角 府 谷 本 上 田 野 崎
幸 辰 重 智 公 真 康 秀 慎 一 司 徹 二 郎 勉 介 二 彰 子 川 丈 敬 一 正 淳 隆 博 嘉 久 郎 進 宏
二 雄 洋 大 一 宏 則 郎 司 郎 郎 子 巳 敬 正 一 寛 喜 佳 久 郎 進 宏

小 河 大 井 井 浅 昭 吉 横 梁 宮 光 真 堀 橋 能 中 武 島 鬼 逢 伊 昭 渡 山 森 三 本 藤 藤
林 村 庭 上 田 見 和 60 村 田 川 剛 武 鍋 内 本 見 村 田 塚 塚 坂 藤 59 辺 本 田 石 徳 高 川
敦 公 欣 博 智 敏 和 昌 剛 計 恭 彦 実 昭 俊 泰 也 嘉 巖 也 浩 浩 幸 子 志 恭 彬 昌
道 平 二 之 之 子 久 明 一 剛 幸 恭 彦 昭 俊 泰 也 嘉 巖 也 章 子 志 恭 彬 昌
道 平 二 之 之 子 久 明 一 剛 幸 恭 彦 昭 俊 泰 也 嘉 巖 也 章 子 志 恭 彬 昌

前 廣 中 田 陶 清 小 清 河 川 笠 尾 宇 白 井 昭 吉 吉 簀 増 古 藤 浜 野 津 田 鷹 首 讃 左 近
田 田 村 川 久 水 山 原 島 下 井 崎 曾 井 和 61 武 澤 原 本 野 井 地 英 智 上 崎 中 取 藤 井 三 藤
夏 直 裕 龍 季 範 英 竜 一 香 井 藤 原 仲 江 剛 德 明 浩 朗 貴 彦 弘 英 三 年 彦 路 恭 也 則 郁 泰
洋 子 広 介 彦 徹 哲 晃 法 郎 香 江 剛 德 明 浩 朗 貴 彦 弘 英 三 年 彦 路 恭 也 則 郁 泰

結城愛作 宝地戸(姓旧藤田)敦子 廣田尊則 田村聡和 谷口秀淳 杉本一樹 近藤慶樹 大野亮 上野倉主一郎 板倉主一郎 昭和63年卒 吉田新一郎 松村俊一 増本修一 堀内憲二 二村和明 原田文基 原口大剛 橋上善彦 田丸弘之 金丸将之 太田正規 井上善裕 池田哲也 阿部哲也 昭和62年卒 山形幸淳 本岡孝治 宮崎優則 松本優子

富井智也 土谷宗凡 白石孝也 柴田州穂 佐渡島慶太 栄原浩司 大木美穂 上間徹 岩橋輝明 岩橋輝明 平成2年卒 吉野哲矢 三好(姓旧吉澤)史恵 松田清一 藤田恭之 福富章宏 杷野剛士 野中康司 鶴丸秀一郎 谷口克人 角達之助 佐藤宏紀 坂本正樹 岡本了博 岡部安博 瓜生純子 浦本鎮忠 今泉忠徳 安東秀徳 平成1年卒

久良木(姓旧下村)亜由子 小田哲明 平成4年卒 吉田純二郎 山本敏之 山本伸祐 南蘭健太郎 古江健太郎 藤村伸速 日吉伸人 原村達己 中村善毅 田中善行 高浪悟詩 古賀信貴 黒木資浩 国広純一 川崎順亮 笠木順一 江頭広峰 内野順治 市原毅 平成3年卒 和田謙太郎 山本隆太郎 山本健二 増田尚隆 藤田晴信 平本隆太 内藤大三

代末康成 吉野靖哉 吉住信聡 森田次郎 水俣利枝 日向寺俊輔 波多野誠之 田上誠之 杵本真薫 菅田真治 堺敏明 権藤龍輔 北崎裕士 小川祐信 伊藤大和 生田史寛 青木亮介 平成5年卒 三苦卓真 藤野晋平 平本征一 服部惣一 中田俊之 豊田俊寛 田中弘輔 菅原弘基 菅田一誠 調本誠 坂本宗之 草場浩平

三浦一生 真鍋泰輝 松田聡志 松木邦生 古川真弥 藤井雄大 中西彰剛 下池隆一郎 柴戸隆一郎 左座敦志 黒澤(姓旧左座)徳子 国房義之 片岡達里 井上真和 伊藤大和 平成7年卒 柳瀬一人 森亮太郎 外村隆志 廣方玄太郎 平井優子 寺田孔一 田中聡輔 武内大 上村聡 片桐泰巖 小河泰史 宇野尚實 石橋尚彦 安藤友秀 平成6年卒

川尻圭介 狩生健志 安西大豊 浅田大輔 平成9年卒 湊新也 光井勇貴 三嶋(姓旧秋水)奈々美 真鍋健治 松田健太郎 松岡幹 松尾芳和 廣崎洋平 野村俊一 中曽根豊 竹村(姓旧原田)優子 白水秀幸 酒瀬川大豊 倉光太郎 木下健太郎 川崎拓生 尾崎晋吾 衛藤耕平 阿久根潤 平成8年卒 若松(姓旧吉田)香織 吉武智悟 吉田智博 吉田貞信 宮園祐一

小北河梅生平
坪原手北駒
大想拓(姓旧光岡)潤子
遊吉志郎
平成11年卒

和山深南増藤中徳田田黒河一
田本山蘭田原村島中田手江
瑠英順浩和昌均圭嘉智晃健
美兒司二宏弘典浩史太郎一郎
子
平成10年卒

和三松日林新佐左熊北
田苦隈高名藤座石林
一丈洋理悦弘俊健直卓
穂曉平恵子崇幸郎浩也

山森森平平橋中段谷田鈴下児粕押秋平
口竹崎川岡本原隆優啓勝中木池嶋川(姓旧印丸)由希子
耕光剛武佑隼和隆士太太也亮吾
平太郎史児一人也朗太也亮吾
平成13年卒

長田篠佐荒川平
谷川原藤神尻
伸忠佳洋
穀達(歿)
平成12年卒

藤藤疋田田左
田家田中雄吹
基雅伸一貴
記志一貴
造酒蔵

平東林成田高川片片岩井伊平
川山田富中橋測測桐本口藤
勝慧佳宗健俊雄裕悠邦輝
哉悟祐智太郎作大介介隆洋之
平成15年卒

渡山南三水松林野徳スウエイン・エヴン薫
辺本蘭角原井下中満龍太郎
真哲洋公健志剛太
五也一志介郎
若杉憲吾

平東林成田高川片片岩井伊平
川山田富中橋測測桐本口藤
勝慧佳宗健俊雄裕悠邦輝
哉悟祐智太郎作大介介隆洋之
平成15年卒

児片浦井伊石平
島淵上上藤川
慎啓慎貴隆顕
平介一郎博大成
平成17年卒

山諸宮松藤比原二西高川尾緒池平
口熊地木島屋根口坂方橋寄花方島
高千洋砂小雄智悟亮耕一(姓旧陽太)
史尋嗣莉介駿希志祐勉大樹平太郎
平成16年卒

吉山山宮宮三前星
川中田川内原方野
純雄達公雄一拓大集
史一郎夫太郎郎輔平

橋中竹高庄清塩川長及瓜岩稲石麻青
本村原田島水沢口田川生崎富橋生木
翔詩正雄雄昌岳宏智慶勇知元
一織侑好三郎平勝朋拓輝之司郎里伸
平成18年卒

山山三馬平波中時寺近関白坂
本口木渡塚江務(姓旧今岡)井枝本木屋水田
武健志大秀武結詞将二介太典航
生太郎織介晴寛結詞将二介太典航

平沼仁中中富棚田高清近是小岡大伊有平
松田部村津留田橋中橋家藤村沢川吉
達英亮裕倫大翔直聖康将裕
弥優亮太介史遼章慧太篤哉人平朗世幸
平成19年卒

吉吉山山山諸宮松松蒔前馬塙
松岡本中口永田原岡田田場
拓広崇貴和涼浩興大祐大
郎樹弘博也亮翔平良太輝輔輝

井市飯**平成21年卒** 若山安村水堀古福平馬農長下佐古清加岩岩井伊**平成20年卒** 吉吉山藤
 上園田 狹中恒山永尾庄島田場塚儀津藤閑原川谷本上藤 村村名本
 雄拓吉 陽陽亮篤明悠和浩高頼由勇達友敦大正 拓大 康呀真寛
 貴哉貴 慧平平介志弘泰巳士郎史子裕郎理史樹義望也貴 佑加士人

田田白下清岸大江植岩青**平成22年卒** 山山盛村松前藤平野中谷杉白庄柴小鬼奥岡
 中口濱川原田石崎木切木 中下 上田田内山瀬澤口町木田田野寄村本
 菖優桂雅 陽圭幹理可 尊国遼裕皓 崇 将亘晃圭悠裕健康誠銀
 朋大作嗣広峻介郎人子慧 史之太子介樹史仁史将太太郎志郎将謙悟河

出東**平成24年卒** 吉山南松別野手田庄小古折石有**平成23年卒** 渡鏈森松肘野野野榎豊時鐵
 海孝哲 永下里尾府中嶋中崎鶴城居田吉 辺水 下本井中田口崎福任見
 俊平 樹明成真郎太香人郎章也一康道 介遼人也淳瞳宇介平修平
 祐太郎

永永**チェイス・デザイン** 高瀬菅霜澁大石荒相**平成25年卒** 吉横持溝松西中中中田武染杉齋川梶緒植
 富田 橋戸田田長内上原 富田田口本田村村中知原町藤上原方木
 健修 拓章圭桃祐 鴻祐健 帝俊鉄昌聡拓天恒一 健弘凌乃明胤亮
 太郎造也汰佑子作優壮一吾 舜都徳兵修志登馬大成遥人介大幹香浩斗

古喜岸菊河金江上今**平成27年卒** 力鏈野高菅三熊国小今伊**平成26年卒** 湯山諸松廣野中中
 城多川池野子口田井 武水崎橋田枝谷 富田田口本田村村中知原町藤上原方木
 隼美和太隆真 知裕 秀 信吾悠洸 八裕 柊 泰隆 亮陸 友拓
 人成弘朗大彩亮実太 至航裕郎介介優子也玲世 雅太郁祐登拓紀未

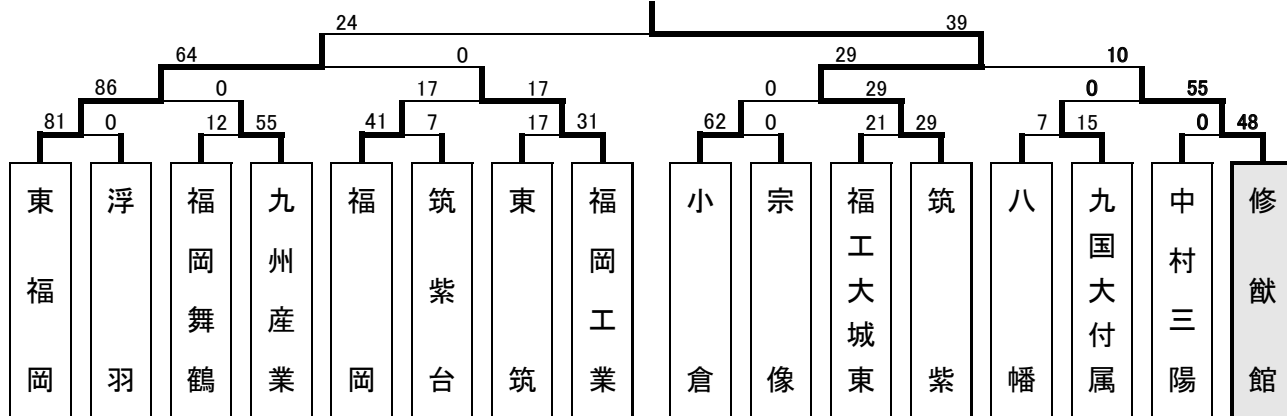
横弥山村西西関新柴重佐
 山吉木田村田口開尾松藤
 浩大康博厚崇佳滉將隆智
 二輔聖志志将那倫希宏徳

主要大会の成績及び出場メンバー

平成17年

第27回 全九州高校新人大会 福岡県予選

優勝：筑 紫 高等学校 準優勝：東 福 岡 高等学校



第4回戦 平成17年1月9日(日) 修猷館G

R: 日中(九州) 中村三陽 0-0-22-48 修猷館

DG	PG	G	T
0	0	0	0
0	0	0	0

- ①谷口 ②武田 ③瓜生 ④井上 ⑤藤原 ⑥大神 ⑦八尋 ⑧新原 ⑨丸山 ⑩井上 ⑪熊本 ⑫徳永 ⑬田中 ⑭川本 ⑮榮嶋 ⑯岩田 ⑰西林
- ①青木 ②庄島 ③馬場 ④橋本 ⑤近藤 ⑥山口 ⑦高田 ⑧山本 ⑨川口 ⑩吉松 ⑪竹原 ⑫宮田 ⑬堀 ⑭稲富 ⑮平松 ⑯松原 ⑰塩沢 ⑱富田 ⑲蒔田 ⑳清水

準々決勝 平成17年1月23日(日) グローバルアリーナ

R: 筑紫(九州) 九国大付属 0-0-24-55 修猷館

DG	PG	G	T
0	0	0	0
0	0	0	0

- ①登本 ②師村 ③三浦 ④安部 ⑤猪口 ⑥横尾 ⑦西竹 ⑧川原 ⑨小野 ⑩沖永 ⑪棟形 ⑫森 ⑬新谷 ⑭松尾 ⑮廣野 ⑯加藤
- ①青木 ②庄島 ③馬場 ④橋本 ⑤近藤 ⑥山口 ⑦高田 ⑧山本 ⑨川口 ⑩吉松 ⑪竹原 ⑫宮田 ⑬堀 ⑭稲富 ⑮平松 ⑯吉村 ⑰清水 ⑱塩沢 ⑲富田 ⑳松原 ㉑岩崎 ㉒蒔田

準決勝 平成17年1月29日(土) グローバルアリーナ

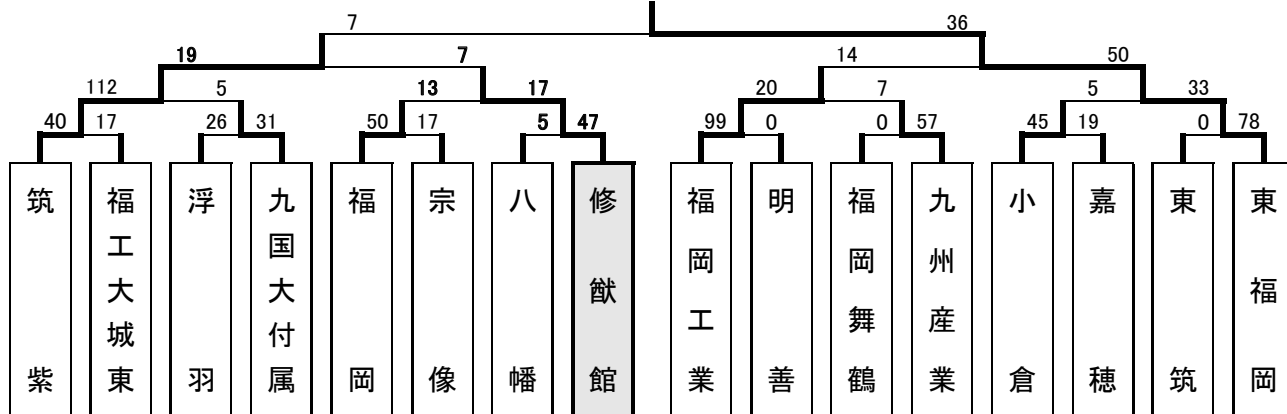
R: 筑紫(九州) 筑紫 29-12-5-10 修猷館

DG	PG	G	T
0	0	1	2
0	0	1	3

- ①内田 ②丸本 ③大淵 ④山下 ⑤勝瀬 ⑥林 ⑦安武 ⑧篠原 ⑨平野 ⑩橋本 ⑪木敷 ⑫清原 ⑬堀 ⑭高田 ⑮合谷
- ①青木 ②庄島 ③馬場 ④橋本 ⑤近藤 ⑥山口 ⑦高田 ⑧山本 ⑨川口 ⑩吉松 ⑪竹原 ⑫宮田 ⑬堀 ⑭稲富 ⑮平松 ⑯石橋

第58回 全九州高校大会 福岡県予選

優勝：東 福 岡 高等学校 準優勝：筑 紫 高等学校



第 4 回戦

平成17年5月22日(日)

R: 水田(九州)

福岡G

八幡

5

5

26

47

修猷館

DG	PG	G	T		T	G	PG	DG
0	0	0	1		4	3	0	0
0	0	0	0		3	3	0	0

7

反則

10

① 戸田

② 長尾

③ 大崎

④ 犬丸

⑤ 後藤

⑥ 井上

⑦ 安部

⑧ 大庭

⑨ 阿久井

⑩ 吉武

⑪ 足立

⑫ 橋本

⑬ 柴田

⑭ 藤本

⑮ 永露

FW

HB

TB

FB

交代

① 青木

② 蒔田

③ 富田

④ 近藤

⑤ 橋本

⑥ 山口

⑦ 高田

⑧ 山本

⑨ 小齊平

⑩ 吉松

⑪ 竹原

⑫ 宮田

⑬ 堀

⑭ 稲富

⑮ 平松

伊勢川 ③

庄島 ②

石橋 ③

塩沢 ⑨

瓜生 ⑨

山名 ⑩

清水 ④

準々決勝 平成17年5月29日(日)
R: 加藤(九州) グローバルアリーナ

福岡	13	10	3	0	17	修猷館
DG	PG	G	T	T	G	PG
0	1	1	1	0	0	0
0	1	0	0	3	1	0

11 反則 10

① 高牟礼 ① 青木
 ② 真崎 ② 庄島
 ③ 川添 ③ 馬場
 ④ 中村 FW ④ 近藤
 ⑤ 井ノ上 ⑤ 橋本
 ⑥ 児島 ⑥ 山口
 ⑦ 霧 ⑦ 高田
 ⑧ 山下 ⑧ 山本
 ⑨ 松尾 HB ⑨ 小齊平
 ⑩ 松下 ⑩ 吉松
 ⑪ 吉田 TB ⑪ 竹原
 ⑫ 常藤 ⑫ 宮田
 ⑬ 小鶴 ⑬ 堀
 ⑭ 石津 ⑭ 稲富
 ⑮ 牛房 FB ⑮ 平松

交代 ⑨ 石橋 ⑬
 ⑩ 國益 ⑩ 川口 ⑨

準決勝

平成17年6月4日(土)

R: 加藤(九州)

グローバルアリーナ

筑紫

19

0

19

0

7

修猷館

DG

PG

G

T

T

G

PG

DG

0

0

0

0

1

1

0

0

0

0

2

3

0

0

0

0

6

反則

4

①

内田

①

青木

②

丸本

②

庄島

③

大淵

③

馬場

④

山下

④

近藤

⑤

勝瀬

⑤

橋本

⑥

林

⑥

山口

⑦

安武

⑦

高田

⑧

篠原

⑧

山本

⑨

平野

⑨

川口

⑩

橘

⑩

吉松

⑪

木敷

⑪

竹原

⑫

清原

⑫

宮田

⑬

西村

⑬

堀

⑭

高田

⑭

稲富

⑮

合谷

⑮

平松

前田

⑤

石橋

⑭

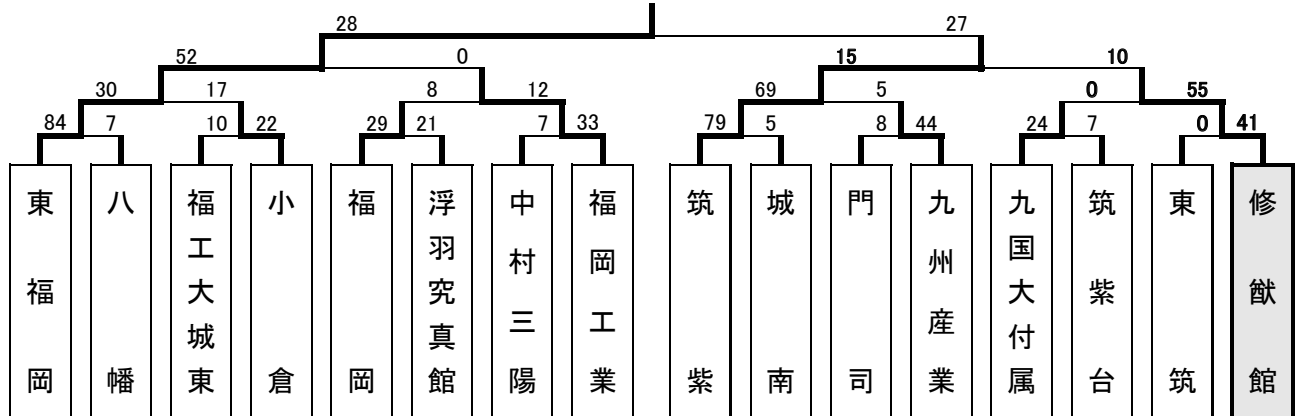
交代

山名

⑭

第85回 全国高校大会 福岡県予選

優勝: 東福岡 高等学校 準優勝: 筑紫 高等学校



第 4 回戦

R: 猿渡(九州)

平成17年10月16日(日)

修猷館G

修猷館

41

27

0

0

東筑

14

二

0

0

DG	PG	G	T	T	G	PG	DG
0	0	1	5	0	0	0	0
0	3	0	1	0	0	0	0

2

反則

10

① 青木

② 馬場

③ 富田

④ 山本

⑤ 橋本

⑥ 山口

⑦ 松岡

⑧ 庄島

⑨ 川口

⑩ 吉松

⑪ 竹原

⑫ 宮田

⑬ 堀

⑭ 農塚

⑮ 平松

稲富

近藤

橋田

小齊

松原

清水

FW

HB

T B

FB

交代

① 山下

② 安部

③ 中村

④ 嶋津

⑤ 小田原

⑥ 館田

⑦ 岡原

⑧ 小原

⑨ 井元

⑩ 石橋

⑪ 堀内

⑫ 西

⑬ 篠原

⑭ 鍾ヶ江

⑮ 中野

瓜生

⑮

準々決勝

R: 前田(福岡)

平成17年11月6日(日)

グローバルアリーナ

修猷館 55 40 0 0 九国大付属

DG	PG	G	T	T	G	PG	DG
0	0	5	6	0	0	0	0
0	0	0	3	0	0	0	0

12 反則 5

① 青木

② 馬場

③ 富田

④ 橋本

⑤ 山本

⑥ 山口

⑦ 高田

⑧ 庄島

⑨ 小齊

⑩ 吉松

⑪ 竹原

⑫ 宮田

⑬ 堀

⑭ 松岡

⑮ 平松

稲富

近橋

石藤

川口

清水

清田

塩沢

FW

HB

TB

FB

交代

① 登本

② 師村

③ 三浦

④ 安部

⑤ 猪口

⑥ 田中

⑦ 横尾

⑧ 川原田

⑨ 小野

⑩ 沖永

⑪ 棟形

⑫ 森

⑬ 新谷

⑭ 松尾

⑮ 廣野

西竹 ③

準決勝

平成17年11月13日(日)

R: 岩下(日本)

九電香椎G

修猷館

10

3

0

15

筑紫

DG

PG

G

T

T

G

PG

DG

0

1

0

0

0

0

0

0

0

0

1

1

2

1

1

0

16

反則

5

①

青木

①

内田

②

馬場

②

丸本

③

富田

③

大淵

④

橋本

④

笠原

⑤

山本

⑤

勝瀬

⑥

山口

⑥

林

⑦

松岡

⑦

山下

⑧

庄島

⑧

篠原

⑨

川口

⑨

平野

⑩

吉松

⑩

橘

⑪

竹原

⑪

木敷

⑫

宮田

⑫

清原

⑬

堀

⑬

塩山

⑭

農塚

⑭

高谷

⑮

平松

⑮

合谷

高田

④

交代

石橋

⑮

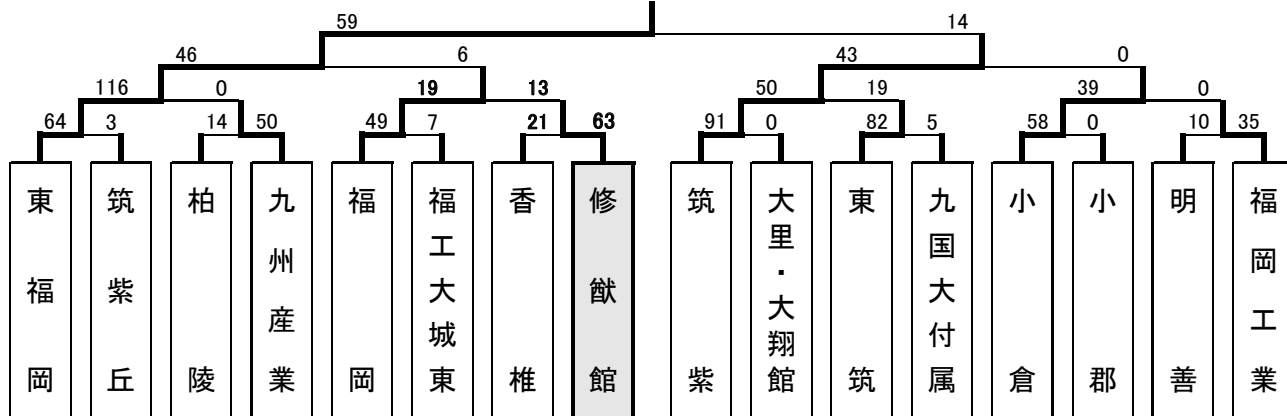
稲富

⑭

平成18年

第28回 全九州高校新人大会 福岡県予選

優勝：東福岡高等学校 準優勝：筑紫高等学校



第4回戦 平成18年1月22日(日) 東福岡G

R: 篠渡(九州) 香椎 12 (12-0) 27 63 修猷館

DG	PG	G	T	G	PG	DG
0	0	1	2	5	1	0
0	0	0	0	6	3	0

- ① 塚上吉 ② 藤上吉 ③ 有畑丸 ④ 秋瀬戸 ⑤ 安東野 ⑥ 永野本 ⑦ 佐々木 ⑧ 藤井地 ⑨ 都森立 ⑩ 田立田 ⑪ 有吉 ⑫ 大沢田 ⑬ 富橋高 ⑭ 下津村 ⑮ 山名村 ⑯ 吉村藤 ⑰ 近藤平 ⑱ 小齊平 ⑲ 佐藤山 ⑳ 伊藤清 ㉑ 農塚安 ㉒ 恒原馬 ㉓ 津留岡 ㉔ 中田

準々決勝 平成18年1月29日(日) グローバルアリーナ

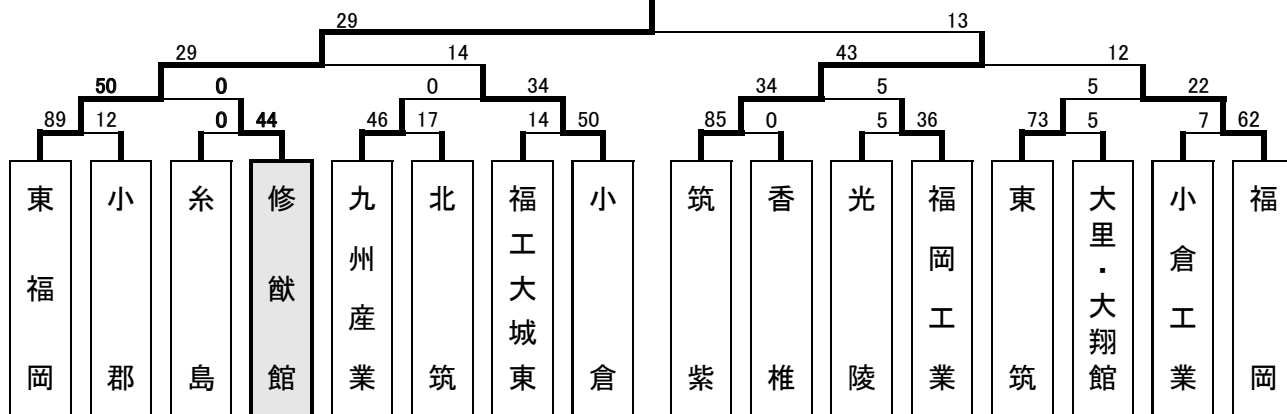
R: 前田(九州) 福岡 19 (19-0) 8 13 修猷館

DG	PG	G	T	G	PG	DG
0	0	2	3	1	0	1
0	0	0	0	1	0	0

- ① 谷山 ② 児島 ③ 中村 ④ 中川 ⑤ 井ノ上 ⑥ 霧岩見 ⑦ 藤井 ⑧ 松尾 ⑨ 松下 ⑩ 櫛山 ⑪ 中霧 ⑫ 小鶴 ⑬ 石津 ⑭ 原蘭 ⑮ 松永 ⑯ 國益 ⑰ 有吉 ⑱ 大沢田 ⑲ 富橋高 ⑳ 下津村 ㉑ 山名村 ㉒ 吉村藤 ㉓ 近藤平 ㉔ 小齊平 ㉕ 農塚安 ㉖ 恒原馬 ㉗ 津留岡 ㉘ 中田

第59回 全九州高校大会 福岡県予選

優勝：東福岡高等学校 準優勝：筑紫高等学校



8		反則		8	
① 関	田	F W	① 吉	田	③
② 柴	鎌		② 有	富	①
③ 唐	伊		③ 伊	勢	②
④ 松	沢		④ 川	川	③
⑤ 本	山		⑤ 平	山	④
⑥ 川	馬	H B	⑥ 場	場	⑤
⑦ 原	口		⑦ 藤	口	⑥
⑧ 山	近		⑧ 藤	山	⑦
⑨ 大	野		⑨ 平	野	⑧
⑩ 持	田		T B	⑩ 伊	伊
⑪ 満	杉	⑪ 町		杉	⑩
⑫ 末	山	⑫ 名		山	⑪
⑬ 林	安	⑬ 恒		林	⑫
⑭ 矢	農	⑭ 塚		矢	⑬
⑮ 野	平	F B	⑮ 松	野	⑭
能	永		⑮ 水	能	⑮
島	尾		堀	島	①
浦	平	交代	① 藤	浦	②
	佐		② 橋		③
	高		③ 橋		④
	岡		④ 村		⑤

4反則		9	
①	才田	①	吉田
②	筒井	②	富田
③	縄田	③	伊勢川
④	柴田	④	沢橋
⑤	松浦	⑤	棚馬
⑥	近藤	⑥	馬場
⑦	山下(航)	⑦	吉村
⑧	金本	⑧	近藤
⑨	国弘	⑨	齐平
⑩	渚本	⑩	農塚
⑪	山下(弟)	⑪	杉町
⑫	久保山TB	⑫	山名
⑬	守田	⑬	伊藤
⑭	上田	⑭	佐藤
⑮	竹下	⑮	平松
	森山	⑯	平田⑨
	広木⑥		平山③
	今村②		安恒⑤
	松尾③		水永①
	川③		堀尾⑪
	猿樂⑫		
	奥野④		

The dendrogram illustrates the hierarchical clustering of 14 Japanese companies. The companies are listed in vertical boxes at the bottom, with their names in Japanese. The dendrogram branches upwards, with numerical values indicating the distance or similarity between clusters. The company 'Shusho Kan' (修猷館) is highlighted with a grey background.

The companies and their names are:

- 東福岡 (To Fukuoka)
- 浮羽究真館 (Ukubu Kyushinkan)
- 明善 (Meishan)
- 福岡工業 (Fukuoka Kogyo)
- 修猷館 (Shusho Kan) - Highlighted
- 筑紫丘 (Tsukimishira)
- 小倉工業 (Kokura Kogyo)
- 小倉 (Kokura)
- 筑紫 (Tsukimishira)
- 九国大付属 (Kukoku Daifukuro)
- 糸島 (Itoima)
- 東筑 (Tochiku)
- 九州産業 (Kyushu Sanpan)
- 福工大城東 (Fukuoka Daigaku)
- 嘉穂 (Kasuo)
- 福岡 (Fukuoka)

The dendrogram shows the following hierarchical structure (from left to right):

- Cluster 1: 東福岡 (123) and 浮羽究真館 (0)
- Cluster 2: 明善 (12) and 福岡工業 (19)
- Cluster 3: 修猷館 (21) and 筑紫丘 (0)
- Cluster 4: 小倉工業 (0) and 小倉 (86)
- Cluster 5: 筑紫 (100) and 九国大付属 (0)
- Cluster 6: 糸島 (15) and 東筑 (50)
- Cluster 7: 九州産業 (19) and 福工大城東 (26)
- Cluster 8: 嘉穂 (7) and 福岡 (94)
- Cluster 9: 明善 (12) and 福岡工業 (19)
- Cluster 10: 修猷館 (21) and 筑紫丘 (0)
- Cluster 11: 小倉工業 (0) and 小倉 (86)
- Cluster 12: 筑紫 (100) and 九国大付属 (0)
- Cluster 13: 糸島 (15) and 東筑 (50)
- Cluster 14: 九州産業 (19) and 福工大城東 (26)
- Cluster 15: 嘉穂 (7) and 福岡 (94)
- Cluster 16: 明善 (12) and 福岡工業 (19)
- Cluster 17: 修猷館 (21) and 筑紫丘 (0)
- Cluster 18: 小倉工業 (0) and 小倉 (86)
- Cluster 19: 筑紫 (100) and 九国大付属 (0)
- Cluster 20: 糸島 (15) and 東筑 (50)
- Cluster 21: 九州産業 (19) and 福工大城東 (26)
- Cluster 22: 嘉穂 (7) and 福岡 (94)
- Cluster 23: 明善 (12) and 福岡工業 (19)
- Cluster 24: 修猷館 (21) and 筑紫丘 (0)
- Cluster 25: 小倉工業 (0) and 小倉 (86)
- Cluster 26: 筑紫 (100) and 九国大付属 (0)
- Cluster 27: 糸島 (15) and 東筑 (50)
- Cluster 28: 九州産業 (19) and 福工大城東 (26)
- Cluster 29: 嘉穂 (7) and 福岡 (94)
- Cluster 30: 明善 (12) and 福岡工業 (19)
- Cluster 31: 修猷館 (21) and 筑紫丘 (0)
- Cluster 32: 小倉工業 (0) and 小倉 (86)
- Cluster 33: 筑紫 (100) and 九国大付属 (0)
- Cluster 34: 糸島 (15) and 東筑 (50)
- Cluster 35: 九州産業 (19) and 福工大城東 (26)
- Cluster 36: 嘉穂 (7) and 福岡 (94)
- Cluster 37: 明善 (12) and 福岡工業 (19)
- Cluster 38: 修猷館 (21) and 筑紫丘 (0)
- Cluster 39: 小倉工業 (0) and 小倉 (86)
- Cluster 40: 筑紫 (100) and 九国大付属 (0)
- Cluster 41: 糸島 (15) and 東筑 (50)
- Cluster 42: 九州産業 (19) and 福工大城東 (26)
- Cluster 43: 嘉穂 (7) and 福岡 (94)
- Cluster 44: 明善 (12) and 福岡工業 (19)
- Cluster 45: 修猷館 (21) and 筑紫丘 (0)
- Cluster 46: 小倉工業 (0) and 小倉 (86)
- Cluster 47: 筑紫 (100) and 九国大付属 (0)
- Cluster 48: 糸島 (15) and 東筑 (50)
- Cluster 49: 九州産業 (19) and 福工大城東 (26)
- Cluster 50: 嘉穂 (7) and 福岡 (94)
- Cluster 51: 明善 (12) and 福岡工業 (19)
- Cluster 52: 修猷館 (21) and 筑紫丘 (0)
- Cluster 53: 小倉工業 (0) and 小倉 (86)
- Cluster 54: 筑紫 (100) and 九国大付属 (0)
- Cluster 55: 糸島 (15) and 東筑 (50)
- Cluster 56: 九州産業 (19) and 福工大城東 (26)
- Cluster 57: 嘉穂 (7) and 福岡 (94)
- Cluster 58: 明善 (12) and 福岡工業 (19)
- Cluster 59: 修猷館 (21) and 筑紫丘 (0)
- Cluster 60: 小倉工業 (0) and 小倉 (86)
- Cluster 61: 筑紫 (100) and 九国大付属 (0)
- Cluster 62: 糸島 (15) and 東筑 (50)
- Cluster 63: 九州産業 (19) and 福工大城東 (26)
- Cluster 64: 嘉穂 (7) and 福岡 (94)
- Cluster 65: 明善 (12) and 福岡工業 (19)
- Cluster 66: 修猷館 (21) and 筑紫丘 (0)
- Cluster 67: 小倉工業 (0) and 小倉 (86)
- Cluster 68: 筑紫 (100) and 九国大付属 (0)
- Cluster 69: 糸島 (15) and 東筑 (50)
- Cluster 70: 九州産業 (19) and 福工大城東 (26)
- Cluster 71: 嘉穂 (7) and 福岡 (94)
- Cluster 72: 明善 (12) and 福岡工業 (19)
- Cluster 73: 修猷館 (21) and 筑紫丘 (0)
- Cluster 74: 小倉工業 (0) and 小倉 (86)
- Cluster 75: 筑紫 (100) and 九国大付属 (0)
- Cluster 76: 糸島 (15) and 東筑 (50)
- Cluster 77: 九州産業 (19) and 福工大城東 (26)
- Cluster 78: 嘉穂 (7) and 福岡 (94)
- Cluster 79: 明善 (12) and 福岡工業 (19)
- Cluster 80: 修猷館 (21) and 筑紫丘 (0)
- Cluster 81: 小倉工業 (0) and 小倉 (86)
- Cluster 82: 筑紫 (100) and 九国大付属 (0)
- Cluster 83: 糸島 (15) and 東筑 (50)
- Cluster 84: 九州産業 (19) and 福工大城東 (26)
- Cluster 85: 嘉穂 (7) and 福岡 (94)
- Cluster 86: 明善 (12) and 福岡工業 (19)
- Cluster 87: 修猷館 (21) and 筑紫丘 (0)
- Cluster 88: 小倉工業 (0) and 小倉 (86)
- Cluster 89: 筑紫 (100) and 九国大付属 (0)
- Cluster 90: 糸島 (15) and 東筑 (50)
- Cluster 91: 九州産業 (19) and 福工大城東 (26)
- Cluster 92: 嘉穂 (7) and 福岡 (94)
- Cluster 93: 明善 (12) and 福岡工業 (19)
- Cluster 94: 修猷館 (21) and 筑紫丘 (0)
- Cluster 95: 小倉工業 (0) and 小倉 (86)
- Cluster 96: 筑紫 (100) and 九国大付属 (0)
- Cluster 97: 糸島 (15) and 東筑 (50)
- Cluster 98: 九州産業 (19) and 福工大城東 (26)
- Cluster 99: 嘉穂 (7) and 福岡 (94)
- Cluster 100: 明善 (12) and 福岡工業 (19)
- Cluster 101: 修猷館 (21) and 筑紫丘 (0)
- Cluster 102: 小倉工業 (0) and 小倉 (86)
- Cluster 103: 筑紫 (100) and 九国大付属 (0)
- Cluster 104: 糸島 (15) and 東筑 (50)
- Cluster 105: 九州産業 (19) and 福工大城東 (26)
- Cluster 106: 嘉穂 (7) and 福岡 (94)
- Cluster 107: 明善 (12) and 福岡工業 (19)
- Cluster 108: 修猷館 (21) and 筑紫丘 (0)
- Cluster 109: 小倉工業 (0) and 小倉 (86)
- Cluster 110: 筑紫 (100) and 九国大付属 (0)
- Cluster 111: 糸島 (15) and 東筑 (50)
- Cluster 112: 九州産業 (19) and 福工大城東 (26)
- Cluster 113: 嘉穂 (7) and 福岡 (94)
- Cluster 114: 明善 (12) and 福岡工業 (19)
- Cluster 115: 修猷館 (21) and 筑紫丘 (0)
- Cluster 116: 小倉工業 (0) and 小倉 (86)
- Cluster 117: 筑紫 (100) and 九国大付属 (0)
- Cluster 118: 糸島 (15) and 東筑 (50)
- Cluster 119: 九州産業 (19) and 福工大城東 (26)
- Cluster 120: 嘉穂 (7) and 福岡 (94)
- Cluster 121: 明善 (12) and 福岡工業 (19)
- Cluster 122: 修猷館 (21) and 筑紫丘 (0)
- Cluster 123: 小倉工業 (0) and 小倉 (86)
- Cluster 124: 筑紫 (100) and 九国大付属 (0)
- Cluster 125: 糸島 (15) and 東筑 (50)
- Cluster 126: 九州産業 (19) and 福工大城東 (26)
- Cluster 127: 嘉穂 (7) and 福岡 (94)
- Cluster 128: 明善 (12) and 福岡工業 (19)
- Cluster 129: 修猷館 (21) and 筑紫丘 (0)
- Cluster 130: 小倉工業 (0) and 小倉 (86)
- Cluster 131: 筑紫 (100) and 九国大付属 (0)
- Cluster 132: 糸島 (15) and 東筑 (50)
- Cluster 133: 九州産業 (19) and 福工大城東 (26)
- Cluster 134: 嘉穂 (7) and 福岡 (94)
- Cluster 135: 明善 (12) and 福岡工業 (19)
- Cluster 136: 修猷館 (21) and 筑紫丘 (0)
- Cluster 137: 小倉工業 (0) and 小倉 (86)
- Cluster 138: 筑紫 (100) and 九国大付属 (0)
- Cluster 139: 糸島 (15) and 東筑 (50)
- Cluster 140: 九州産業 (19) and 福工大城東 (26)
- Cluster 141: 嘉穂 (7) and 福岡 (94)
- Cluster 142: 明善 (12) and 福岡工業 (19)
- Cluster 143: 修

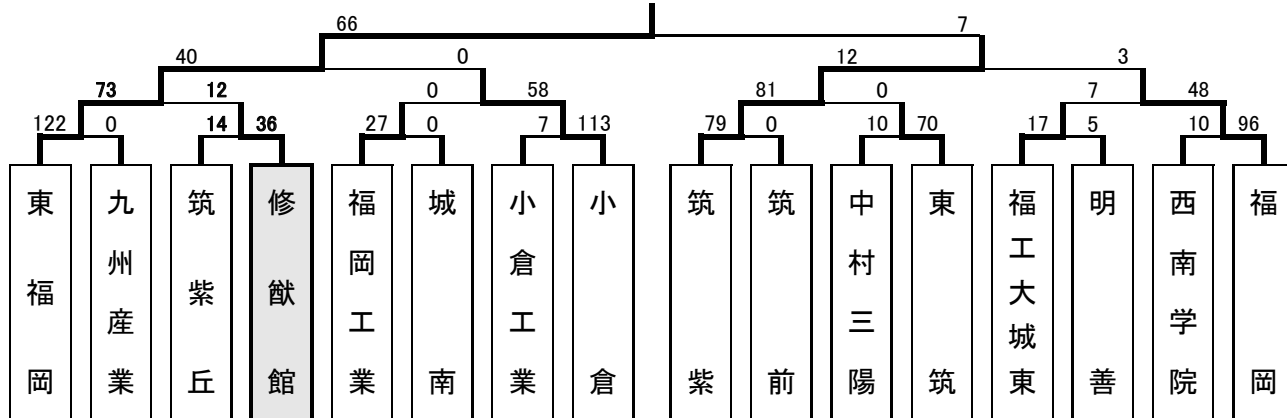
	17	反則	4	
①	富田	FW	①	安河内(竜)
②	沢		②	平嶋
③	伊勢川		③	中村
④	吉村		④	属
⑤	近藤		⑤	安河内(謙)
⑥	安恒	HB	⑥	安川
⑦	下津		⑦	原上
⑧	農塚		⑧	前田
⑨	齊平		⑨	諸岡
⑩	伊藤		⑩	中村
⑪	佐藤	TB	⑪	天谷
⑫	加茂川		⑫	野
⑬	杉町		⑬	松原
⑭	山名		⑭	温山
⑮	平松		⑮	富水
	棚橋	FB		
	水永	交代		上原 ⑤
	有吉		③	
	高橋		④	
	清家		①	

13 反則		9	
① 富沢	F W	① 姫野	
② 大沢		② 藤間	
③ 伊勢川		③ 宮本	
④ 吉村		④ 末松	
⑤ 近藤		⑤ 崎野	
⑥ 安恒	F B	⑥ 小田	
⑦ 下津		⑦ 塚本	
⑧ 農塚		⑧ 河原崎	
⑨ 小斉		⑨ 青木	
⑩ 伊藤		⑩ 荒牧	
⑪ 佐藤	T B	⑪ 荒井	
⑫ 加茂川		⑫ 松野	尾
⑬ 杉町		⑬ 濱田	
⑭ 山名		⑭ 里	
⑮ 平松		⑮ 小川	
水永	③	関谷	⑭
棚橋	⑥	交代	

平成19年

第29回 全九州高校新人大会 福岡県予選

優勝：東福岡高等学校 準優勝：筑紫高等学校



第4回戦 平成19年1月21日(日) 福岡工業G

R: 中村() 筑紫丘 14 0 19 36 修猷館

DG	PG	G	T	T	G	PG	DG
0	0	0	0	3	2	0	0
0	0	2	2	3	1	0	0

- 11 反則 20
- ① 中村 ① 水永
② 鬼木 ② 下津
③ 富屋 ③ 平山
④ 片平 FW ④ 井上(拓)
⑤ 佐々木 ⑤ 馬場
⑥ 宮原 ⑥ 堀尾
⑦ 白石 ⑦ 安恒
⑧ 属 ⑧ 農塚
⑨ 諸岡 HB ⑨ 平田
⑩ 中村 ⑩ 伊藤
⑪ 福永 ⑪ 佐藤
⑫ 天野 TB ⑫ 杉町
⑬ 大谷(滋) ⑬ 加茂川
⑭ 境 ⑭ 井上(雄)
⑮ 大谷(輔) FB ⑮ 前田
- 交代 ⑦ 若狭 ③ 藤内 ④ 岩谷 ⑬ 清原

準々決勝 平成19年1月28日(日) グローバルアリーナ

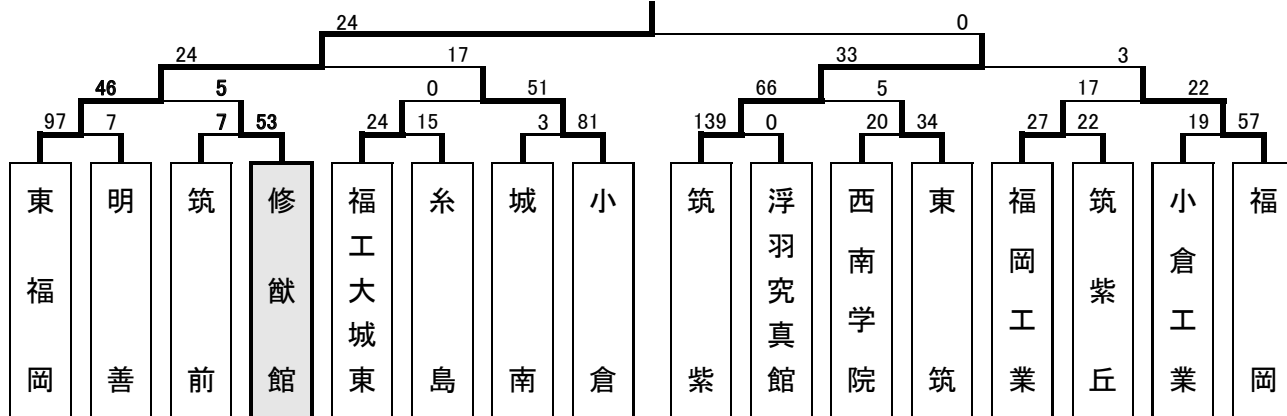
R: 野口(九州) 東福岡 73 21 52 修猷館

DG	PG	G	T	T	G	PG	DG
0	0	3	3	2	1	0	0
0	0	6	8	0	0	0	0

- 13 反則 9
- ① 茅島 ① 水永
② 小河 ② 下津
③ 上田 ③ 平山
④ 金本 FW ④ 井上(拓)
⑤ 福田 ⑤ 馬場
⑥ 広木 ⑥ 堀尾
⑦ 山下(航) ⑦ 安恒
⑧ 山下(恭) ⑧ 農塚
⑨ 小川 HB ⑨ 平田
⑩ 小野 ⑩ 伊藤
⑪ 久保山 ⑪ 佐藤
⑫ 猿楽下 TB ⑫ 杉町
⑬ 竹下 ⑬ 加茂川
⑭ 井上 ⑭ 井上(雄)
⑮ 田中 FB ⑮ 前田
- 交代 ⑨ 清原 ⑮ 勝間 ⑩ 若狭 ④ 工藤 ⑩ 藤内 ⑪ 原田 ① 藤内 ⑪ 上瀧 ③ 松田 ⑤ 山本 ⑥ 本

第60回 全九州高校大会 福岡県予選

優勝：東福岡高等学校 準優勝：筑紫高等学校



第4回戦 平成19年5月20日(日)
R: 猿渡(九州) 修猷館G

筑前	7	0	39	53	修猷館
DG	PG	G	T	T	G
0	0	0	0	7	2
0	0	1	1	2	0
0	0	0	0	2	0

11 反則 8

①松尾 ①水永
②貞方 ②岩谷
③栗原 ③藤内
④三島 FW ④井上(拓)
⑤日高 ⑤馬場
⑥三宅 ⑥堀尾
⑦鶴岡 ⑦平山
⑧林田 ⑧下津
⑨林 HB ⑨平田
⑩大神 ⑩大石
⑪木原 TB ⑪農塚
⑫三苦 ⑫加茂川
⑬濱山 ⑬杉町
⑭谷崎 ⑭佐藤
⑮鬼木 FB ⑮下川

交代 ⑭安恒 ⑭清原 ④
井上(雄) ② ⑥
岩本 ②
前田 ②
若狭 ⑭
福島 ①

準々決勝 平成19年5月27日(日)
R: 古賀(九州) グローバルアリーナ

東福岡	46	36	10	5	修猷館
DG	PG	G	T	T	G
0	0	3	6	1	0
0	0	0	2	0	0
0	0	0	0	0	0

7 反則 8

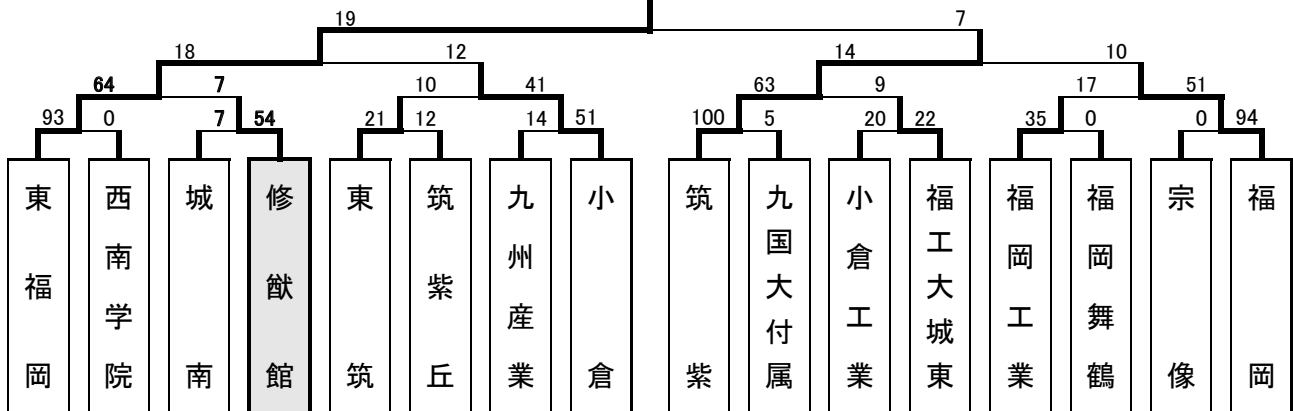
①上田(竜) ①水永
②下條 ②平山
③上瀧 ③藤内
④金本 FW ④井上(拓)
⑤垣永 ⑤馬場
⑥福田 ⑥堀尾
⑦山下(航) ⑦下津
⑧扇 ⑧農塚
⑨香山 HB ⑨平田
⑩工藤 ⑩大石
⑪井上(涼) ⑪佐藤
⑫久保山 TB ⑫杉町
⑬猿楽 ⑬加茂川
⑭井上(翔) ⑭安恒
⑮上田(謙) FB ⑮下川

市川 ⑧ 交 ⑭岩谷 ④
加藤 ⑬ 代 ⑬上(雄) ⑭
中村 ⑨
黒木 ⑪

第87回 全国高校大会 福岡県予選

優勝: 東福岡 高等学校

準優勝: 筑紫 高等学校



第4回戦 平成19年10月28日(日)
R: 北島() 筑紫G

城南	7	0	15	54	修猷館
DG	PG	G	T	T	G
0	0	1	1	3	0
0	0	0	0	7	2
0	0	0	0	2	0

5 反則 5

①橋本 ①水永
②松山 ②平山
③穴井 ③藤内
④谷口 FW ④岩谷
⑤田島 ⑤馬場
⑥小金丸 ⑥堀尾
⑦若尾 ⑦下津
⑧松永 ⑧農塚
⑨吹氣 HB ⑨平田
⑩笹原(貴) ⑩清原
⑪高地 TB ⑪佐藤
⑫村永 ⑫杉町
⑬室谷 ⑬加茂川
⑭濱田 ⑭伊藤
⑮笹原(謙) FB ⑮下川

吉村 ⑦ 交代 ⑭大石 ⑩
平石 ⑪ 交代 ⑭若狭 ①
安恒 ⑥
福島 ②
井上(拓) ④
前田 ⑮
鍵水 ⑫

準々決勝 平成19年11月4日(日)
R: 古賀(靖) グローバルアリーナ

東福岡	64	33	7	7	修猷館
DG	PG	G	T	T	G
0	0	4	5	0	0
0	0	3	5	1	0
0	0	0	0	0	0

2 反則 6

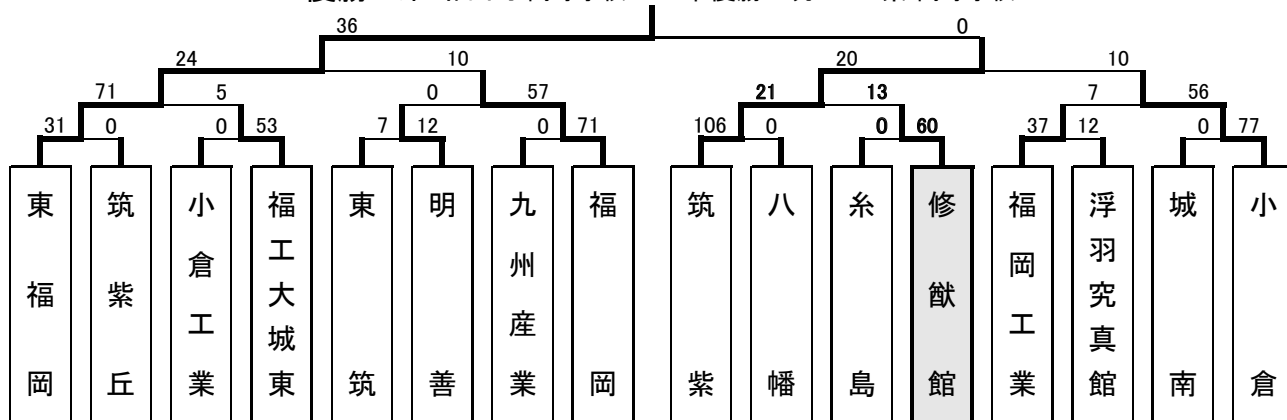
①上田(竜) ①水永
②茅島 ②平山
③垣永 ③藤内
④金本 FW ④岩谷
⑤岩崎 ⑤馬場
⑥広木 ⑥堀尾
⑦小河 ⑦下津
⑧山下(昂) ⑧農塚
⑨香山 HB ⑨平田
⑩工藤 ⑩大石
⑪小野 ⑪佐藤
⑫久保山 TB ⑫杉町
⑬猿楽 ⑬加茂川
⑭正海 ⑭伊藤
⑮竹下 FB ⑮下川

山下(航) ⑥ 交代 ⑭安恒 ⑥
下條 ② 交代 ⑭前田 ⑮
井上 ⑭ 井上(拓) ⑥
扇 ⑧ 清原 ⑫
上瀧 ③ 若狭 ②
上田(謙) ⑮

平成20年

第30回 全九州高校新人大会 福岡県予選

優勝：東福岡 高等学校 準優勝：筑紫 高等学校



第3回戦 平成20年1月20日(日) 筑紫G

R: 原(九州) 糸島 0 0 22 60 修猷館

DG	PG	G	T	DG	PG	G	T
0	0	0	0	4	1	0	0
0	0	0	0	6	4	0	0

- ① 木塚 ② 仲西 ③ 林 ④ 豊田 ⑤ 手島 ⑥ 井嶋 ⑦ 坂本 ⑧ 松尾 ⑨ 寺井 ⑩ 浦田 ⑪ 川田 ⑫ 遠藤 ⑬ 山崎 ⑭ 中村
- FW ① 中澤 ② 松田 ③ 藤内 ④ 肘井 ⑤ 植木 ⑥ 飯田 ⑦ 平山 ⑧ 時任 ⑨ 市園 ⑩ 大石 ⑪ 岸田 ⑫ 杉町 ⑬ 前田 ⑭ 鍵水 ⑮ 下川
- HB ① 井上 ② 小野 ③ 田中 ④ 盛 ⑤ 檜崎 ⑥ 庄
- 反則 3

準々決勝 平成20年1月27日(日) グローバルアリーナ

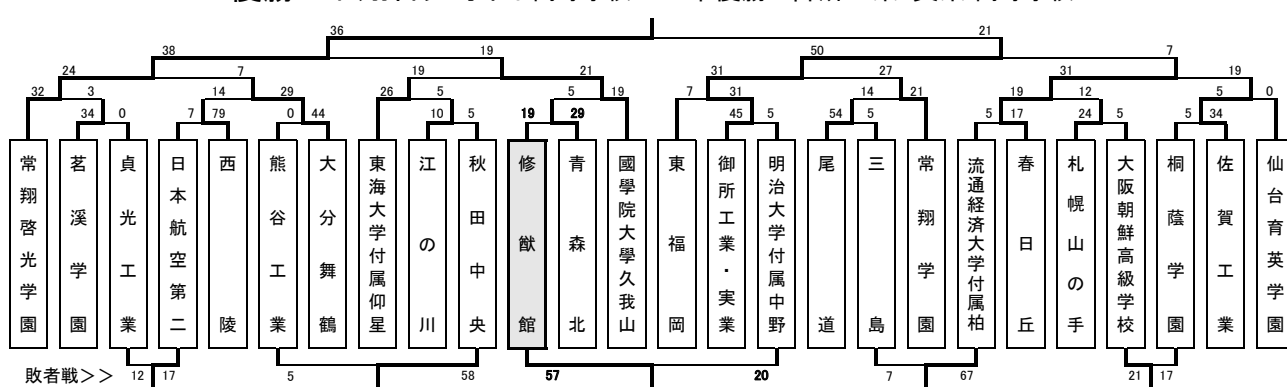
R: 古賀(靖)九州 修猷館 13 0 8 21 筑紫

DG	PG	G	T	DG	PG	G	T
0	1	0	1	3	3	0	0
0	0	0	1	0	0	0	0

- ① 中澤 ② 松田 ③ 藤内 ④ 肘井 ⑤ 植木 ⑥ 飯田 ⑦ 平山 ⑧ 時任 ⑨ 市園 ⑩ 大石 ⑪ 岸田 ⑫ 杉町 ⑬ 前田 ⑭ 鍵水 ⑮ 下川
- FW ① 上村 ② 柴田 ③ 有田 ④ 酢田 ⑤ 生島 ⑥ 丸山 ⑦ 廣瀬 ⑧ 古賀 ⑨ 成富(宣) ⑩ 塚 ⑪ 成富(正) ⑫ 百武 ⑬ 平田 ⑭ 川上 ⑮ 原田
- HB ① 井上 ② 小野 ③ 田中 ④ 盛 ⑤ 檜崎 ⑥ 庄
- 反則 12

第9回 全国高等学校選抜ラグビーフットボール大会

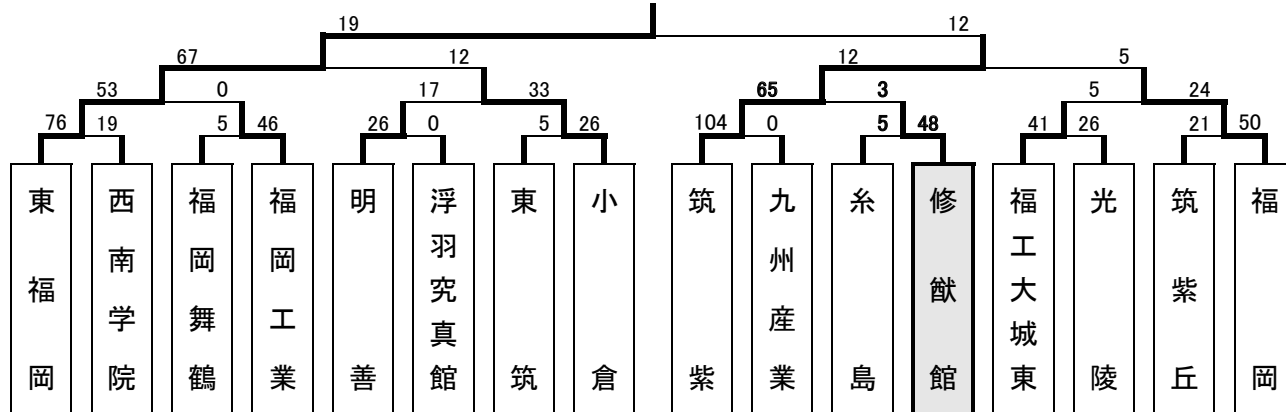
優勝：常翔啓光学園 高等学校 準優勝：御所工業・実業 高等学校





第61回 全九州高校大会 福岡県予選

優勝：東福岡高等学校 準優勝：筑紫高等学校



第4回戦 平成20年5月18日(日)
R: 中村(九州) 福岡G

修猷館	48	22	5	0	5	糸島
DG	PG	G	T	T	G	PG
0	0	1	4	1	0	0
0	0	3	4	0	0	0

8 反則 3

① 中澤 ① 木塚
② 井上 ② 仲西(保)
③ 藤内 ③ 林
④ 庄田 FW ④ 豊田
⑤ 植木 ⑤ 戸田
⑥ 平山 ⑥ 井嶋
⑦ 飯田 ⑦ 坂本
⑧ 時任 ⑧ 松尾
⑨ 鍵水 HB ⑨ 寺井
⑩ 大石 ⑩ 浦
⑪ 田中 TB ⑪ 吉村
⑫ 岸田 ⑫ 川田
⑬ 杉町 ⑬ 進藤
⑭ 市園 ⑭ 山崎
⑮ 下川 FB ⑮ 持田
前田 ⑪ 交代 須田 ⑬
小野 ⑧
松田 ④
岡本 ⑨
鬼崎 ⑤
白木 ⑮

準々決勝 平成20年5月25日(日)
R: 古賀(九州) グローバルアリーナ

修猷館	3	3	29	65	筑紫
DG	PG	G	T	T	G
0	1	0	0	4	3
0	0	0	0	6	3

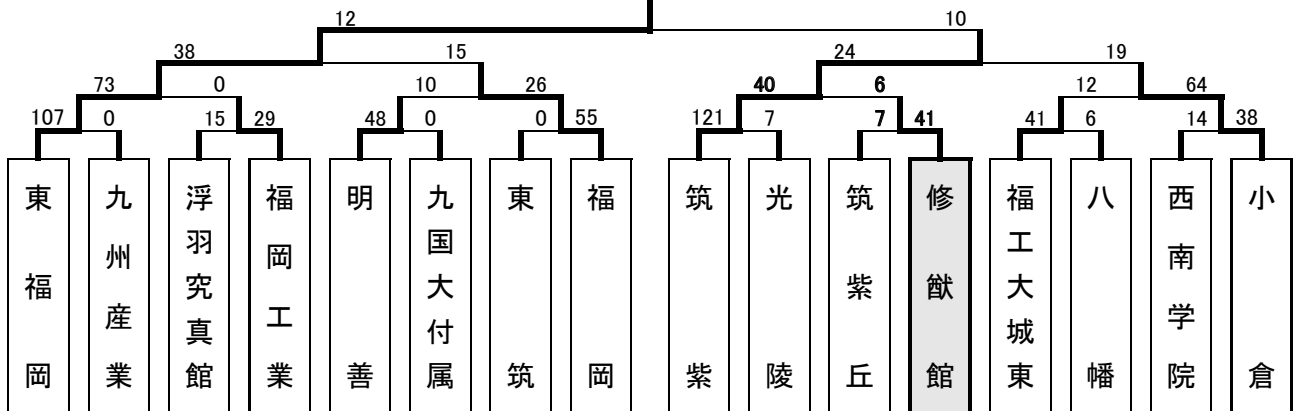
9 反則 9

① 中澤 ① 上村
② 井上 ② 南
③ 藤内 ③ 有田
④ 肘井 FW ④ 生島
⑤ 植木 ⑤ 勝瀬
⑥ 平山 ⑥ 丸山
⑦ 飯田 ⑦ 廣瀬
⑧ 時任 ⑧ 古賀
⑨ 鍵水 HB ⑨ 成富(宣)
⑩ 大石 ⑩ 堺
⑪ 岸田 TB ⑪ 平田
⑫ 前田 ⑫ 百武
⑬ 杉町 ⑬ 川田
⑭ 田中 ⑭ 成富(正)
⑮ 下川 FB ⑮ 原田
吉永 ⑫ 交代 吉野 ⑬
岡本 ⑫ 交代 大林 ⑭
松田 ⑧
鬼崎 ⑤
市園 ⑭

第88回 全国高校大会 福岡県予選

優勝: 東福岡 高等学校

準優勝: 筑紫 高等学校



第4回戦 平成20年10月26日(日)
R: 高木(九州) 修猷館G

修猷館	41	31	0	7	筑紫丘
DG	PG	G	T	T	G
0	1	4	4	0	0
0	0	0	2	1	1

10 反則 9

① 中澤 ① 中村(祐)
② 井上 ② 鬼木
③ 藤内 ③ 富屋
④ 肘井 FW ④ 宮原
⑤ 植木 ⑤ 鮫島
⑥ 飯田 ⑥ 鶴田
⑦ 檜崎 ⑦ 後藤
⑧ 時任 ⑧ 毛利
⑨ 市園 HB ⑨ 富山
⑩ 下川 ⑩ 天野
⑪ 田中 TB ⑪ 柳田
⑫ 前田 ⑫ 白石
⑬ 大石 ⑬ 小松
⑭ 杉町 ⑭ 境
⑮ 鍵水 FB ⑮ 小野
岸田 ⑭ 交代 小旗 ⑪
岡本 ⑫ 交代 柴田 ⑧
小野 ⑧
庄田 ⑤
野瀬 ⑥
盛 ⑨

準々決勝 平成20年11月2日(日)
R: 岩下(九州) グローバルアリーナ

修猷館	6	6	7	40	筑紫
DG	PG	G	T	T	G
0	2	0	0	1	1
0	0	0	0	5	4

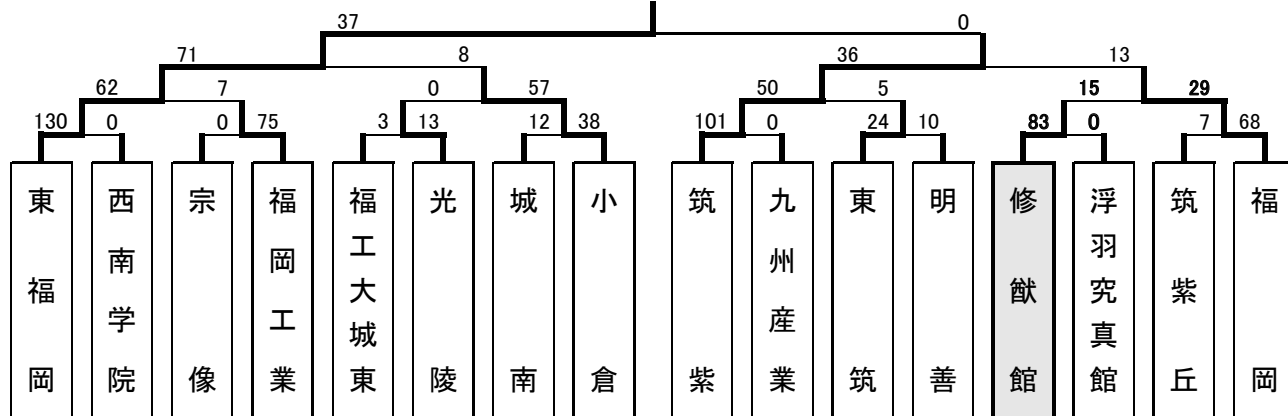
5 反則 9

① 中澤 ① 上村
② 井上 ② 南
③ 藤内 ③ 川口
④ 肘井 FW ④ 生島
⑤ 植木 ⑤ 勝瀬
⑥ 飯田 ⑥ 丸山
⑦ 檜崎 ⑦ 廣瀬
⑧ 時任 ⑧ 古賀
⑨ 市園 HB ⑨ 成富(宣)
⑩ 下川 ⑩ 堺
⑪ 田中 TB ⑪ 平田
⑫ 前田 ⑫ 百武
⑬ 大石 ⑬ 川田
⑭ 杉町 ⑭ 成富(正)
⑮ 鍵水 FB ⑮ 原田
岸田 ⑫ 交代 柴田 ②
岡本 ⑫ 交代 大林 ⑤
松田 ⑧
橋本 ⑩

平成21年

第31回 全九州高校新人大会 福岡県予選

優勝：東福岡高等学校 準優勝：筑紫高等学校



第3回戦 平成21年1月25日(日) 筑紫G

R: 日中(九州) 浮羽究真館 0 0 43 83 修猷館

DG	PG	G	T	T	G	PG	DG
0	0	0	0	7	4	0	0
0	0	0	0	6	5	0	0

- ① 原田 ② 高瀬 ③ 浅野 ④ 中野 ⑤ 柳瀬 ⑥ 佐藤 ⑦ 原模 ⑧ 高倉 ⑨ 倉富 ⑩ 石橋 ⑪ 野瀬 ⑫ 吉瀬 ⑬ 土師 ⑭ 麻生 ⑮ 竹津 樋口 ⑭
- FW
- HB
- TB
- FB
- 交代
- ① 野田 ② 肘井 ③ 植木 ④ 渡辺 ⑤ 櫛崎 ⑥ 白濱 ⑦ 江崎 ⑧ 時任 ⑨ 松本 ⑩ 下川 ⑪ 田中(朋) ⑫ 大石 ⑬ 岸田 ⑭ 吉永 ⑮ 鍵水 森下 ⑨ 鐵見 ⑪ 庄崎 ④ 小鶴 ① 田中(誠) ⑦ 田口 ⑮

準々決勝 平成21年2月1日(日) グローバルアリーナ

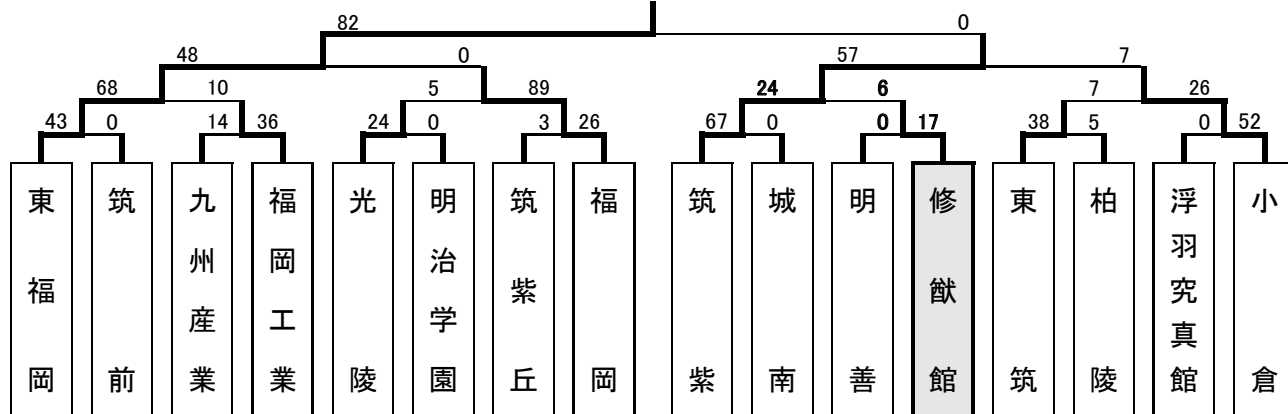
R: 前田(九州) 福岡 29 14 15 12 15 修猷館

DG	PG	G	T	T	G	PG	DG
0	0	2	2	2	1	0	0
0	1	1	2	0	0	1	0

- ① 田原 ② 井上 ③ 井之上 ④ 重 ⑤ 阿部 ⑥ 松村 ⑦ 土持 ⑧ 水上 ⑨ 中尾 ⑩ 谷山 ⑪ 福岡 ⑫ 川上 ⑬ 白石 ⑭ 長谷川 ⑮ 松下 牟田口 ①
- FW
- HB
- TB
- FB
- 交代
- ① 野田 ② 肘井 ③ 植木 ④ 渡辺 ⑤ 櫛崎 ⑥ 白濱 ⑦ 江崎 ⑧ 時任 ⑨ 松本 ⑩ 下川 ⑪ 田中(朋) ⑫ 大石 ⑬ 岸田 ⑭ 吉永 ⑮ 鍵水

第62回 全九州高校大会 福岡県予選

優勝：東福岡高等学校 準優勝：筑紫高等学校



第4回戦 平成21年5月17日(日)
R: 高木(九州) 修猷館G

修猷館	17	(5)	0	0	明善
DG	PG	G	T	T	G
0	0	0	1	0	0
0	0	1	2	0	0

8 反則 7

① 野田	① 山村
② 肘井	② 江口
③ 田中(誠)	③ 福田
④ 渡辺	④ 隈本
⑤ 檜崎	⑤ 鈴木
⑥ 白濱	⑥ 藤部
⑦ 江崎	⑦ 宮原
⑧ 時任	⑧ 平田
⑨ 松本	⑨ 坂田
⑩ 清原	⑩ 柳井
⑪ 田中(勝)	⑪ 手嶋
⑫ 大石	⑫ 木村
⑬ 岸田	⑬ 牟田
⑭ 青木	⑭ 白水
⑮ 下川	⑮ 井口
吉永 ⑭ 交代	植木 ③ 出口
植木 ③	西川 ⑨

準々決勝 平成21年5月24日(日)
R: 前田(九州) グローバルアリーナ

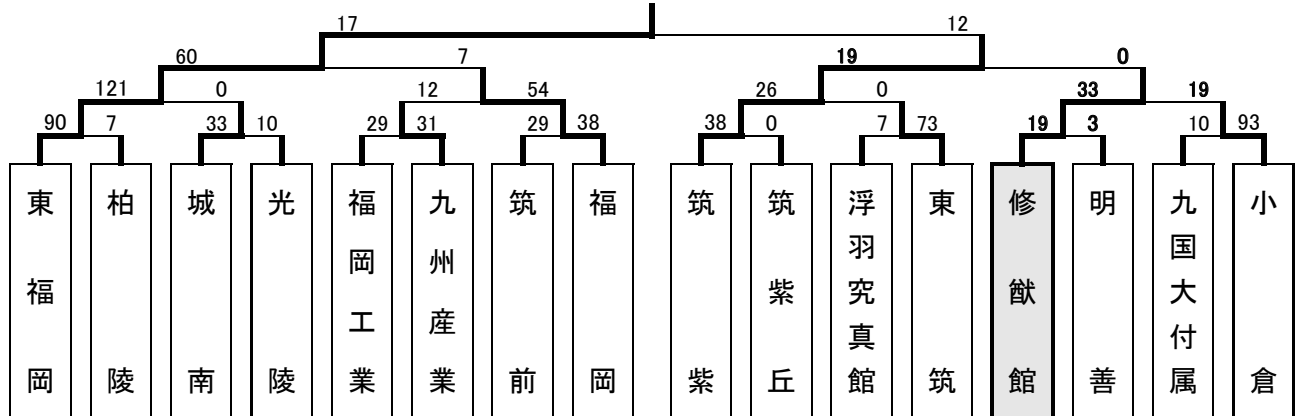
修猷館	6	(3)	2	17	24	筑紫	
DG	PG	G	T	T	G	PG	DG
0	1	0	0	3	1	0	0
0	1	0	0	1	1	0	0

11 反則 9

① 野田	① 上村
② 肘井	② 金堂
③ 植木	③ 南
④ 渡辺	④ 正井
⑤ 檜崎	⑤ 川口
⑥ 白濱	⑥ 丸山
⑦ 江崎	⑦ 山本
⑧ 時任	⑧ 古賀
⑨ 松本	⑨ 成富(宣)
⑩ 清原	⑩ 堺
⑪ 田中(勝)	⑪ 平田
⑫ 大石	⑫ 橋本
⑬ 岸田	⑬ 成富(正)
⑭ 吉永	⑭ 齋藤
⑮ 下川	⑮ 大林
川上 ⑩ 交代	川上 ⑭

第89回 全国高校大会 福岡県予選

優勝: 東福岡 高等学校 準優勝: 筑紫 高等学校



第4回戦 平成21年10月25日(日)
R: 野口(九州) 筑紫G

明善	3	(3)	12	19	修猷館
DG	PG	G	T	T	G
0	1	0	0	2	1
0	0	0	0	1	1

5 反則 10

① 山村	① 野田
② 江口	② 肘井
③ 井口	③ 植木
④ 鈴木	④ 渡辺
⑤ 浦部	⑤ 檜崎
⑥ 佐藤	⑥ 白濱
⑦ 宮原	⑦ 古城
⑧ 出口	⑧ 時任
⑨ 平田	⑨ 松本
⑩ 坂田	⑩ 鍵水
⑪ 柳井	⑪ 田中(勝)
⑫ 手嶋	⑫ 大石
⑬ 木村	⑬ 岸田
⑭ 牟田	⑭ 川上
⑮ 白水	⑮ 下川
隈本 ⑥ 交代	吉永 ⑩
西川 ②	

準々決勝 平成21年11月1日(日)
R: 野口(九州) 筑紫G

小倉	19	(19)	13	33	修猷館
DG	PG	G	T	T	G
0	0	2	3	2	0
0	0	0	0	3	1

13 反則 9

① 仲本	① 野田
② 石田	② 肘井
③ 御座	③ 植木
④ 肥後	④ 渡辺
⑤ 向尾	⑤ 檜崎
⑥ 石橋	⑥ 白濱
⑦ 桑原	⑦ 江崎
⑧ 三井	⑧ 時任
⑨ 楠田	⑨ 松本
⑩ 久富	⑩ 鍵水
⑪ 福田	⑪ 田中(勝)
⑫ 川原	⑫ 大石
⑬ 篠崎	⑬ 岸田
⑭ 高野	⑭ 吉永
⑮ 児玉	⑮ 下川
村田 ⑬ 交代	清原 ⑩
吉良 ⑫	

準決勝 平成21年11月8日(日)
R: 前田(九州) グローバルアリーナ

修猷館	0	(0)	7	19	筑紫
DG	PG	G	T	T	G
0	0	0	0	1	1
0	0	0	0	2	1

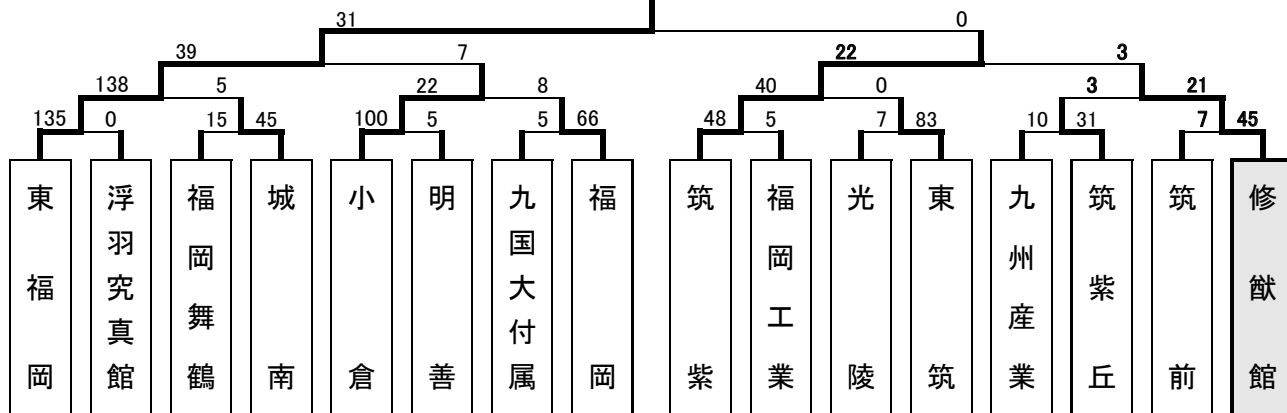
5 反則 6

① 野田	① 上村
② 肘井	② 金堂
③ 植木	③ 南
④ 渡辺	④ 正井
⑤ 檜崎	⑤ 川口
⑥ 白濱	⑥ 丸山
⑦ 江崎	⑦ 山本
⑧ 時任	⑧ 古賀
⑨ 松本	⑨ 成富
⑩ 清原	⑩ 堺
⑪ 田中(勝)	⑪ 平田
⑫ 大石	⑫ 橋本
⑬ 岸田	⑬ 齋藤
⑭ 吉永	⑭ 川上
⑮ 下川	⑮ 大林
古城 ⑦ 交代	石橋 ⑮

平成22年

第32回 全九州高校新人大会 福岡県予選

優勝：東福岡高等学校 準優勝：筑紫高等学校



第3回戦 平成22年1月17日(日)

R: 大辻(九州) 筑紫G

修猷館	45	17	28	7	7	筑前
DG	PG	G	T	T	G	PG
0	0	1	3	1	1	0
0	0	4	4	0	0	0

- ① 田中(誠) ① 宮本
② 松本 ② 永谷
③ 横田 ③ 末次
④ 有吉 FW ④ 岩永
⑤ 東 ⑤ 本田
⑥ 古城 ⑥ 大野
⑦ 山下 ⑦ 百本
⑧ 庄崎 ⑧ 由良
⑨ 緒方 HB ⑨ 矢野
⑩ 川上 ⑩ 黒川
⑪ 出海 TB ⑪ 平田
⑫ 杉町 ⑫ 木藤
⑬ 吉永 ⑬ 田中(寛)
⑭ 持田 ⑭ 南正覚
⑮ 染原 FB ⑮ 田中(千)
- 野中 ② 交代
植木 ⑫ 交代
石田 ⑤
別府 ④
南里 ⑪
白石 ⑧

準々決勝 平成22年1月24日(日)

R: 日中(九州) 東福岡G

修猷館	21	14	7	3	3	筑紫丘
DG	PG	G	T	T	G	PG
0	0	2	2	0	0	1
0	0	1	1	0	0	0

- ① 野中 ① 堤
② 田中(誠) ② 稗田
③ 横田 ③ 堀
④ 有吉 FW ④ 三好
⑤ 東 ⑤ 大久保
⑥ 古城 ⑥ 百田
⑦ 山下 ⑦ フリン文
⑧ 庄崎 ⑧ 橋本
⑨ 緒方 HB ⑨ 尾川
⑩ 川上 ⑩ 上村
⑪ 南里 ⑪ 岩谷
⑫ 杉町 TB ⑫ 柳田
⑬ 吉永 ⑬ 白石
⑭ 折居 ⑭ 中村
⑮ 染原 FB ⑮ 寺岡
- 石田 ④ 交代
植木 ⑨ 交代
松本 ①
持田 ⑩
出海 ⑮

準決勝 平成22年1月31日(日)

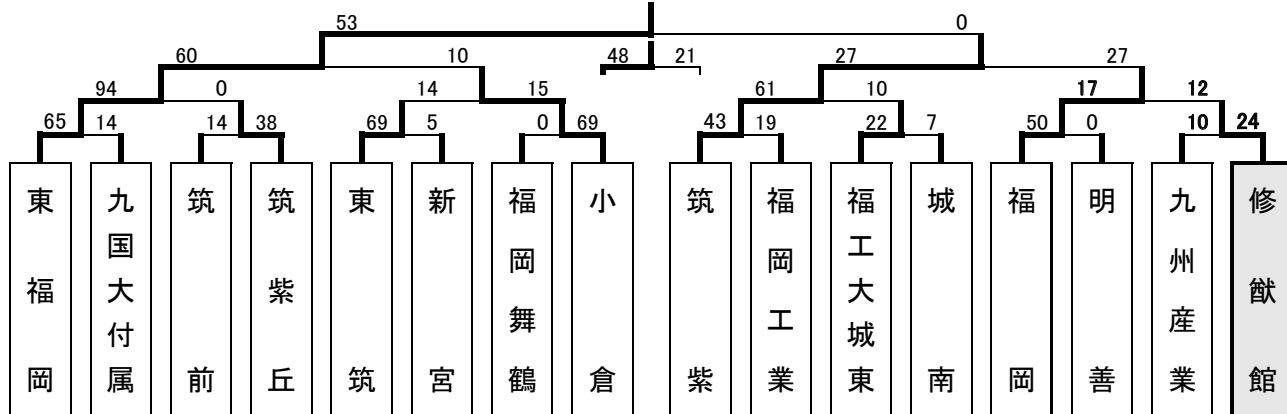
R: 前田(九州) グローバルアリーナ

修猷館	3	3	5	17	22	筑紫
DG	PG	G	T	T	G	PG
0	1	0	0	1	0	0
0	0	0	0	3	1	0

- ① 野中 ① 金堂
② 山下 ② 藤井
③ 田中(誠) ③ 鶴
④ 有吉 FW ④ 本田
⑤ 東 ⑤ 川地
⑥ 古城 ⑥ 山下
⑦ 石田 ⑦ 正井
⑧ 庄崎 ⑧ 平澤
⑨ 緒方 HB ⑨ 福島
⑩ 川上 ⑩ 石橋
⑪ 南里 ⑪ 広津
⑫ 杉町 TB ⑫ 南
⑬ 吉永 ⑬ 齊藤
⑭ 折居 ⑭ 川島
⑮ 染原 FB ⑮ 大林
- 横田 ⑦ 交代
出海 ⑪ 交代
田中(-) ④
持田 ⑭
坂井 ⑪
立石 ⑤
辻 ⑧
鳥飼 ⑨

第63回 全九州高校大会 福岡県予選

優勝：東福岡高等学校 準優勝：筑紫高等学校 3位：小倉高等学校



第4回戦 平成22年5月16日(日)
R: 中村(九州) 中村三陽G

修猷館	24	(5 19)	10	九州産業
DG	PG	G	T	
0	0	0	1	
0	0	2	3	

14 反則 11

① 野中	① 関谷
② 山下	② 高野
③ 田中(誠)	③ 田代
④ 有吉	④ 本山
⑤ 小鶴	⑤ 大土井
⑥ 古城	⑥ 川波
⑦ 庄崎	⑦ 篠塚
⑧ 東	⑧ 水城
⑨ 緒方	⑨ 前川
⑩ 永富	⑩ 徳永
⑪ 出海	⑪ 伊藤
⑫ 川上	⑫ 橋本
⑬ 吉永	⑬ 中村
⑭ 染原	⑭ 柴田
⑮ 中村	⑮ 長舟
石田 ⑤	高島 ④
別府 ④	森山 ⑫

準々決勝 平成22年5月23日(日)
R: 石本(九州) グローバルアリーナ

修猷館	12	(5 7)	17	福岡
DG	PG	G	T	
0	0	0	1	
0	0	1	1	

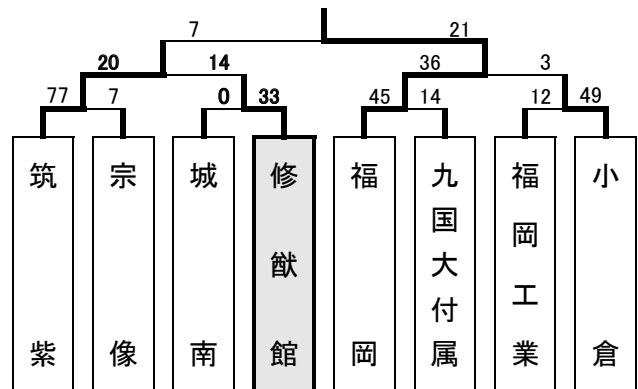
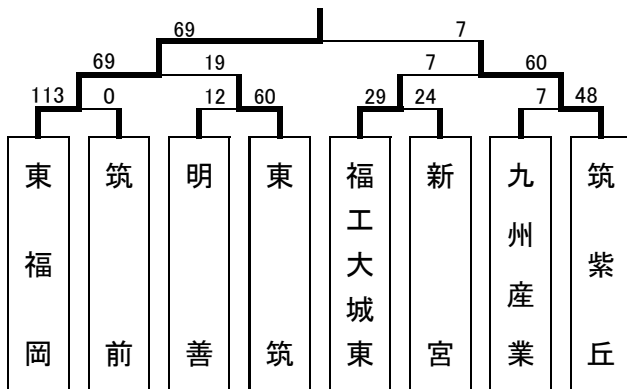
5 反則 5

① 野中	① 光安
② 山下	② 満田
③ 田中(誠)	③ 熊谷
④ 有吉	④ 岡村
⑤ 庄崎	⑤ 瀬尾
⑥ 古城	⑥ 奥山
⑦ 石田	⑦ 末永
⑧ 東	⑧ 西田
⑨ 緒方	⑨ 中尾
⑩ 永富	⑩ 寺川
⑪ 南里	⑪ 福岡
⑫ 川上	⑫ 松下
⑬ 吉永	⑬ 安部
⑭ 出海	⑭ 林
⑮ 染原	⑮ 谷山
杉町 ⑫	交代

第90回 全国高校大会 福岡県予選

第一地区 優勝: 東福岡高等学校
準優勝: 筑紫丘高等学校

第二地区 優勝: 福岡高等学校
準優勝: 筑紫高等学校



第4回戦 平成22年10月31日(日)
R: 北島(九州) 春日公園球技場

城南	0	(0 26)	33	修猷館
DG	PG	G	T	
0	0	0	0	
0	0	0	0	

6 反則 7

① 森山	① 松本
② 上杉(鉄)	② 山下
③ 柴田	③ 田中(誠)
④ 田崎	④ 有吉
⑤ 小野	⑤ 小鶴
⑥ 松井	⑥ 古城
⑦ 立川	⑦ 石田
⑧ 佐藤	⑧ 庄崎
⑨ 原田	⑨ 中村
⑩ 白濱	⑩ 川上
⑪ 市川	⑪ 杉町
⑫ 結城	⑫ 永富
⑬ 横山	⑬ 吉永
⑭ 上杉(慎)	⑭ 折居
⑮ 下村	⑮ 染原
	永田 ⑧
	松尾 ⑨
	出海 ⑭
	別府 ④
	野中 ①
	東 ⑦

準決勝 平成22年11月7日(日)
R: 前田(九州) 春日公園球技場

筑紫	20	(5 15)	7	修猷館
DG	PG	G	T	
0	0	0	1	
0	0	0	3	

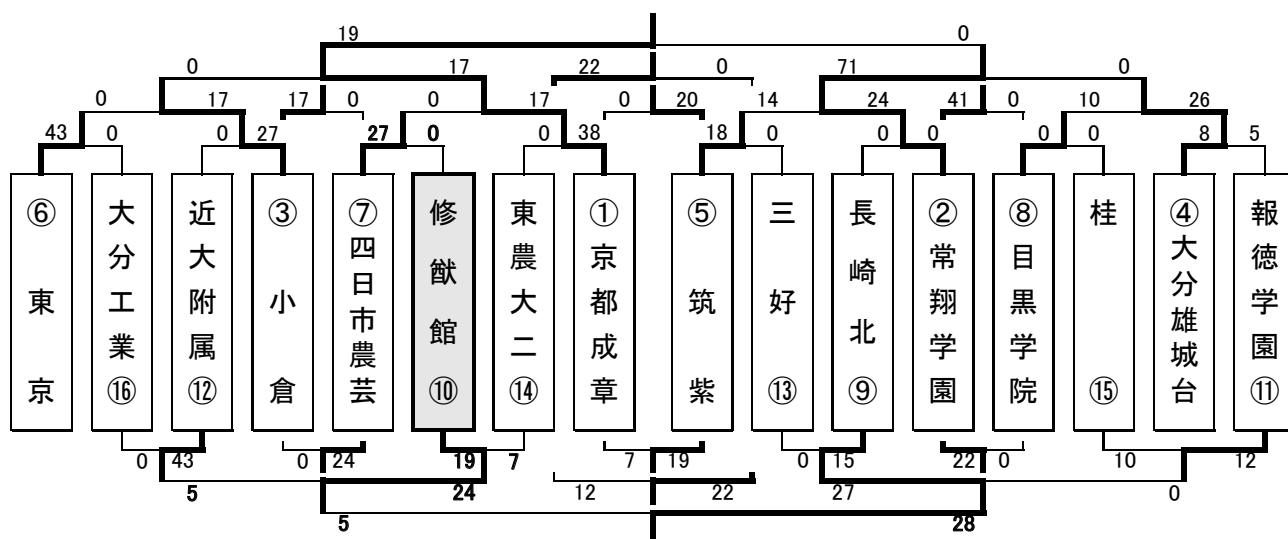
8 反則 7

① 金堂	① 松本
② 藤井	② 山下
③ 鶴	③ 田中(誠)
④ 本田	④ 有吉
⑤ 川地	⑤ 小鶴
⑥ 山下	⑥ 古城
⑦ 正井	⑦ 石田
⑧ 平澤	⑧ 庄崎
⑨ 福島	⑨ 植木
⑩ 石橋	⑩ 川上
⑪ 水鳥	⑪ 杉町
⑫ 南	⑫ 永富
⑬ 齊藤	⑬ 吉永
⑭ 井上	⑭ 折居
⑮ 大林	⑮ 染原
	東 ⑧
	出海 ⑭
	別府 ④

平成23年

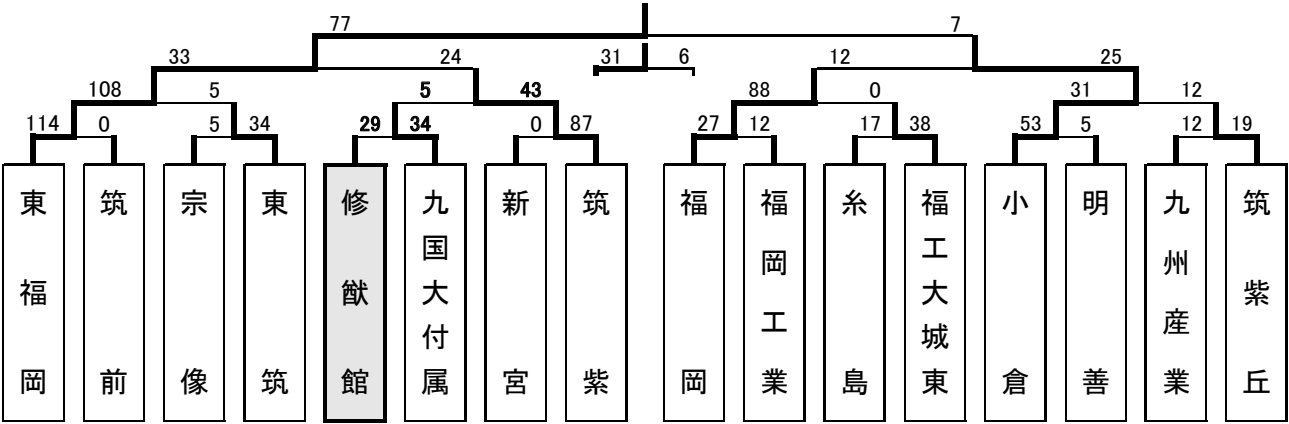
サニックス2011ワールドユース交流大会予選会

優勝：京都成章 高等学校 準優勝：常翔学園 高等学校 3位：小倉 高等学校



第33回 全九州高校新人大会 福岡県予選

優勝：東福岡高等学校 準優勝：小倉高等学校 3位：筑紫高等学校



第3回戦 平成23年1月22日(土) 修猷館G

R: 重松(九州) 修猷館 29 (12) 22 34 九国大付属

DG	PG	G	T	T	G	PG	DG
0	0	1	2	3	2	1	0
0	0	1	3	2	1	0	0

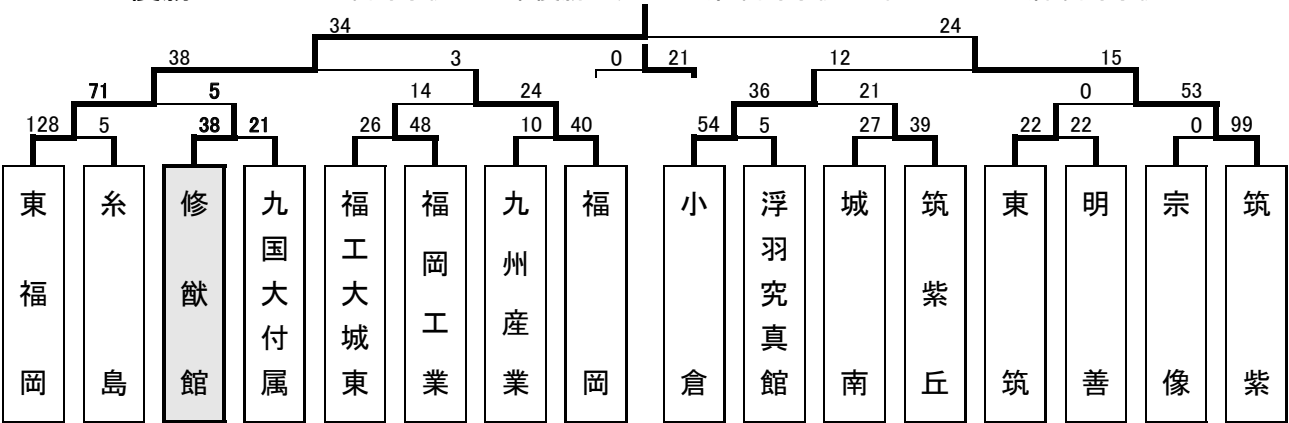
⑬ 反則 ⑫ 2

① 松本	FW	① 阿部
② 吉富		② 松岡
③ 永田		③ 長里
④ 齋藤		④ 中西
⑤ 松尾		⑤ 河野
⑥ 諸岡		⑥ 溝下
⑦ 山田		⑦ 中川
⑧ 東		⑧ 田中(雅)
⑨ 植木	HB	⑨ 田中(裕)
⑩ 川上		⑩ 吉富
⑪ 湯川	TB	⑪ 浦上
⑫ 杉町		⑫ 永島
⑬ 永富		⑬ 山口
⑭ 出海		⑭ 岩崎
⑮ 染原	FB	⑮ 中野
	交代	宇都宮 ⑭



第64回 全九州高校大会 福岡県予選

優勝：東福岡高等学校 準優勝：筑紫高等学校 3位：小倉高等学校



第3回戦 平成23年5月8日(日)
R: 大辻(九州) 福岡工業G
修猷館 53 (26) 0 福岡舞鶴

DG	PG	G	T
0	0	3	4
0	0	1	5

反則 5

① 松本 ① 待永
② 吉富 ② 貝田
③ 横田 ③ 矢野
④ 齋藤 FW ④ 山本(拓)
⑤ 松尾 ⑤ 宮原
⑥ 植木 ⑥ 松隈
⑦ 永田 ⑦ 副島
⑧ 東 ⑧ 穴井
⑨ 鎌水 HB ⑨ 天本
⑩ 川上 ⑩ 坂口
⑪ 諸岡 TB ⑪ 橋本
⑫ 高橋 ⑫ 小林
⑬ 永富 ⑬ 磯野
⑭ 出海 ⑭ 郡山
⑮ 染原 FB ⑮ 山本(健)
山田 ⑥ 交代
田中 ⑤ 代
中村(登) ③ 香月 ④
中村(恒) ⑫ 米窪 ④
溝口 ②
中村(未) ⑨
中村(天) ④

第4回戦 平成23年5月15日(日)
R: 石井(九州) 東福岡G
修猷館 38 (28) 14 21 九国大付属

DG	PG	G	T
0	0	4	4
0	0	0	2

反則 11

① 松本 ① 阿部
② 吉富 ② 松岡
③ 横田 ③ 長里
④ 田中 ④ 中西
⑤ 齋藤 FW ⑤ 河野
⑥ 山田 ⑥ 中川
⑦ 諸岡 ⑦ 岩崎
⑧ 東 ⑧ 田中(雅)
⑨ 鎌水 HB ⑨ 田中(裕)
⑩ 川上 ⑩ 吉富
⑪ 杉町 TB ⑪ 浦上
⑫ 高橋 ⑫ 永島
⑬ 永富 ⑬ 山口
⑭ 出海 ⑭ 宇都宮
⑮ 染原 FB ⑮ 中野
松尾 ④ 交代
田中 ⑩ 溝下 ⑦

準々決勝 平成23年5月22日(日)
R: 藤崎(九州) グローバルアリーナ
東福岡 71 (40) 5 修猷館

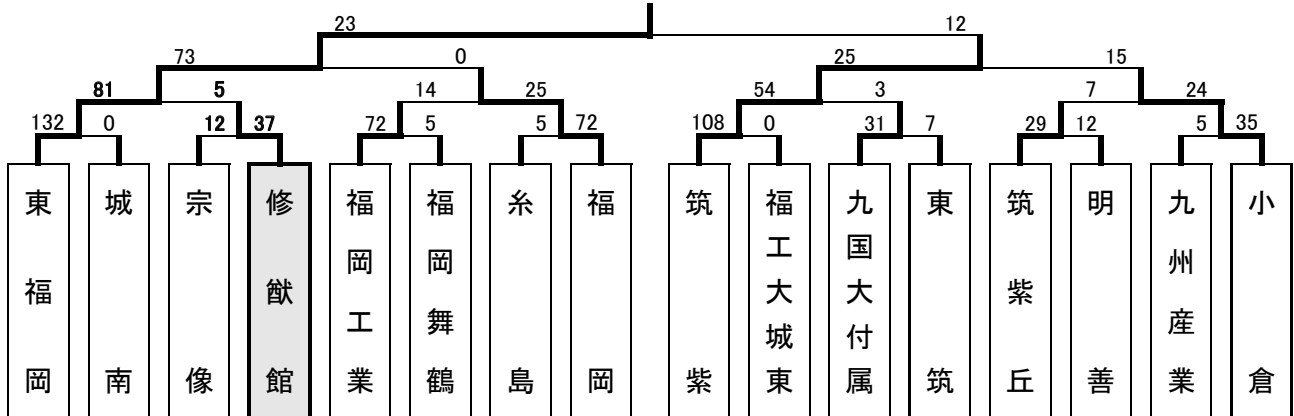
DG	PG	G	T
0	0	5	6
0	0	3	5

反則 2

① 才田 ① 永田
② 清原 ② 吉富
③ 河村 ③ 横田
④ 和田 FW ④ 田中
⑤ 牧野内 ⑤ 齋藤
⑥ 堺 ⑥ 山田
⑦ 吉中 ⑦ 諸岡
⑧ 石松 ⑧ 東
⑨ 岩村 HB ⑨ 鎌水
⑩ 近藤 TB ⑩ 川上
⑪ 藤崎 ⑪ 中村(登)
⑫ 大庭 ⑫ 杉町
⑬ 中尾 ⑬ 永富
⑭ 平尾 ⑭ 出海
⑮ 平野(游) FB ⑮ 染原
立光 ⑦ 交代
徳田 ⑫ 松尾 ⑤
清家 ⑨ 野中 ②
中嶋 ① 植木 ⑦
大山 ⑩ 中村(恒) ⑫
西内 ⑭ 溝口 ④
中村(天) ③

第91回 全国高校大会 福岡県予選

優勝: 東福岡 高等学校 準優勝: 筑紫 高等学校



第4回戦 平成23年10月23日(日)
R: 片山(九州) 東福岡G
宗像 12 (7) 15 37 修猷館

DG	PG	G	T
0	0	1	1
0	0	0	1

反則 6

① 栗野 ① 松本
② 白井 ② 吉富
③ 大野 ③ 永田
④ 三浦 FW ④ 東
⑤ 大原 ⑤ 田中
⑥ 川崎 ⑥ 諸岡
⑦ 渋谷 ⑦ 齋藤
⑧ 平 ⑧ 緒方
⑨ 宮村 HB ⑨ 中村(拓)
⑩ 小江 ⑩ 永富
⑪ 坂口 TB ⑪ 持田
⑫ 中島 ⑫ 川上
⑬ 中村 ⑬ 高橋
⑭ 松島 ⑭ 出海
⑮ 相江 FB ⑮ 染原
交代
山田 ⑨
杉町 ⑪
中村(天) ③
溝口 ②
横田 ④
中村(恒) ⑫

準決勝 平成23年10月30日(日)
R: 藤崎(九州) 東福岡G
東福岡 81 (27) 5 修猷館

DG	PG	G	T
0	2	3	3
0	0	7	8

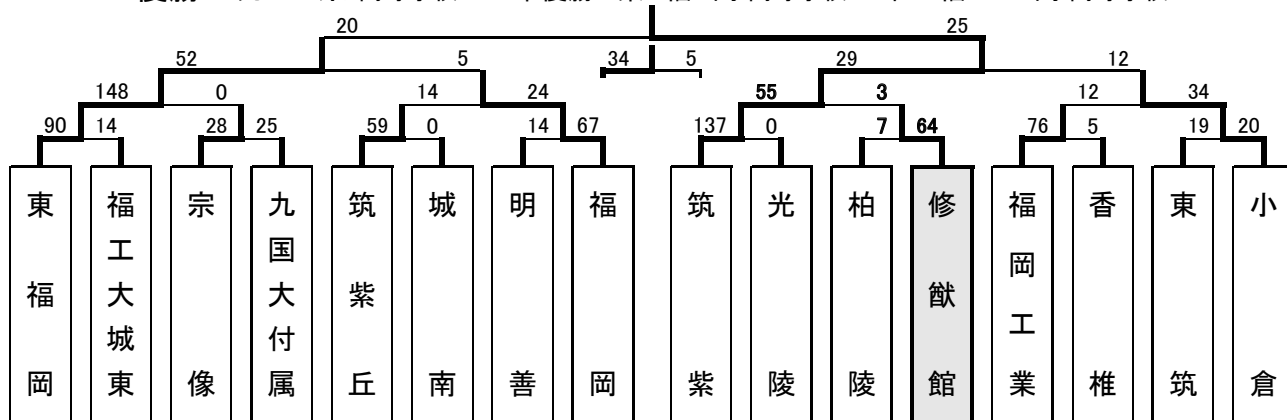
反則 6

① 才田 ① 松本
② 林 ② 吉富
③ 平野 ③ 永田
④ 和田 FW ④ 松尾
⑤ 牧野内 ⑤ 田中
⑥ 木村 ⑥ 東
⑦ 堺 ⑦ 山田
⑧ 西 ⑧ 緒方
⑨ 岩村 HB ⑨ 植木
⑩ 川上 TB ⑩ 永富
⑪ 大城 ⑪ 諸岡
⑫ 大山 ⑫ 川上
⑬ 西内 ⑬ 高橋
⑭ 中野 ⑭ 杉町
⑮ 藤田 FB ⑮ 染原
石松 ⑤ 交代
石橋 ③ 齋藤 ⑥
近藤 ⑩ 横田 ⑤
山田 ⑨ 出海 ⑫
大庭 ⑪ 中村(拓) ⑫
河村 ① 持田 ⑭
中尾 ⑬ 西田 ⑮

平成24年

第34回 全九州高校新人大会 福岡県予選

優勝：筑 紫 高等学校 準優勝：東 福 岡 高等学校 3位：福 岡 高等学校



第4回戦 平成24年1月15日(日)

R: 畑井(九州) 筑紫G 柏陵

修猷館	64	38	0	7	7	0	0	0	0
DG	PG	G	T	T	G	PG	DG	DG	
0	0	4	6	0	0	0	0	0	
0	0	3	4	1	1	0	0	0	

- 反則 5
- | | |
|---------|---------|
| ① 山田 | ① 坂井 |
| ② 野中 | ② 大浦 |
| ③ 永田 | ③ 清武 |
| ④ 澁田 | ④ 尾家 |
| ⑤ 野崎 | ⑤ 平山 |
| ⑥ 松尾 | ⑥ 田中 |
| ⑦ フェイス | ⑦ 大前 |
| ⑧ 諸岡 | ⑧ 平田 |
| ⑨ 中村 | ⑨ 井上(聡) |
| ⑩ 高橋(吉) | ⑩ 福崎 |
| ⑪ 高橋(祐) | ⑪ 道面 |
| ⑫ 永富 | ⑫ 有光 |
| ⑬ 湯川 | ⑬ 吉村 |
| ⑭ 石内 | ⑭ 坂本 |
| ⑮ 鍵水 | ⑮ 野中 |
| 荒上 | ⑪ 交代 |
| 伊藤 | ⑫ 山口 |
| 瀬戸 | ⑦ |
| 菅田 | |
| 相原 | ⑭ |

準々決勝 平成24年1月22日(日)

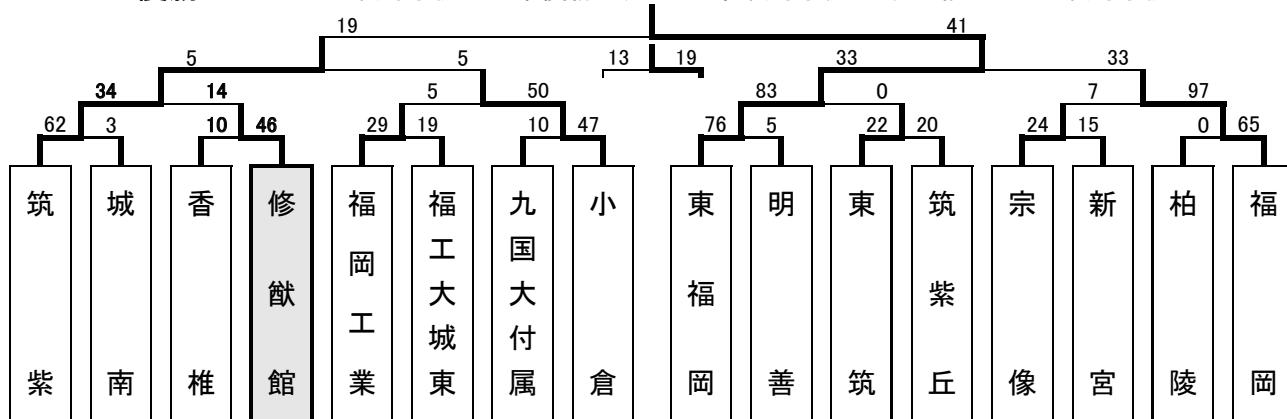
R: 石井(九州) 春日公園球技場 修猷館 3 3 19 55 筑紫

修猷館	3	3	0	19	55	筑紫
DG	PG	G	T	T	G	PG
0	1	0	0	3	2	0
0	0	0	0	6	3	0

- 反則 8
- | | |
|---------|------|
| ① 山田 | ① 佐伯 |
| ② 野中 | ② 小原 |
| ③ 永田 | ③ 緒方 |
| ④ 澁田 | ④ 田端 |
| ⑤ 野崎 | ⑤ 桑野 |
| ⑥ フェイス | ⑥ 水鳥 |
| ⑦ 松尾 | ⑦ 小林 |
| ⑧ 諸岡 | ⑧ 山崎 |
| ⑨ 中村 | ⑨ 古田 |
| ⑩ 高橋(吉) | ⑩ 石本 |
| ⑪ 高橋(祐) | ⑪ 山本 |
| ⑫ 永富 | ⑫ 鶴田 |
| ⑬ 湯川 | ⑬ 古屋 |
| ⑭ 石内 | ⑭ 久保 |
| ⑮ 鍵水 | ⑮ 井上 |
| 荒上 | ⑩ 上萬 |
| 伊藤 | ⑮ 岩永 |
| 瀬戸 | ③ 戸高 |
| 菅田 | ⑦ 鎌田 |
| 相原 | ⑧ 吉村 |
| | ① 倉掛 |
| | ⑫ 外山 |

第65回 全九州高校大会 福岡県予選

優勝：東 福 岡 高等学校 準優勝：筑 紫 高等学校 3位：福 岡 高等学校



第4回戦 平成24年5月13日(日)
R: 北島(九州) 修猷館G
香椎 10 (5 27) 46 修猷館

DG	PG	G	T	T	G	PG	DG
0	0	0	1	3	2	0	0
0	0	0	1	5	1	0	0

7 反則 5

① 島田 ① 今井
② 高橋 ② 野中
③ 竹田 ③ 永田
④ 江頭 FW ④ フェイスデラン
⑤ 石橋 ⑤ 松尾
⑥ 丹波 ⑥ 高橋(拓)
⑦ 田中 ⑦ 中村
⑧ 深田 ⑧ 諸岡
⑨ 太田 HB ⑨ 古城
⑩ 北村 ⑩ 鍵水
⑪ 木嶋 ⑪ 石内
⑫ 安永 TB ⑫ 柴尾
⑬ 北迫 ⑬ 湯川
⑭ 入江 ⑭ 村田
⑮ 植木 FB ⑮ 高橋(吾)
交代 荒上 ⑭
重松 ⑮
瀬戸 ⑥

準々決勝 平成24年5月20日(日)
R: 古賀(九州) 春日公園球技場
筑紫 34 (14 20) 14 修猷館

DG	PG	G	T	T	G	PG	DG
0	0	2	2	2	2	0	0
0	0	0	4	0	0	0	0

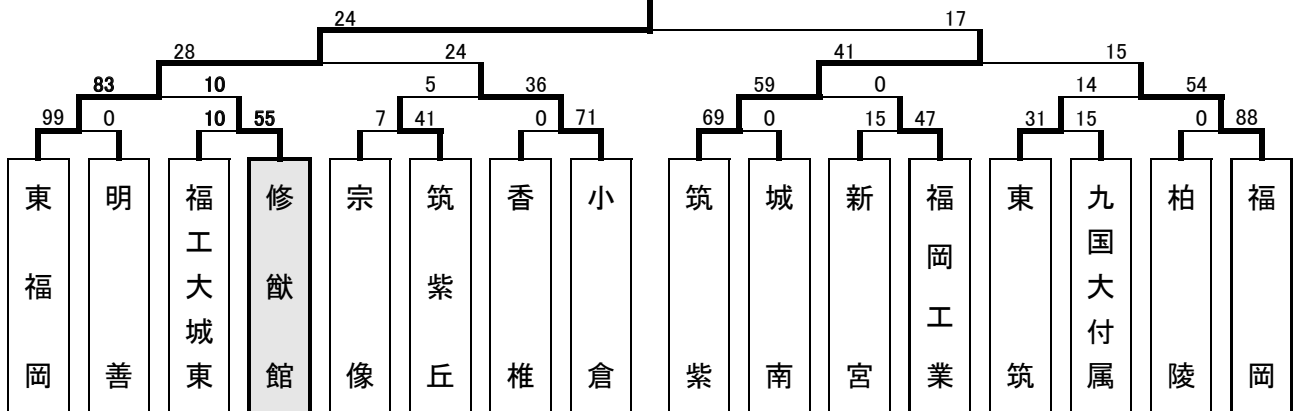
8 反則 7

① 佐伯 ① 山田
② 小原 ② 野中
③ 緒方 ③ 永田
④ 田端 FW ④ フェイスデラン
⑤ 桑野 ⑤ 松尾
⑥ 水鳥 ⑥ 高橋(拓)
⑦ 小林 ⑦ 中村
⑧ 山崎 ⑧ 諸岡
⑨ 古田 HB ⑨ 古城
⑩ 石本 ⑩ 鍵水
⑪ 内田 TB ⑪ 柴尾
⑫ 鶴田 ⑫ 永富
⑬ 古屋 ⑬ 湯川
⑭ 久保 ⑭ 石内
⑮ 井上 FB ⑮ 高橋(吾)
交代 稗田 ①
山本 ⑫ 今井 ⑥
西館 ⑦ 村田 ⑪
吉村 ⑤ 荒上 ⑭
倉掛 ③

第92回 全国高校大会 福岡県予選

優勝: 東福岡 高等学校

準優勝: 筑紫 高等学校



第4回戦 平成24年10月21日(日)
R: 古賀(九州) 東福岡G
福工大城東 10 (5 31) 55 修猷館

DG	PG	G	T	T	G	PG	DG
0	0	0	1	4	2	0	0
0	0	0	1	5	3	0	0

6 反則 8

① 大橋 ① 今井
② 田代 ② 野中
③ 河分 ③ 永田
④ 首藤 FW ④ 澁田
⑤ 上野 ⑤ フェイスデラン
⑥ 今村 ⑥ 山田
⑦ 喜多島 ⑦ 中村
⑧ 合瀬 ⑧ 永富
⑨ 貞方 HB ⑨ 古城
⑩ 中川 ⑩ 鍵水
⑪ 平田 TB ⑪ 高橋(吾)
⑫ 吉本 ⑫ 高橋(吾)
⑬ 吉川 ⑬ 湯川
⑭ 松下 ⑭ 石内
⑮ 白石 FB ⑮ 重松
交代 長船 ⑮
高橋 ⑦ 村田 ⑭
菅田 ②
諸岡 ②
荒上 ⑪
高橋(拓) ⑦
大長 ④
松尾 ⑤

準々決勝 平成24年10月28日(日)
R: 辻原(九州) 東福岡G
東福岡 83 (31 52) 10 修猷館

DG	PG	G	T	T	G	PG	DG
0	0	3	5	0	0	1	0
0	0	6	8	1	1	0	0

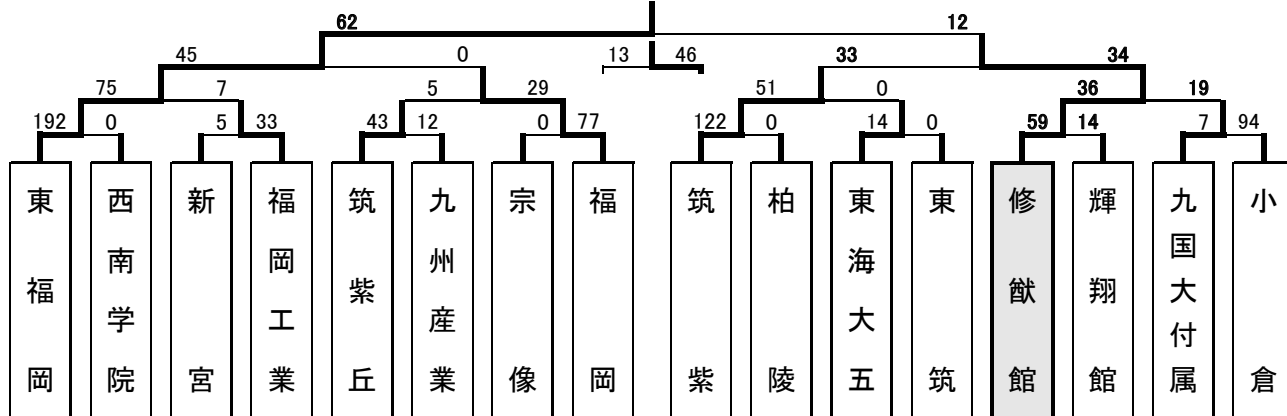
3 反則 0

① 河村 ① 今井
② 岡部 ② 野中
③ 金子 ③ 永田
④ 牧野 FW ④ 澁田
⑤ 西内 ⑤ フェイスデラン
⑥ 廣川 ⑥ 山田
⑦ 古賀 ⑦ 中村
⑧ 武末 ⑧ 永富
⑨ 古川 HB ⑨ 古城
⑩ 蔵座 ⑩ 鍵水
⑪ 中尾 TB ⑪ 柴尾
⑫ 松尾 ⑫ 高橋(吾)
⑬ 東川 ⑬ 湯川
⑭ 金谷 ⑭ 村田
⑮ 川上 FB ⑮ 重松
交代 市橋 ⑩
川村 ①
中野 ②
佐藤 ④
占部 ⑧
永富 ⑫
平尾 ⑪

平成25年

第35回 全九州高校新人大会 福岡県予選

優勝: 東福岡 高等学校 準優勝: 修猷館 高等学校 3位: 筑紫 高等学校



第4回戦 平成25年1月20日(日) 筑紫G

R: 平本() 輝翔館 14 (7 二 42) 59 修猷館

DG	PG	G	T	T	G	PG	DG
0	0	1	1	6	6	0	0
0	0	1	1	3	1	0	0

- 5 反則 5
- ①高山 ①今井
②中尾 ②菊池
③平山 ③喜多
④梶原 FW ④横山
⑤本田 ⑤菅田
⑥石部 ⑥伊藤
⑦石井 ⑦岸川
⑧鹿兒島 ⑧佐藤
⑨酒見 H B ⑨鍾水
⑩岸井 ⑩古城
⑪久保田 ⑪江口
⑫合瀬 T B ⑫高橋
⑬園田 ⑬柴尾
⑭井上 ⑭村田
⑮森本 F B ⑮重松
交代 西田 ⑤

準々決勝 平成25年1月27日(日) グローバルアリーナ

R: 日中(九州) 小倉 19 (12 二 14) 36 修猷館

DG	PG	G	T	T	G	PG	DG
0	0	1	2	2	2	0	0
0	0	1	1	3	2	1	0

- 6 反則 5
- ①重光 ①今井
②竹村 ②菊池
③呉 ③喜多
④吉富 FW ④横山
⑤高田 ⑤菅田
⑥清田 ⑥伊藤
⑦久富 ⑦岸川
⑧花田 ⑧佐藤
⑨江寄 H B ⑨鍾水
⑩井上 ⑩古城
⑪戸高 T B ⑪江口
⑫阿部 ⑫高橋
⑬濱部 ⑬柴尾
⑭占部 ⑭村田
⑮松浦 F B ⑮重松
交代

準決勝 平成25年2月3日(日) グローバルアリーナ

R: 前田(日本) 修猷館 34 (13 二 19) 33 筑紫

DG	PG	G	T	T	G	PG	DG
0	2	1	1	3	2	0	0
0	0	3	3	2	2	0	0

- 2 反則 12
- ①今井 ①倉掛
②菊池 ②小原
③喜多 ③猿渡
④横山 FW ④田菴
⑤菅田 ⑤前田
⑥伊藤 ⑥西館
⑦岸川 ⑦鳥飼
⑧佐藤 ⑧山崎
⑨鍾水 H B ⑨古田(泰)
⑩古城 ⑩藤井
⑪江口 T B ⑪上萬
⑫高橋 ⑫鶴田
⑬柴尾 ⑬古田(翔)
⑭村田 ⑭久保
⑮重松 F B ⑮中井
交代 川崎 ⑦
西田 ⑤ 村上 ⑩
原田 ⑨

決勝 平成25年2月9日(土) 春日公園球技場

R: 石井(九州) 東福岡 62 (33 二 12) 12 修猷館

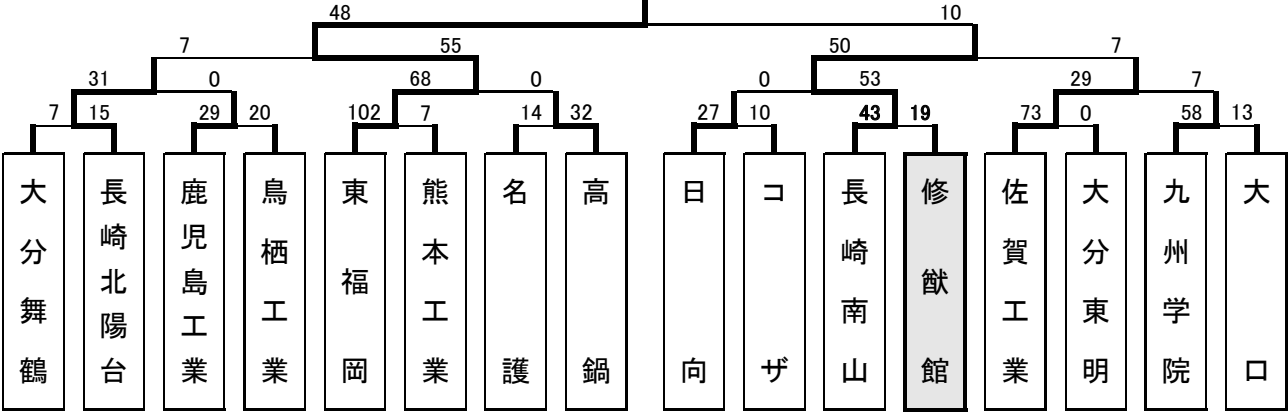
DG	PG	G	T	T	G	PG	DG
0	0	4	5	2	1	0	0
0	1	3	4	0	0	0	0

- 10 反則 7
- ①中野 ①今井
②金子 ②菊池
③石橋 ③喜多
④廣野 FW ④横山
⑤安武 ⑤菅田
⑥古川 ⑥伊藤
⑦占部 ⑦岸川
⑧武末 ⑧佐藤
⑨中島 H B ⑨鍾水
⑩松尾 ⑩古城
⑪岩佐 T B ⑪江口
⑫東川 ⑫高橋
⑬鹿尾 ⑬柴尾
⑭平尾 ⑭村田
⑮市橋 F B ⑮重松
吉中 ④ 西田 ⑤
蔵座 ⑫
永富 ⑬
平野 ②
竹内 ①
古賀 ⑥
山田(公) ⑨



第35回木元杯 全九州高等学校新人ラグビーフットボール大会 ＜沖縄県総合運動公園グラウンド＞

優勝：東 福 岡 高等学校 準優勝：長 崎 南 山 高等学校



第1回戦 平成25年2月23日(土) 沖縄県総合運動公園

R: 田崎(九州) 長崎南山 43 (22) 14 19 修猷館

DG	PG	G	T	T	G	PG	DG
0	0	1	4	2	2	0	0
0	0	3	3	1	0	0	0

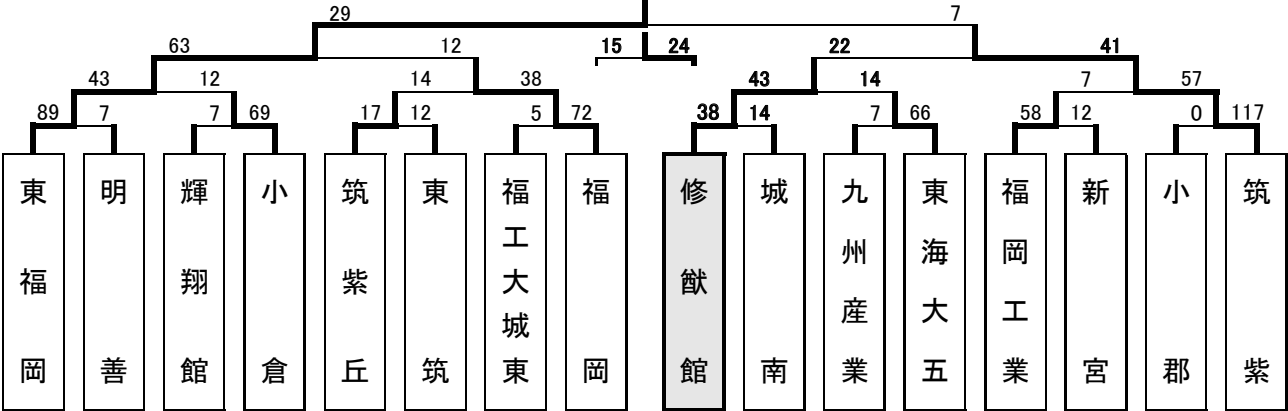
13 反則 9

① 桃山	FW	① 今井
② 大熊		② 菊池
③ 平井		③ 喜多
④ 柿田		④ 横山
⑤ 加藤		⑤ 菅田
⑥ 山口	HB	⑥ 伊藤
⑦ 二宮		⑦ 岸川
⑧ 岩永		⑧ 佐藤
⑨ 深田		⑨ 鍾水
⑩ 浦川		⑩ 古城
⑪ 今村	TB	⑪ 江口
⑫ 木元		⑫ 高橋
⑬ 伊東		⑬ 柴尾
⑭ 前田		⑭ 村田
⑮ 野口		⑮ 重松
鈴木	FB	⑭ 西田
大久保		⑮



第66回 全九州高校大会 福岡県予選

優勝：東 福 岡 高等学校 準優勝：筑 紫 高等学校 3位：修 猷 館 高等学校



第 4 回戦 平成25年5月12日 (日)

R: 日中(九州) 春日公園球技場

城南	14	14	—	26	38	修猷館
DG	PG	G	T	T	G	PG
0	0	2	2	4	3	0
0	0	0	0	2	1	0

5 反則 7

① 久保田	① 今井
② 西島	② 菊池
③ 堀	③ 喜多
④ 小野	④ 横山
⑤ 上杉	⑤ 佐藤
⑥ 甲斐	⑥ 菅田
⑦ 中野	⑦ 岸川
⑧ 渡辺	⑧ 鍾水
⑨ 穴井	⑨ 原田
⑩ 坂口	⑩ 古城
⑪ 重水	⑪ 南
⑫ 若松	⑫ 高橋
⑬ 中村	⑬ 柴尾
⑭ 松田	⑭ 村田
⑮ 櫻井	⑮ 重松
北島 ④	永嶋 ⑤
	野崎 ⑥
	江口 ⑪

FW HB TB FB 交代

準々決勝

平成25年5月19日(日)

R: 家近(九州)

春日公園球技場

東海大五 14

7

10

43

修猷館

DG	PG	G	T		T	G	PG	DG
0	0	1	1		1	1	1	0
0	0	1	1		5	4	0	0

9

反則

8

① 熊谷		① 今井
② 坂狩		② 菊池
③ 古瀬		③ 喜多
④ 谷山	FW	④ 横山
⑤ 黒木		⑤ 野崎
⑥ 小園		⑥ 永嶋
⑦ 石田		⑦ 岸川
⑧ 藤井		⑧ 藤
⑨ 朝倉	HB	⑨ 鍾水
⑩ 石井		⑩ 古城
⑪ 弓部		⑪ 江口
⑫ 永島	TB	⑫ 高橋
⑬ 小松原		⑬ 柴尾
⑭ 山田		⑭ 村田
⑮ 黒木	FB	⑮ 重松
馬場	⑦	西田
吉浦	⑭	原田
		南

交代

⑤

⑥

⑬



準決勝

平成25年5月26日(日)

R: 前田(九州)

グローバルアリーナ

筑紫

41

10

31

5

22

修猷館

DG

PG

G

T

T

G

PG

DG

0

0

0

2

1

0

0

0

0

0

3

5

3

1

0

0

0

0

10

反則

3

①

倉掛

①

今井

②

小原

②

菊池

③

猿渡

③

喜多

④

田端

FW

④

横山

⑤

前田

⑤

菅田

⑥

西館

⑥

伊藤

⑦

鳥飼

⑦

岸川

⑧

山崎

⑧

佐藤

⑨

古田

HB

⑨

鍾水

⑩

藤井

⑩

古城

⑪

内田

⑪

江口

⑫

鶴田

TB

⑫

高橋

⑬

久保

⑬

柴尾

⑭

上萬

⑭

村田

⑮

中井

FB

⑮

重松

古田(翔)

⑬

交代

野崎

⑤

村上

⑪

代

岩永

⑮

3位決定戦

R: 日中(九州)

平成25年6月2日(日)

平和台陸上競技場

福岡

15

8

7

24

修猷館

DG	PG	G	T	T	G	PG	DG
0	1	0	1	1	1	1	0
0	0	1	1	2	2	0	0

7

反則

11

① 小田部

② 諫山

③ 大穂

④ 石井

⑤ 川津

⑥ 渡辺

⑦ 神谷

⑧ 平田

⑨ 樺島

⑩ 井上

⑪ 北崎

⑫ 高橋

⑬ 大原

⑭ 上村

⑮ 高屋

谷川

FW

HB

TB

FB

① 今井

② 菊池

③ 喜多

④ 横山

⑤ 菅田

⑥ 伊藤

⑦ 岸川

⑧ 佐藤

⑨ 鍾水

⑩ 古城

⑪ 江口

⑫ 高橋

⑬ 柴尾

⑭ 村田

⑮ 重松

南

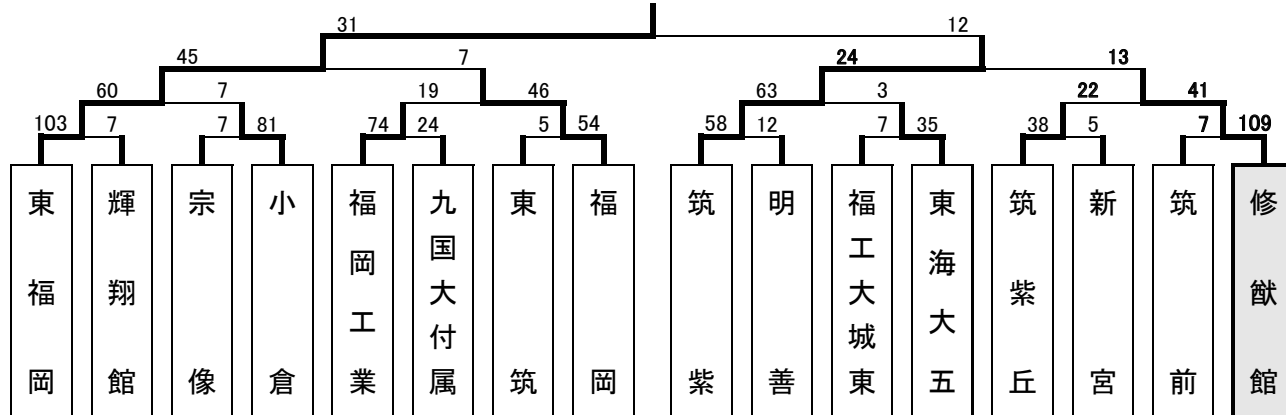
交代

⑭



第93回 全国高校大会 福岡県予選

優勝：東福岡高等学校 準優勝：筑紫高等学校



第4回戦 平成25年10月20日(日)

R: 平本(九州) 筑紫G

修猷館	109	(⁴⁷ ₆₂ — ⁰ ₇)	7	筑前			
DG	PG	G	T	T	G	PG	DG
0	0	6	7	0	0	0	0
0	0	6	10	1	1	0	0

- | | | |
|------|----|------|
| ① 今井 | 反則 | ① 富永 |
| ② 弥吉 | | ② 伊藤 |
| ③ 柴尾 | | ③ 川崎 |
| ④ 横山 | FW | ④ 中原 |
| ⑤ 菅田 | | ⑤ 田中 |
| ⑥ 永嶋 | | ⑥ 園田 |
| ⑦ 伊藤 | | ⑦ 横田 |
| ⑧ 安立 | | ⑧ 高野 |
| ⑨ 鍵水 | HB | ⑨ 友納 |
| ⑩ 古城 | | ⑩ 中富 |
| ⑪ 江口 | TB | ⑪ 土生 |
| ⑫ 原田 | | ⑫ 吉原 |
| ⑬ 高橋 | | ⑬ 溝口 |
| ⑭ 村田 | | ⑭ 野崎 |
| ⑮ 重松 | FB | ⑮ 大賀 |
| 菊地 ② | 交代 | 重岡 ⑫ |
| 今田 ⑤ | | 秋吉 ③ |
| 岸川 ⑥ | | |
| 南 ⑭ | | |
| 大村 ④ | | |
| 平井 ⑫ | | |

準々決勝 平成25年10月27日(日)

R: 服崎(九州) 筑紫G

修猷館	41	$\begin{pmatrix} 29 \\ 12 \end{pmatrix}$	$\begin{pmatrix} 17 \\ 5 \end{pmatrix}$	22	筑紫丘		
DG	PG	G	T	T	G	PG	DG
0	0	2	5	3	1	0	0
0	0	1	2	1	0	0	0

- | | | |
|------|----|-------|
| ① 今井 | 反則 | ① 守屋 |
| ② 菊池 | | ② 岩尾 |
| ③ 柴尾 | | ③ 平川 |
| ④ 横山 | FW | ④ 猪股 |
| ⑤ 菅田 | | ⑤ 木原 |
| ⑥ 永嶋 | | ⑥ 奥田 |
| ⑦ 伊藤 | | ⑦ 大西 |
| ⑧ 安立 | | ⑧ 石松 |
| ⑨ 江口 | HB | ⑨ 天野 |
| ⑩ 古城 | | ⑩ 諸岡 |
| ⑪ 南 | | ⑪ 上萬 |
| ⑫ 原田 | TB | ⑫ 深松 |
| ⑬ 高橋 | | ⑬ フリン |
| ⑭ 村田 | | ⑭ 松尾 |
| ⑮ 重松 | FB | ⑮ 本武 |
| 鍵水 ⑪ | 交代 | 志自岐 ⑦ |
| 岸川 ⑤ | | |

準決勝 平成25年11月3日(日)

R: 前田(日本) 春日公園球技場

修猷館	13	$\begin{pmatrix} 13 \\ 0 \end{pmatrix}$	$\begin{pmatrix} 5 \\ 19 \end{pmatrix}$	24	筑紫		
DG	PG	G	T	T	G	PG	DG
0	2	1	1	1	0	0	0
0	0	0	0	3	2	0	0

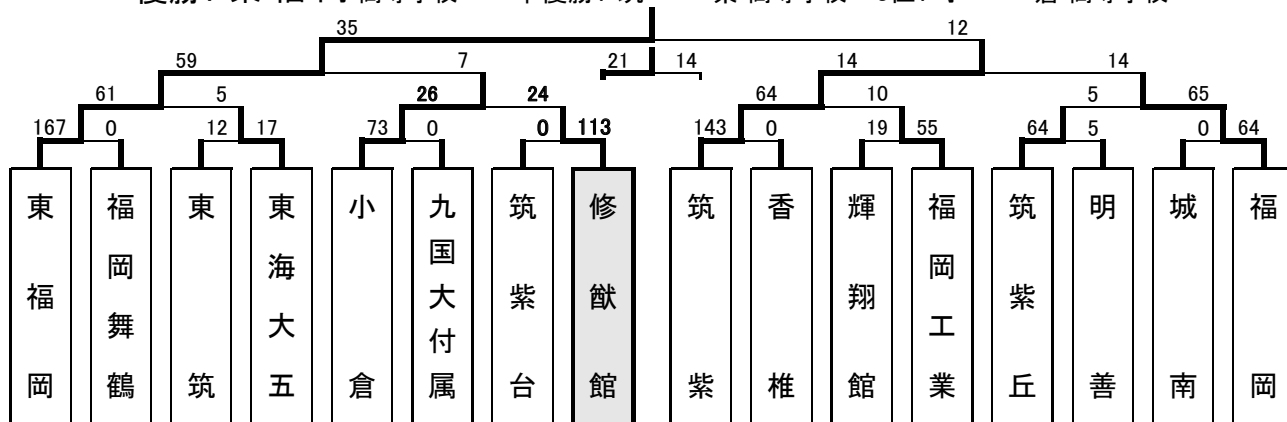
- | | | |
|------|----|---------|
| ① 今井 | 反則 | ① 倉掛 |
| ② 菊池 | | ② 小原 |
| ③ 柴尾 | | ③ 猿渡 |
| ④ 横山 | FW | ④ 田菴 |
| ⑤ 安立 | | ⑤ 前田 |
| ⑥ 永嶋 | | ⑥ 西館 |
| ⑦ 岸川 | | ⑦ 鳥飼 |
| ⑧ 伊藤 | | ⑧ 山崎 |
| ⑨ 鍵水 | HB | ⑨ 古田(泰) |
| ⑩ 古城 | | ⑩ 鶴田 |
| ⑪ 江口 | TB | ⑪ 今崎 |
| ⑫ 原田 | | ⑫ 古田(翔) |
| ⑬ 高橋 | | ⑬ 久保 |
| ⑭ 村田 | | ⑭ 上萬 |
| ⑮ 重松 | FB | ⑮ 中井 |
| 菅田 ⑦ | 交代 | 吉村 ③ |



平成26年

第36回 全九州高校新人大会 福岡県予選

優勝：東福岡高等学校 準優勝：筑紫高等学校 3位：小倉高等学校



第4回戦 平成26年1月12日(日) 東福岡G

R: 藤内() 筑紫台 0 0 54 113 修猷館

DG	PG	G	T	T	G	PG	DG
0	0	0	0	8	7	0	0
0	0	0	0	9	7	0	0

- ① 高尾 ② 轟 ③ 清水 ④ 岡野 ⑤ 園 ⑥ 小田 ⑦ 川鍋 ⑧ 吉永 ⑨ 村上 ⑩ 村田 ⑪ 有川 ⑫ 世利 ⑬ 築地 ⑭ 牛島 ⑮ 戸澤 ⑯ 梅田 ⑰ 交代
- FW ① 今井 ② 菊池 ③ 柴尾 ④ 横山 ⑤ 大村 ⑥ 永嶋 ⑦ 岸川 ⑧ 安立 ⑨ 原田 ⑩ 重松 ⑪ 江口 ⑫ 古城 ⑬ 平井 ⑭ 南 ⑮ 村田 ⑯ 西田 ⑰ 一山 ⑱ 佐藤 ⑲ 秋武 ⑳ 河野 ㉑ 新開 ㉒ 弥吉 ㉓ 喜多

準々決勝 平成26年1月19日(日) 東福岡G

R: 日中(九州) 小倉 26 0 19 24 修猷館

DG	PG	G	T	T	G	PG	DG
0	0	0	0	3	2	0	0
0	0	3	4	1	0	0	0

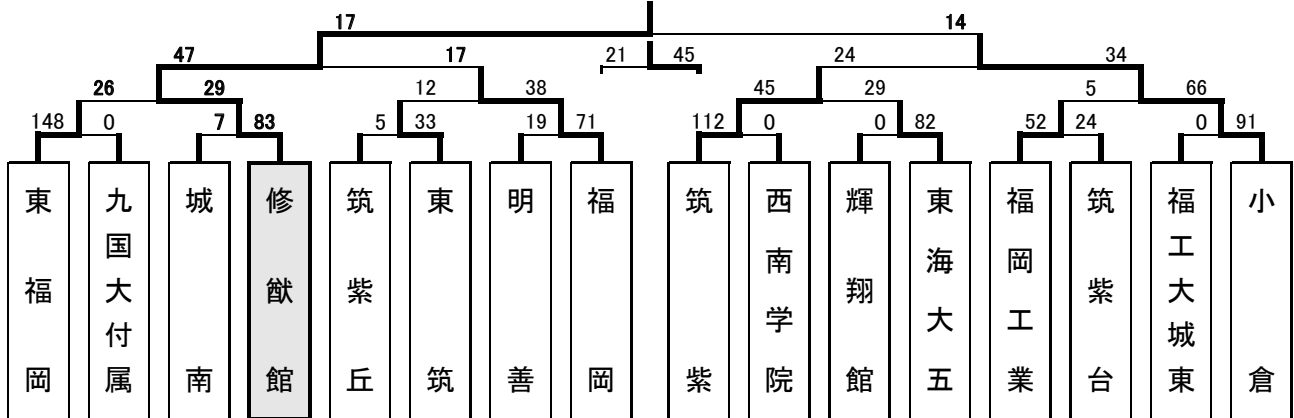
- ① 金尾 ② 竹村 ③ 多武 ④ 東 ⑤ 吉富 ⑥ 久富 ⑦ 中島 ⑧ 秦 ⑨ 江寄 ⑩ 井上 ⑪ 吉村 ⑫ 清田 ⑬ 大和 ⑭ 村田 ⑮ 松浦 ⑯ 交代
- FW ① 今井 ② 菊池 ③ 柴尾 ④ 横山 ⑤ 大村 ⑥ 永嶋 ⑦ 岸川 ⑧ 安立 ⑨ 原田 ⑩ 重松 ⑪ 江口 ⑫ 古城 ⑬ 平井 ⑭ 南 ⑮ 村田 ⑯ 佐藤 ⑰ 一山



第67回 全九州高校大会

福岡県予選

優勝：修猷館 高等学校 準優勝：小倉 高等学校 3位：筑紫 高等学校



第4回戦 平成26年5月18日(日) 東福岡G

R: 国吉(九州) 城南 7 0 38 83 修猷館

DG	PG	G	T	T	G	PG	DG
0	0	0	0	6	4	0	0
0	0	1	1	7	5	0	0

- | | | | |
|------|----|------|--|
| ① 小野 | FW | ① 柴尾 | |
| ② 棕野 | | ② 宮崎 | |
| ③ 堀森 | | ③ 今井 | |
| ④ 森 | | ④ 山 | |
| ⑤ 上杉 | | ⑤ 安立 | |
| ⑥ 中野 | | ⑥ 永嶋 | |
| ⑦ 甲斐 | | ⑦ 岸川 | |
| ⑧ 北島 | | ⑧ 大村 | |
| ⑨ 植木 | HB | ⑨ 原田 | |
| ⑩ 坂口 | | ⑩ 古城 | |
| ⑪ 仲野 | TB | ⑪ 佐藤 | |
| ⑫ 中島 | | ⑫ 平井 | |
| ⑬ 篠原 | | ⑬ 村田 | |
| ⑭ 金堂 | | ⑭ 南 | |
| ⑮ 柴尾 | FB | ⑮ 重松 | |
| 副枝 ⑬ | 交代 | 西田 ⑧ | |
| 日高 ⑧ | | 喜多 ④ | |
| 竹本 ⑫ | | 弥吉 ② | |
| | | 新開 ③ | |
| | | 山木 ⑦ | |
| | | 上田 ⑪ | |

準々決勝 平成26年5月25日(日) 東福岡G

R: 前田(日本) 東福岡 26 19 29 修猷館

DG	PG	G	T	T	G	PG	DG
0	0	2	3	3	2	0	0
0	0	1	1	2	0	0	0

- | | | | |
|---------|----|------|--|
| ① 土山 | FW | ① 柴尾 | |
| ② 藤田(健) | | ② 菊池 | |
| ③ 井上 | | ③ 今井 | |
| ④ 藤田(達) | | ④ 横山 | |
| ⑤ 鎌田 | | ⑤ 山 | |
| ⑥ 松尾 | | ⑥ 永嶋 | |
| ⑦ 大塚 | | ⑦ 岸川 | |
| ⑧ 大村 | | ⑧ 大村 | |
| ⑨ 住吉 | HB | ⑨ 原田 | |
| ⑩ 石原 | | ⑩ 古城 | |
| ⑪ 森 | TB | ⑪ 江口 | |
| ⑫ 穴井 | | ⑫ 平井 | |
| ⑬ 今村 | | ⑬ 村田 | |
| ⑭ 安藤 | | ⑭ 南 | |
| ⑮ 高野 | FB | ⑮ 重松 | |
| 竹内 ② | 交代 | | |
| 松本 ③ | | | |
| 山田 ⑧ | | | |
| 永富 ⑬ | | | |
| 高野 ⑪ | | | |
| 平川 ⑤ | | | |
| 金子 ① | | | |



準決勝

平成26年5月31日(土)

R: 藤崎(九州)

春日公園球技場

修猷館

47

26

7

14

福岡

DG

PG

G

T

T

G

PG

DG

0

0

3

4

1

1

0

0

0

0

3

3

1

1

0

0

8

反則

6

①

柴尾

①

中村

②

菊池

②

川上

③

今井

③

三谷

④

横山

④

柴田

⑤

一山

⑤

山根

⑥

永嶋

⑥

神谷

⑦

岸川

⑦

中島

⑧

安立

⑧

土谷

⑨

原田

⑨

樺島

⑩

古城

⑩

井上

⑪

江口

⑪

秋吉

⑫

平井

⑫

高橋

⑬

村田

⑬

大原

⑭

南

⑭

佐藤

⑮

重松

⑮

平

西田

⑦

交代

新山

⑪

佐藤

⑭

糸山

⑧

決勝

平成26年6月8日(日)

R: 前田(日本)

春日公園球技場

修猷館

17

(12)

7

14

小倉

DG	PG	G	T	T	G	PG	DG
0	0	1	2	1	1	0	0
0	0	0	1	1	1	0	0

4

反則

12

①柴尾

②菊池

③今井

④横山

⑤一山

⑥永嶋

⑦岸川

⑧西田

⑨原田

⑩古城

⑪江口

⑫平井

⑬村田

⑭南

⑮重松

FW

HB

TB

FB

交代

①金尾

②竹村

③多武島

④中吉富

⑤中富

⑥大和

⑦久富

⑧秦

⑨江寄

⑩井上

⑪吉村

⑫清田

⑬濱田

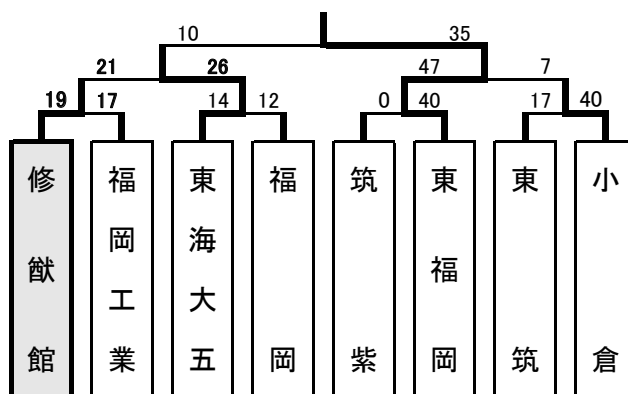
⑭村松

⑮浦東

④

第1回 全国高等学校7人制ラグビーフットボール大会 福岡県予選大会(春日公園球技場)

優勝: 東 福 岡 高等学校
準優勝: 東 海 大 五 高等学校



第1回戦 平成26年6月14日(土)

R: 桑野 春日公園球技場

修猷館	19	(12)	7	12	福岡工業		
DG	PG	G	T	T	G	PG	DG
0	0	1	2	2	1	0	0
0	0	1	1	1	0	0	0

3 反則 2

① 柴尾

② 永嶋

③ 今井

④ 原田

⑤ 村田

⑥ 重松

⑦ 南

FW

BK

① 庄司

② 島内

③ 三宅

④ 中本

⑤ 佐々倉

⑥ 大賀

⑦ 藤原

菊池

鬼木

交代

交代

① 末継

② 山内

平成26年6月14日(土)
 R: 家近(日本) 春日公園球技場

修猷館	21	(14)	7	14	東海大五		
DG	PG	G	T	T	G	PG	DG
0	0	2	2	2	2	0	0
0	0	1	1	2	1	0	0

1 反則 1

① 重松
 ② 永嶋
 ③ 今井
 ④ 古城
 ⑤ 村田
 ⑥ 原田
 ⑦ 南

FW
 BK

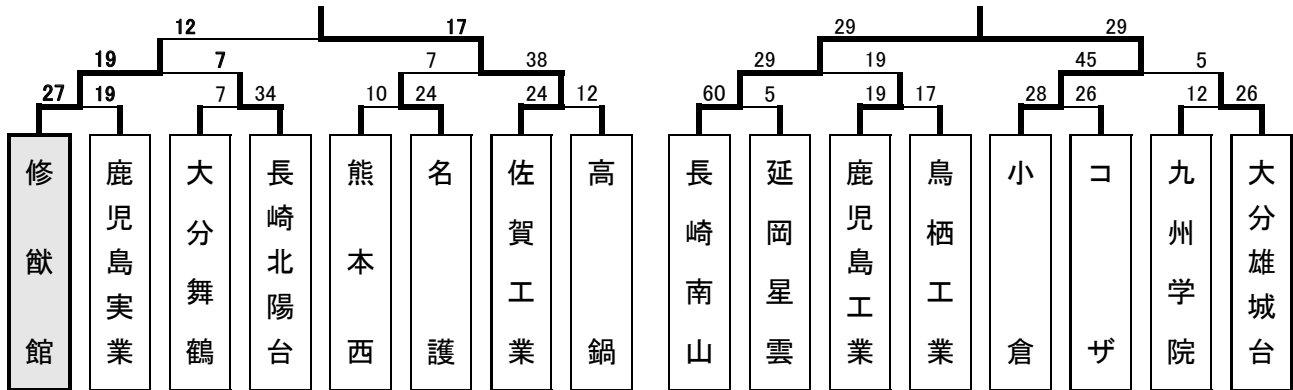
① 小園
 ② 山田
 ③ 上村
 ④ 朝倉
 ⑤ 石井
 ⑥ 永島
 ⑦ 平井

交代

第67回 全九州高等学校ラグビーフットボール大会 (佐賀県総合運動場球技場)

1位ブロック 優勝: 佐賀工業 高等学校
準優勝: 修 猷 館 高等学校

2位ブロック両校優勝: 小 倉 ・ 長 崎 南 山 高等学校



第1回戦 平成26年6月21日(土)
R: 羽白(九州) 佐賀県総合球技場

修猷館 27 (10 - 7) 19 鹿児島実業

DG	PG	G	T	T	G	PG	DG
0	1	1	1	1	1	0	0
0	0	1	3	2	1	0	0

9 反則 7

① 柴尾	① 梶	① 尾池	② 立岩
② 菊井	② 立岩	② 今井	③ 笹原
③ 横山	③ 橋口	④ 横山	④ 橋口
④ 横山	⑤ 橋元	⑤ 一山	⑤ 橋元
⑤ 永嶋	⑥ 岡留	⑥ 岸川	⑥ 岡留
⑦ 大村	⑦ 丸山	⑦ 大村	⑦ 丸山
⑧ 原田	⑧ 田村	⑧ 原田	⑧ 田村
⑨ 古城	⑨ 岩下	⑨ 古城	⑨ 岩下
⑩ 江口	⑩ 遠矢	⑩ 江口	⑩ 遠矢
⑪ 平井	⑪ 桑山(淳)	⑪ 平井	⑪ 桑山(淳)
⑫ 村田	⑫ 平良	⑫ 村田	⑫ 平良
⑬ 南	⑬ 加治屋	⑬ 南	⑬ 加治屋
⑭ 重松	⑭ 桑山(聖)	⑭ 重松	⑭ 桑山(聖)
⑮ 西田	⑮ 中原	⑮ 西田	⑮ 中原
⑯ 安立	⑯ 交代	⑯ 安立	⑯ 交代

準決勝 平成26年6月22日(日)
R: 辻原(九州) 佐賀県総合球技場

修猷館 19 (7 - 7) 7 長崎北陽台

DG	PG	G	T	T	G	PG	DG
0	0	1	1	1	1	0	0
0	0	1	2	0	0	0	0

8 反則 3

① 柴尾	① 田中	① 尾池	② 平川
② 菊井	② 寺崎	② 今井	③ 寺崎
③ 横山	③ 長谷川	④ 横山	④ 長谷川
④ 横山	⑤ 山道	⑤ 一山	⑤ 山道
⑤ 永嶋	⑥ 松園	⑥ 岸川	⑥ 松園
⑦ 大村	⑦ 根長	⑦ 大村	⑦ 根長
⑧ 原田	⑧ 朝末	⑧ 原田	⑧ 朝末
⑨ 古城	⑨ 岡崎	⑨ 古城	⑨ 岡崎
⑩ 江口	⑩ 馬場	⑩ 江口	⑩ 馬場
⑪ 平井	⑪ 坪田	⑪ 平井	⑪ 坪田
⑫ 村田	⑫ 宮崎	⑫ 村田	⑫ 宮崎
⑬ 南	⑬ 山口	⑬ 南	⑬ 山口
⑭ 重松	⑭ 松尾(風)	⑭ 重松	⑭ 松尾(風)
⑮ 糸山	⑮ 松尾(拓)	⑮ 糸山	⑮ 松尾(拓)
	⑮ 吉田		⑮ 吉田
	⑮ 江口		⑮ 江口

決勝 平成26年6月24日(火)
R: 家近(日本) 佐賀県総合球技場

修猷館 12 (5 - 10) 17 佐賀工業

DG	PG	G	T	T	G	PG	DG
0	0	0	1	1	1	1	0
0	0	1	1	1	1	0	0

14 反則 5

① 柴尾	① 鴨川	① 尾池	② 大塚
② 菊井	② 古川	② 今井	③ 古川
③ 横山	③ 丸添	④ 横山	④ 丸添
④ 横山	⑤ 古川	⑤ 一山	⑤ 古川
⑤ 永嶋	⑥ 古川	⑥ 岸川	⑥ 古川
⑦ 大村	⑦ 石松	⑦ 大村	⑦ 石松
⑧ 原田	⑧ 田野	⑧ 原田	⑧ 田野
⑨ 古城	⑨ 常安	⑨ 古城	⑨ 常安
⑩ 江口	⑩ 龍崎	⑩ 江口	⑩ 龍崎
⑪ 平井	⑪ 上崎	⑪ 平井	⑪ 上崎
⑫ 村田	⑫ 益崎	⑫ 村田	⑫ 益崎
⑬ 南	⑬ 宮上	⑬ 南	⑬ 宮上
⑭ 重松	⑭ 北村	⑭ 重松	⑭ 北村
⑮ 安立	⑮ 黒尾	⑮ 安立	⑮ 黒尾
	⑮ 鎌倉		⑮ 鎌倉

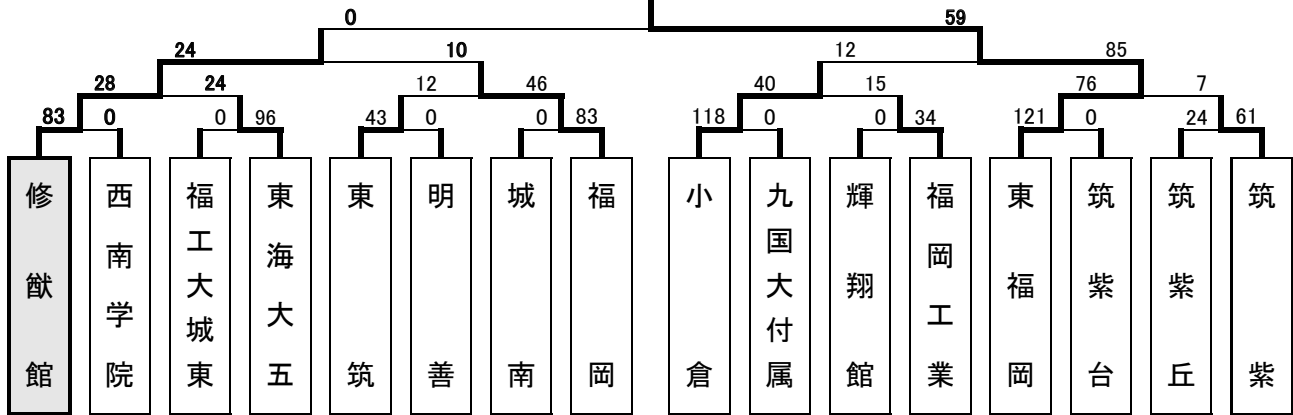


第94回 全国高校大会

福岡県予選

優勝：東福岡 高等学校

準優勝：修猷館 高等学校



第4回戦 平成26年11月2日(日)

R: 桑野 筑紫G 西南学院

DG	PG	G	T	T	G	PG	DG
0	0	3	5	0	0	0	0
0	0	6	8	0	0	0	0

- 10 反則 4
- ①柴尾 ①大嶺
②弥吉 ②井上
③喜多 ③中村
④喜山 ④生野
⑤西田 ⑤武井
⑥永嶋 ⑥岩永
⑦岸川 ⑦香月
⑧大村 ⑧岩下
⑨原田 ⑨是村
⑩古城 ⑩時政
⑪江口 ⑪原久
⑫平井 ⑫西保
⑬南井 ⑬依若
⑭村田 ⑭永島
⑮竹若 ⑮中島
佐藤 ⑮中村
下川 ⑮
新開 ⑮
山木 ⑮
上田 ⑮

準々決勝 平成26年11月9日(日)

R: 藤崎 春日公園球技場

DG	PG	G	T	T	G	PG	DG
0	0	2	2	2	1	0	0
0	0	2	2	2	1	0	0

- 14 反則 9
- ①柴尾 ①熊谷
②菊池 ②坂狩
③今井 ③瀬山
④横山 ④谷小
⑤大村 ⑤杉園
⑥永嶋 ⑥小上
⑦岸川 ⑦村上
⑧下川 ⑧藤井
⑨原田 ⑨朝倉
⑩古城 ⑩石井
⑪安立 ⑪山田
⑫平井 ⑫永島
⑬村田 ⑬小松
⑭南重 ⑭黒木
⑮重松 ⑮平井
交代 ⑮馬場

準決勝 平成26年11月16日(日)

R: 前田(日本) 春日公園球技場

DG	PG	G	T	T	G	PG	DG
0	0	0	1	0	0	1	0
0	0	2	3	1	1	0	0

- 8 反則 10
- ①柴尾 ①中村
②菊池 ②川上
③今井 ③三谷
④横山 ④柴田
⑤大村 ⑤山根
⑥永嶋 ⑥原大
⑦岸川 ⑦中島
⑧下川 ⑧土谷
⑨原田 ⑨樺島
⑩古城 ⑩井上
⑪江口 ⑪新山
⑫平井 ⑫橋越
⑬村田 ⑬高藤
⑭南重 ⑭佐藤
⑮重松 ⑮北崎
交代 ⑮平

決勝 平成26年11月22日(土)

R: 前田(日本) 春日公園球技場

DG	PG	G	T	T	G	PG	DG
0	0	0	0	3	2	1	0
0	0	0	0	5	5	0	0

- 6 反則 8
- ①柴尾 ①金子
②菊池 ②竹内
③今井 ③松本
④横山 ④今村
⑤大村 ⑤ウーカ
⑥永嶋 ⑥古川
⑦岸川 ⑦崔田
⑧下川 ⑧山賀
⑨原田 ⑨賀尾
⑩古城 ⑩松佐
⑪江口 ⑪岩富
⑫平井 ⑫永原
⑬村田 ⑬萩野
⑭南重 ⑭高野
⑮重松 ⑮高野
西田 ⑮服部
佐藤 ⑮武未
交代 ⑮山縣
⑮藤田
⑮松田
⑮安藤
⑮鎌田
⑮小林

8

90周年記念行事実行委員会報告

ご挨拶



90周年記念事業 実行委員長

堀内 恭彦

(昭和59年卒)

このたびは、修猷館ラグビー部創部90周年、誠におめでとうございます。

はからずも実行委員長の大役を仰せつかりましたが、私自身も、修猷館ラグビー部から受けたご恩をお返ししたいとの思いから、誠心誠意務めさせていただきました。

テーマとして、「100周年に向けて、つながる、ひろがる修猷館ラグビーファミリー」を掲げて取り組んでまいりました。おかげさまで、OB会・関係各位の絶大なるご支援、ご協力を賜り、盛大に90周年記念事業を迎えることができました。この場をお借りしまして、皆様方に厚く御礼申し上げます。

昨年の現役生の活躍は言うまでもなく、近時の我がラグビー部の活躍ぶりは目覚ましいものがあります。この勢いで、今年こそ、全国大会（花園）への切符をつかんでもらいたいと念願しております。そのためには、我々OB会のタテ、ヨコの繋がりをさらに強固なものとし、現役の支援体制を充実させ、日本一のOB会を目指さなくてはなりません。90周年はあくまでも通過点であり、100周年、そして、未来に向かって、我がラグビー部が益々発展しますことを心より祈念いたしております。

関係各位の皆様におかれましては、今後とも、修猷館ラグビー部

に対しまして、一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。



打倒福中・福高に向け修猷ファミリーのOB練習も熱を帯びる

修猷館高校ラグビー部 創部90周年記念「特別会費」のお願い

趣 意 書

謹啓 時下、益々ご清祥のことと心よりお慶び申し上げます。

さて、福岡県立修猷館高校ラグビー部は、平成27年春、創部90周年を迎えます。

大正14年の創立以来、国体優勝や全国大会出場を果たすなど、長年にわたり幾多の優秀なラグーマンを輩出してきました。全国的には、秋田工高、天理高などと並ぶ屈指の伝統校であり、九州・福岡においても、永遠のライバル福岡高との数々の激闘をはじめ、多くの名勝負を演じてきました。

昭和24年の国体で全国制覇し、昭和30年の第34回全国大会1回戦では、準優勝した秋田工高を相手に6対8と大接戦を演じました。小柄な修猷館ラグーマンの鋭いタックルと卓越したスキルを観た故大西鉄之祐氏（元全日本監督）は、「これが高校チームか!」と驚嘆したといひます。

その後も、洗練されたチームプレーとラグビースピリットは連綿と受け継がれ、特に近年は、常に福岡県の上位校、シード校に名を連ねるなど、その充実ぶりはめざましく、平成20年春には全国選抜大会にも初出場を果たしました。

そして、本年6月の全九州高校大会福岡県予選において、強豪・東福岡高を撃破し、決勝戦で小倉高との接戦を制して、優勝を果たしました。決勝戦の春日球技場には、OB含め2千名を超える観客が詰めかけ、大声援を送りました。応援に駆けつけた修猷館OBの小川洋福岡県知事は、表彰式で「57年ぶりの優勝、おめでとう!」と母校の活躍にはほほを緩め「勇気と感動を与えてもらいました。」と称えました。東福岡高を破って福岡県を制したことは全国的にも大きなニュースとなって駆け巡り、全国の公立高校ラグビー部に、強烈なインパクトと勇気を与えました。続く九州大会でも、準優勝という成績を収め、「修猷館ラグビー部」の名を、さらに、大きく、全国に轟かせました。

現在、部員数は45名（内女子1名）、女子マネジャー5名。長年にわたってチームを強化し基盤を築いてこられた岡本圭吾先生（昭和56年卒）の後を受け、渡邊康宏先生（昭和57年卒）、真鍋健治先生（平成8年卒）が、厳しくも愛情溢れる指導で生徒たちを鍛え上げています。来春の創部90周年を控え、悲願の「花園出場」をはっきりと視界にとらえ、部員一同さらに一丸となって燃えており、数多のOB、保護者も、若きラグーマンに大いなる期待を抱き、心からの応援をしています。

つきましては、この時期にあたり、甚だ勝手ではございますが、90周年記念の「特別会費」をお願いすることとなりました。目標金額は500万円。全国の修猷館ラグビー部OB、卒業生、企業・団体を対象に募り、現役生徒の費用補助、トレーニング機器購入、90周年記念行事などの原資に充てたいと存じます。

1口1万円で、個人は1口以上、企業・団体は3口以上、をお願いしたいと存じます。現下の経済情勢のもとでこのようなお願いをすることは甚だ恐縮ではございますが、これからの日本を背負う修猷館ラグーマンのひたむきな精進を応援していただきたく、是非とも、ご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

謹 白

平成26年 秋

修猷館ラグビー部OBクラブ

名誉会長 柴 田 忠 敏

会 長 安 部 直 幸

90周年記念事業 実行委員会

委 員 長 堀 内 恭 彦

委員長(東京) 原 大 基

（追記） 90周年記念試合（対福岡高校）及び式典は、平成27年4月29日（水・祝）に行われます。試合会場はさわやかスポーツ広場、式典会場は西鉄グランドホテルに決定いたしました。なお、90周年寄付金を納入いただいた方には、90周年特製記念品を贈呈いたします。

編集後記

修猷館ラグビー部には、二つの日本一がある。一つは言わずと知れた1949（昭和24）年の東京国体優勝。今の都道府県単位の選抜チーム同士の対戦と違い、秋田工や村野工（兵庫）など強豪単独校を連破して、初優勝に輝いた。

もう一つが「修猷館ラグビー七十年史」だ。守田基定（昭和14年卒）編集委員長が中心となって完成させた740ページに及ぶ部史は、旧制中学・高校ラグビー部の歴史を綴った本としては、質量とも間違いなく日本一だろう。

守田委員長の部史にかける思いはすさまじかった。試合の記録に納得がいけないと、古新聞のマイクロフィルムに手がかりがあるはず、と福岡県立図書館に通算16回通ったという。編集作業終盤、一緒に大濠公園近くの岩井ホテルに泊まり込み、ゲラのチェックなどをしたが、夜明けになっても、眼光の鋭さは変わらなかった。「七十年史」の元となった「四十年史」の編纂では、仕事の合間をぬい、館長室にこもって、そこに保管されている雑誌「修猷」のバックナンバーからラグビー部関連の記述を書き写した。コピー機がない時代の逸話だ。

「七十年史」の守田委員長の編集後記にこんな下りがある。「修猷ラグビー山脈には、ラグビー有名校の様に、北アルプス連峰の如く、峨々たる山並みばかりではなく、富士の様な霊峰もあれば、どこにでもある名も定かでない様な山々もある。この様に高低はあっても、四季折々変化に富み、それぞれ特徴のある景観の一端でも表現できていれば……」。

そういえば、素晴らしい戦績を残して今春、我々の仲間入りした平成27年卒組にも、こんな物語があった。

「お前、修猷に入るなら、ラグビーば、しやい」

中学時代、帰宅部だった少年は、おじさんに勧められるまま、ルールもわからず入部した。球技の才能があったわけではない。楯円球をうまく捕れない。人一倍練習したが、球扱いのセンスは向上しなかった。経験者が多く、下級生からレギュラーを張る仲間から大きく離された。それでも、諦めなかった。何周遅れても、ゴールを全力で切った。何でもコツコツ、やりとげた。不器用だけど、目の前の密集では必ず身体を張ってくれる。3年になると、周りから信頼を得た。昨秋の全国大会福岡県予選。リザーブ入りした初戦の後半、突然、出番がやってきた。味方のエースが相手ゴール前へ迫る。必死で追いかけた。不意に、ラストパスが手元へ。無我夢中で飛び込んだ。少し甲高い笛の音。ベンチの方を振り向くと、仲間たちの飛び切りの笑顔とこの試合一番の拍手が沸いた。83―0。計13トライの一つに過ぎなかったが、本人だけが確信できた。おじさんの言葉にうそはなかった、と。

様々な方にご協力を頂いた90年の記念誌は、「80年史」同様、限られた時間と人数の中で若手や指導陣を中心に原稿をお願いし、簡潔な作りになった。

これには、力を溜め、100周年へのホップ、ステップ的な意味合いが含まれている。4年後にはラグビーのワールドカップが福岡でも開かれることが決まった。2025年。日本一の七十年史をしのぎ、世界を見据える「100年史」の編纂を――。

天国の「じいさん」、守田委員長も、きっと願っている。

創部90周年記念部史編集委員

田中喜久（昭和46年卒）

河野隆（昭和55年卒）

森田博志（昭和58年卒）

協賛広告

祝 修猷館ラグビー部 創部90周年



丸全運輸株式会社

本社営業所

〒811-2502 福岡県糟屋郡久山町山田2765

上峰物流センター

〒849-0123 佐賀県三養基郡上峰町大字坊所419

昭和30年卒 齊藤 雄

★ 祝 修猷館ラグビー部 創部90周年 ★

スナック
オジさんたちの部室

Kizuna



* セット料金¥5000で焼酎・ウイスキー・ブランディ飲み放題！時間制限なし！

カラオケ・モニター3台設置。 最大キャパ25名。

福岡市博多区中洲3丁目3-1中洲セレスビル403号 Tel:092-262-6708

レディースファッションの殿堂 AS COLLECTION



福岡市博多区上川端町4-226 Tel:092-282-5066

(有)アズ企画 代表取締役社長 酒井 歩 (S.50年卒・迷ウィング)

修猷館ラグビー部 創部90周年 おめでとうございます



本社 博多リバレイン9F

西日本シティ銀行業務提携会社

西日本ユウコー商事株式会社

経営の「ベストパートナー」として
豊かな暮らしの「ベストパートナー」として
皆様のお役に立てる会社でありたいと考えております。

保険部門

旅行部門

事業部門

西日本ユウコーツーリスト

本社

福岡市博多区下川端町3番1号 博多リバレイン9F

T E L : 092 - 271 - 5101 F A X : 092 - 272 - 2911

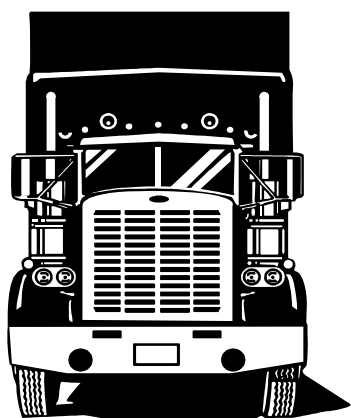
代表取締役社長 岡村 定正 (昭和48年卒)
専務執行役員 松尾 真典 (昭和52年卒)

車検・車両整備の

ご用命は！

創業 50 年

共 立 自 動 車 へ



弊社は、昭和 39 年創業以来 自動車整備のプロとして 運輸省陸運局指定の民間車検工場を営んでまいりました。

長年の経験と技術を活かし、大型・普通自動車の一般整備・板金・塗装はもとより、

ホイストシリンダーO/H・パワーゲート修理等の

特殊作業 も自社工場にて行っております。

車でお困りの事がございましたら、ぜひ弊社にご連絡下さい。
営業担当が丁寧にお客様のニーズを聞き取り、整備士と連携
してお客様に必ずご納得いただけるよう全力を尽くします。

見積り ・ 相見積りのみ

でも ご遠慮なく！

共立自動車工業 株式会社

代表取締役 濱田 政司 (S52 卒)

福岡県粕屋郡粕屋町大字仲原 2640 の 2

電話 092-611-6688

修猷館ラグビーOBクラブの繁栄と
修猷館高等学校ラグビー部の健闘を
祈念いたします

(昭和五十七年卒業)

上杉一正

加茂川丈巳

高畠由彰

十時広二

平林洋介

廣佐古勉

藤田拓司

松永慎一郎

幸重秀則

渡邊康宏

祝 創部90周年 修猷館高校ラグビー部

『不羈独立』の精神で唯一無二の修猷ラグビーを創り上げ

“目指せ！聖地花園”

“掴め！日本一”

西日本シティ銀行ラグビー部はラグビーのみならず

『地域社会への貢献』『あらゆるスポーツの発展』

に全力で取り組みます

西日本シティ銀行 ラグビー部

修猷館卒ラグビー部員一同

修猷館ラグビー OBクラブと現役の 弥栄を祈念いたします。

昭和45年卒業

猪 又 昭
富 永 茂 晴
原 田 隆
満 生 修 二
武 藤 英 治
山 内 章

昭和46年卒業

岩 崎 喜久生
尾 中 澄 夫
田 中 喜 久
中 原 裕 幸
松 尾 邦 雄
松 本 抄二郎

昭和47年卒業

池 田 誠一郎
岡 部 尋 之
坂 本 弘
辻 利 彦
矢 部 雅 幸

祝 創部九十周年

修猷館高等学校ラグビー部の健闘と
修猷館ラグビーOBクラブの発展を
心より祈念申し上げます。

昭和五十九年度卒業生

伊 藤 達 也 逢 坂 巖 鬼 塚 茂 嘉
島 塚 克 也 武 田 友 泰 中 村 公 俊
能 見 敏 昭 橋 本 実 堀 内 恭 彦
真 鍋 恭 光 武 計 幸 宮 田 剛
梁 川 剛 一 横 田 昌 明 吉 村 和 久
藤 井 健 二 (故人)

IDEX

IDEXは1926年（大正15年）石油商社として誕生。

石油・エネルギーを中心に、オート（自動車）、環境、オフィス、食と暮らし
5つの分野で人々に貢献する企業グループであり続けたいと考えています。

暮らしに、地域に、社会にとっての

「なくては ならない なにか」こそ、私たちの事業領域です。

石油も、石油以外にも、IDEX。

なくては
ならない
なにかを



イデっくん

株式会社新出光

代表取締役会長 出光 芳秀（修猷館高校昭和31年卒）

〒812-0036 福岡市博多区上呉服町1番10号 TEL: 092-291-4134

日本ペイント
http://www.colormony.com/

外壁・屋根の塗り替え、お部屋の壁や家具の塗り替えは、☎0120-168-410

山王店 **カラモニー博多**

TEL.092-413-1189

福岡市博多区山王1丁目14番10号(博多市民センター前)
FAX.092-413-1660

山王店 **カラモニー博多**

私はペンキ屋さん

TEL.092-845-1331 福岡市早良区城西2丁目10番48号

博多市民センター前

島塚塗料株式会社

福岡市博多区山王1丁目14番10号

TEL 413-1131(代表)

代表取締役 島塚 祐弘 (S31卒)

取締役開発部長 島塚 克也 (S59卒)

人と企業と社会をつなぐCreating Innovation

PORTAL

株式会社 ポータル

私たちポータルは九電工のグループ会社として会議・展示会・セレモニー・

イベント運営、人材に関わるさまざまなニーズをサポートしています。

私たちの事業の中心には常に「人」が関わります。

「人」を見出し、「人」を向上させ、「人」と企業をつなぎ、「人」と笑い、「人」と「人」を結ぶ。

ポータルは総合人材サービス企業として「人間力」を「人・企業・社会に」ご提供します。

May I support you?

「優秀な人材が
欲しい！」
そんな時に

- ☑オフィス系
- ☑営業系
- ☑医療系 等

様々な職種に人材派遣および、正社員・
契約社員として即戦力になる人材をご
紹介します。

「イベントが
したいけど…」
そんな時に

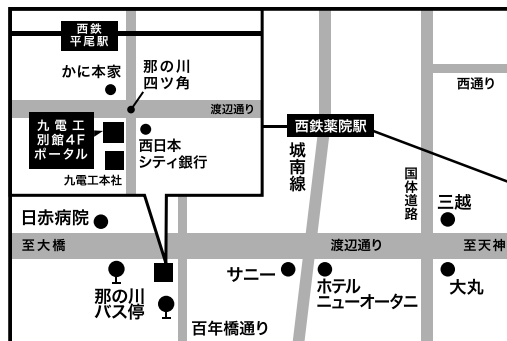
- ☑イベントの企画立案、実施
- ☑宣伝物の作成
- ☑会場設営からブース施工
- ☑MC、スタッフの派遣
- ☑運営・管理 等

企画・デザイン・施工・運営、展示物の
制作、MC・イベントスタッフの手配ま
で一貫してお任せください。
各種広報物の企画・制作も承ります。

「冠婚葬祭って
大変そうだけど」
そんな時に

- ☑パーティ
- ☑婚礼、葬祭

人生の様々な節目の
セレモニーを、信頼と安心で
ご提供します。



ポータルでは人材派遣のスタッフおよび
イベントスタッフを募集しています。
お気軽にお問い合わせ下さい。

株式会社 ポータル

〒815-0081

福岡市南区那の川1丁目23-30 九電工別館4F
人材事業部/イベント事業部/バンケット事業部

代表 TEL:092-534-6223

FAX:092-534-3587

<http://www.portal-inc.co.jp>



営業力 技術力 現場力

すぐれた技術で未来を描く、 九電工です。

バッティングにはボールの見極めや配球の読みといったすぐれた総合力が求められます。

九電工は、「営業力」「技術力」「現場力」を武器に内川選手級のすぐれた総合力を発揮。

広い視野にたった総合設備業として、街、人、企業とともに成長を続けていきます。

www.kyudenko.co.jp

Make Next.
九電工

修猷館高校ラグビー部創部90周年記念
部 史「闘 魂」ー平成17年度～平成26年度ー

平成27年4月発行

編集・発行 修猷館ラグビーOBクラブ

制作・印刷・製本 大商印刷株式会社
福岡市博多区博多駅南4丁目10番33号
電話 092(414)3855

[非売品]

